江戸名所圖會 十八

W245
20

W245
20

西村文庫

江戸名所圖會卷之七

摧光之部 同錄

- 鷲岡八幡宮
- 海編寺
- 本松
- 八間堀神明宮
- 田向院
- 猿江恩賜公園
- 猿江弁財天社
- 猿江稲荷社
- 猿江恩賜公園
- 猿江恩賜公園
- 猿江恩賜公園

東覺寺　祉勅願所
番取天神宮
一ツ家
芭蕉庵
珍地松
寶蓮寺
常光寺　六地蔵の小院　東近江
一番目
地蔵堂
藤の森
神木相生樟
建久寺
蓮華寺
古蹟桂現社　古木
柳ある妙見堂　七面堂
田上最教寺
大法寺　蕃神社　熊野神
中の鄉尾通の堀
多田藥師堂
さゝら井
本久寺
半濁利明文
若子堂
淨光明寺
法恩寺　蕃神堂
第六天祠
中鄉八幡宮
業平天神社
遠州秋葉山岩寺　末社
妙源寺
大川鴉の圖
長命水　牛乳を與ふれば乳多く出る故の號
長命寺　牛乳を與ふ　天柱石　隅田川
自莊庵回址
三圍稻荷社
最勝寺
隅田の宿
隅田の河
都鳥
靖七年歌碑　古文書
隅田川
隅田の河原
末廣寺　寺領
寺領蓮華寺　若子堂
隅田の堤　櫻春
梅若塚　回向柱
末廣寺
半濁利明文
若子堂
桂現社　末社
淨光明寺
法恩寺　蕃神堂
第六天祠
中鄉八幡宮
業平天神社
遠州秋葉山岩寺　末社
妙源寺
大川鴉の圖
長命寺　牛乳を與ふ　天柱石　隅田川
自莊庵回址
三圍稻荷社
最勝寺
隅田の宿
隅田の河原
末廣寺　寺領
寺領蓮華寺　若子堂
隅田の堤　櫻春
梅若塚　回向柱

江戸名所圖會卷之七

隅田川

梅堤之部　同錄

曰隅田川　圖文境界圖

富賀岡八幡宮

妙村元八幡文

海福寺

本誓寺

一蝶寺

木母寺

源八幡宮

三十三間堂

陽嶺

靈巖寺

靈光院

芭蕉庵舊址

一之橋辨天祠

白髭明神

水神社

橋場

總泉寺

待乳山聖天

淺草寺

三社權現

今戸八幡宮

今戸橋

待乳山

聖天宮

山谷堀

日本堤

吉原

浅草川

駒形堂

駒形

蔵前

首尾の松

柳橋

新大橋

兩國橋

兩國

兩國橋夕照

兩國橋夕涼

兩國橋夕景

兩國橋夕立

兩國橋夕雪

兩國橋夕月

兩國橋夕煙

兩國橋夕暮

兩國橋夕景

兩國橋夕立

兩國橋夕雪

兩國橋夕月

兩國橋夕煙

兩國橋夕暮

兩國橋夕景

兩國橋夕立

兩國橋夕雪

兩國橋夕月

兩國橋夕煙

兩國橋夕暮

兩國橋夕景

兩國橋夕立

兩國橋夕雪

兩國橋夕月

兩國橋夕煙

兩國橋夕暮

東覚寺　秋海棠　番取大神宮　常光寺　六角の泉院　小町の森　東辺地松　木相生椿

一遍上人誓願寺

慈光院

建長寺

萩寺庭中の池

紫右退法日もよし九方曼荼羅縁起英場

霊山寺　昔堂法蔵五十町　観音堂

押上最敬寺　七面堂

業平天神社

仲郷八幡宮

法恩寺　蕃神堂

大法寺　蕃神社　開帳祠

遠州秋葉山高寺　本社

中の郷尾辺の池

第六天祠

多田薬師堂

妙源寺

最勝寺

本久寺

さらし井

大川橋の図

三圍稲荷社

木下川薬師堂　徳性祠

太子堂

長命寺　牛御前　長命水　自社慶田址　柳樹　桜の堤

半田薬師堂

牛御前社　王子権現社　法華経よみ聖碑　古文書　開帳堂　境内

白鬚明神社　浅間　天狗石

浦地秋葉権現　代世稲荷の社　浅間

隅田の宿

隅田の池

寺嶋蓮華寺　本堂

隅田の池の水

隅田の堤　堤春景

鄙まる

木母寺　梅若忌塚　同像起

多聞寺

一の江妙香寺　虚像　二の江妙法寺　水神社

今井渡

今井渡口

半田稲荷社

小弓稲荷社

小弓八幡宮

行徳八幡宮

関川　水神社

庵渓

半田薬師堂

浩江福光寺

木下川薬師堂　徳性祠　木神文　浜神社

平井聖天宮　平井の渡　不動堂　地蔵

善養寺

一の江妙香寺　虚像　二の江妙法寺　水神社

鎌田妙福寺　聖徳太子御作　浜神社

夕顔観音堂

猿江の渡　猿江

木戸堰

弁財天祠　和宝宝

猿江恩賜公園

小弓公方屋敷の跡

浄興寺　琴深松

小弓公方の墓

葛西八郎墳墓

若宮八幡宮

清重稲荷社

関屋の里

若通寺　牛宮神社　紀響上人筆十字名号

葛西城御台所の墓

関屋天満宮　元天神

古墳の墓

善照寺　山号宮　本尊天祠　二王門　地蔵堂　境内

立石　南蔵院

善通寺

葛西城之旧跡

中川　同約束の水

多武峰　小松谷

繰瀬川

建部稲荷社

庵渓

半田薬師堂

浩江福光寺

木下川薬師堂　徳性祠

平井聖天宮　平井の渡

善養寺

一の江妙香寺　虚像

今井渡

今井渡口

半田稲荷社

小弓稲荷社

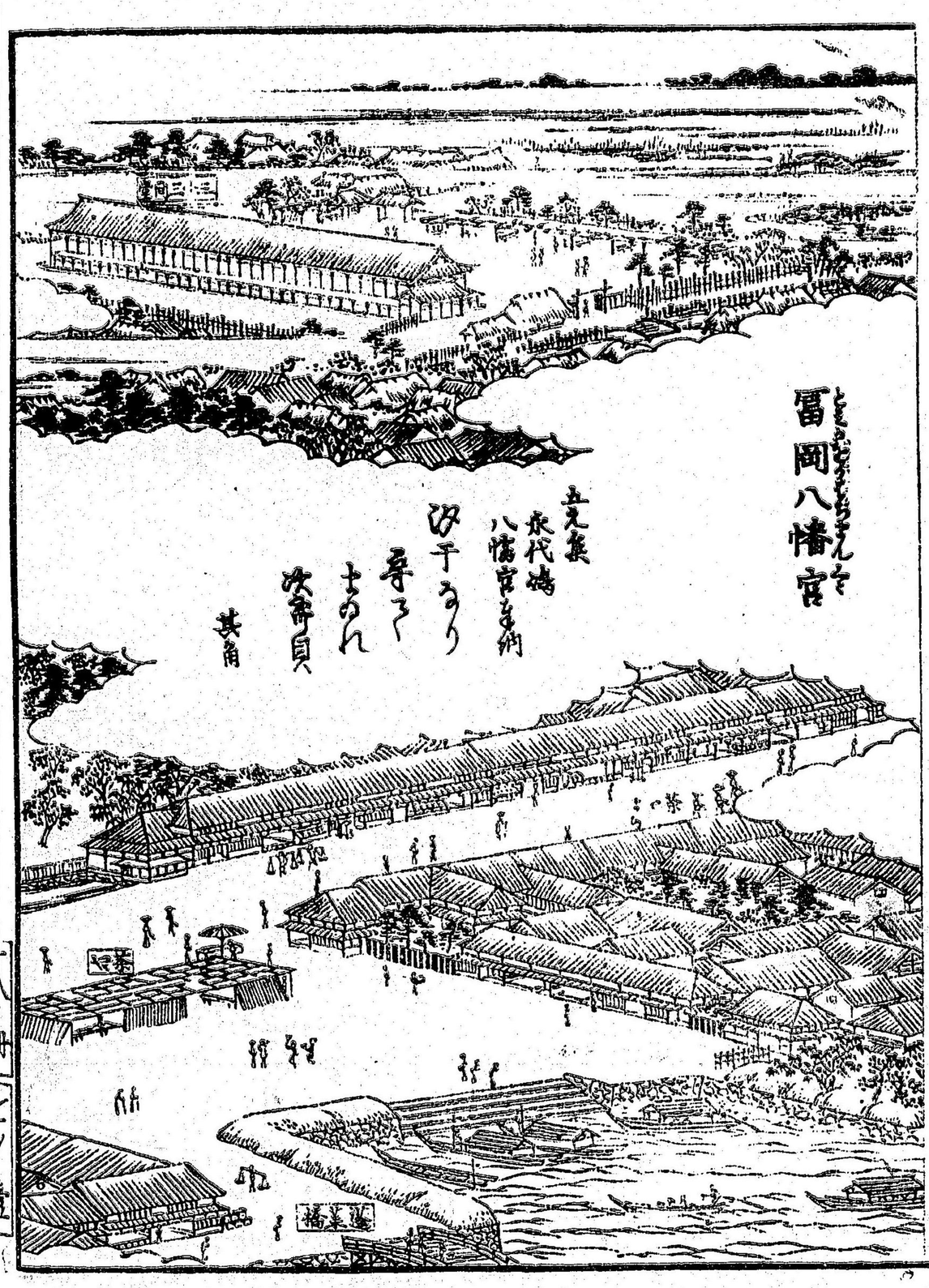
小弓八幡宮

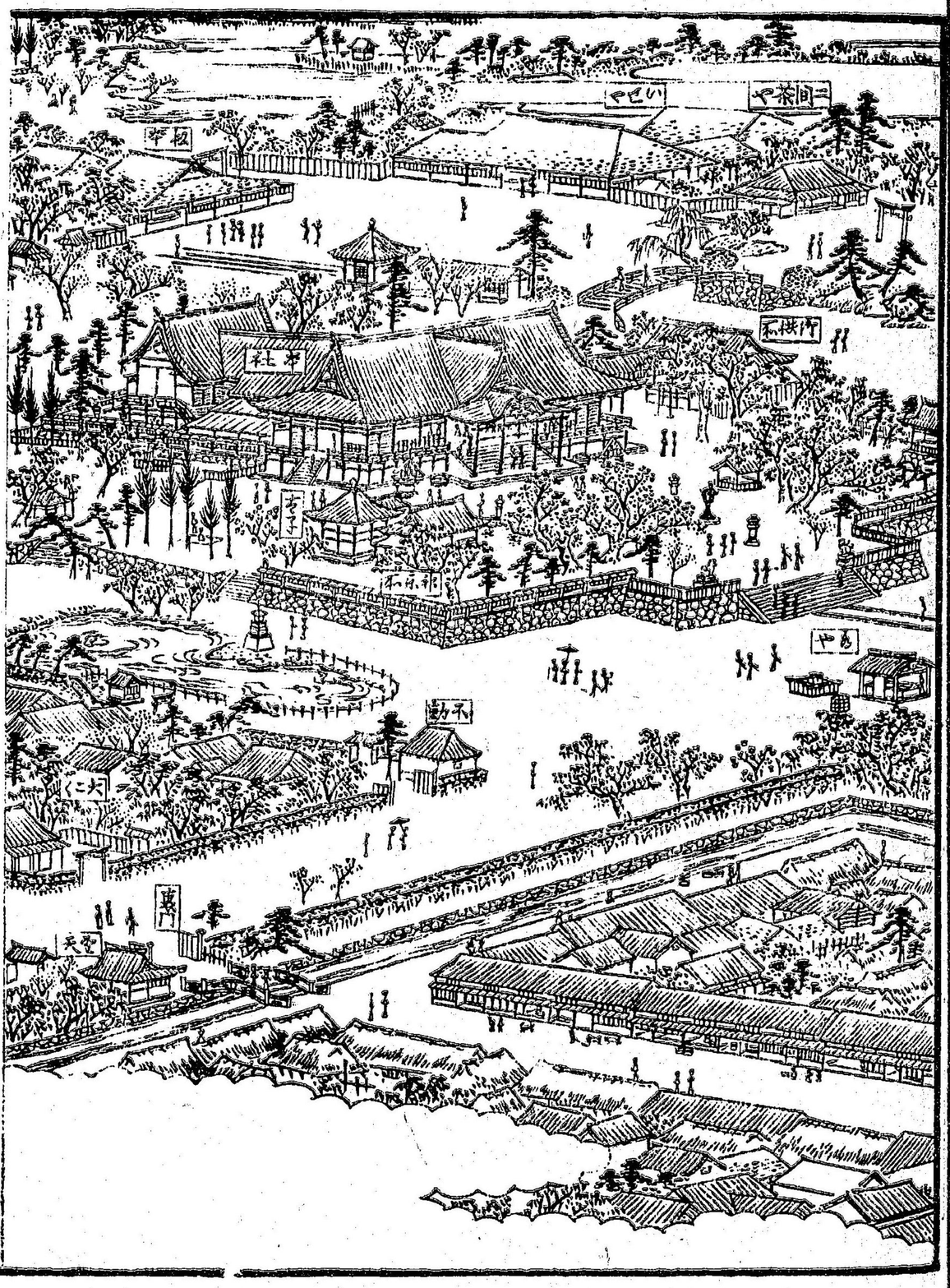
行徳八幡宮

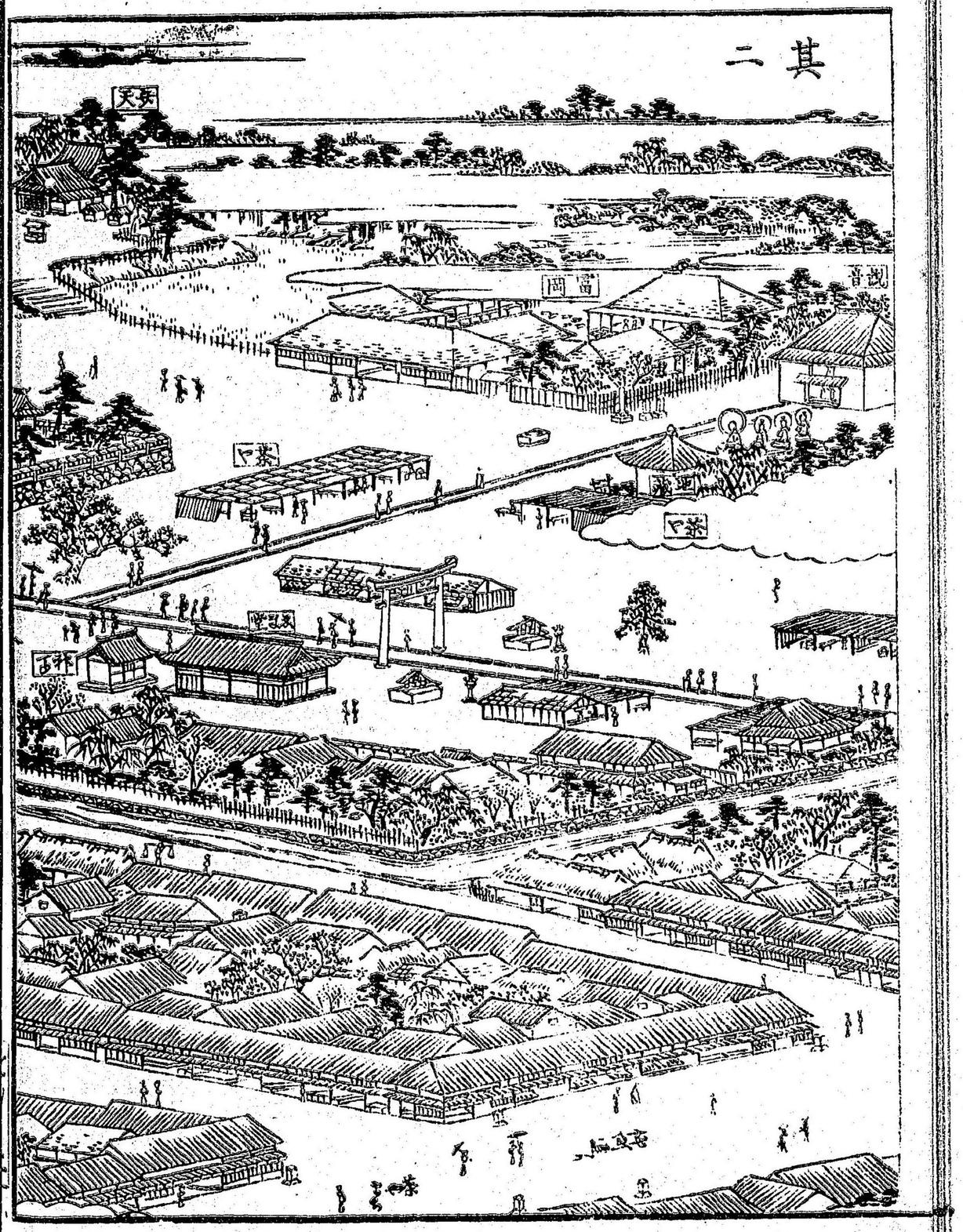
三連濱　同所ニ有
同淀竈圖
甲宮
圓光大師流罪ノ事
長福湊
新利根川
迦羅多起瀬
市川渡口
市川ノ城趾
根本橋
總寧寺　太田乙法ノ地ニ有
淀竈明神社　同境
國府臺　羅漢井　石橋
敵ヲ葬ル旧址　跡ノ岩ノ事
古戰場
同古戰場
旧府城址
金光明寺
勝門　仏宝
釈迦堂
境内猪山
境石
持主坂
真間ノ弘法寺　楓古樹　男児名号ノ事
真間ノ継橋
真間ノ入口
真間ノ井
真間ノ手児奈旧跡
真間演
八幡不知森
真間入口
弘法井　清水
中興日出上人墓
宗門最初法論四ヶ所ノ一
葛飾八幡宮
弘法大師作
妙正池
妙正寺池
弘法井　清水
勝鬘院
江戸堂　延命地蔵
勝鬘院ノ井
勝鬘院ノ手水鉢
勝鬘院ノ庫裏
開山墓
葛飾八幡宮
葛飾神社
葛飾神社
妙正大明神
妙正大明神
洗川
洗川
石等

意富比神社初詣座ノ地
天道念佛
遠ノ濱
九月廿日祭禮圖
裏見嶽
慈雲寺
茂沼神社
意富比神社

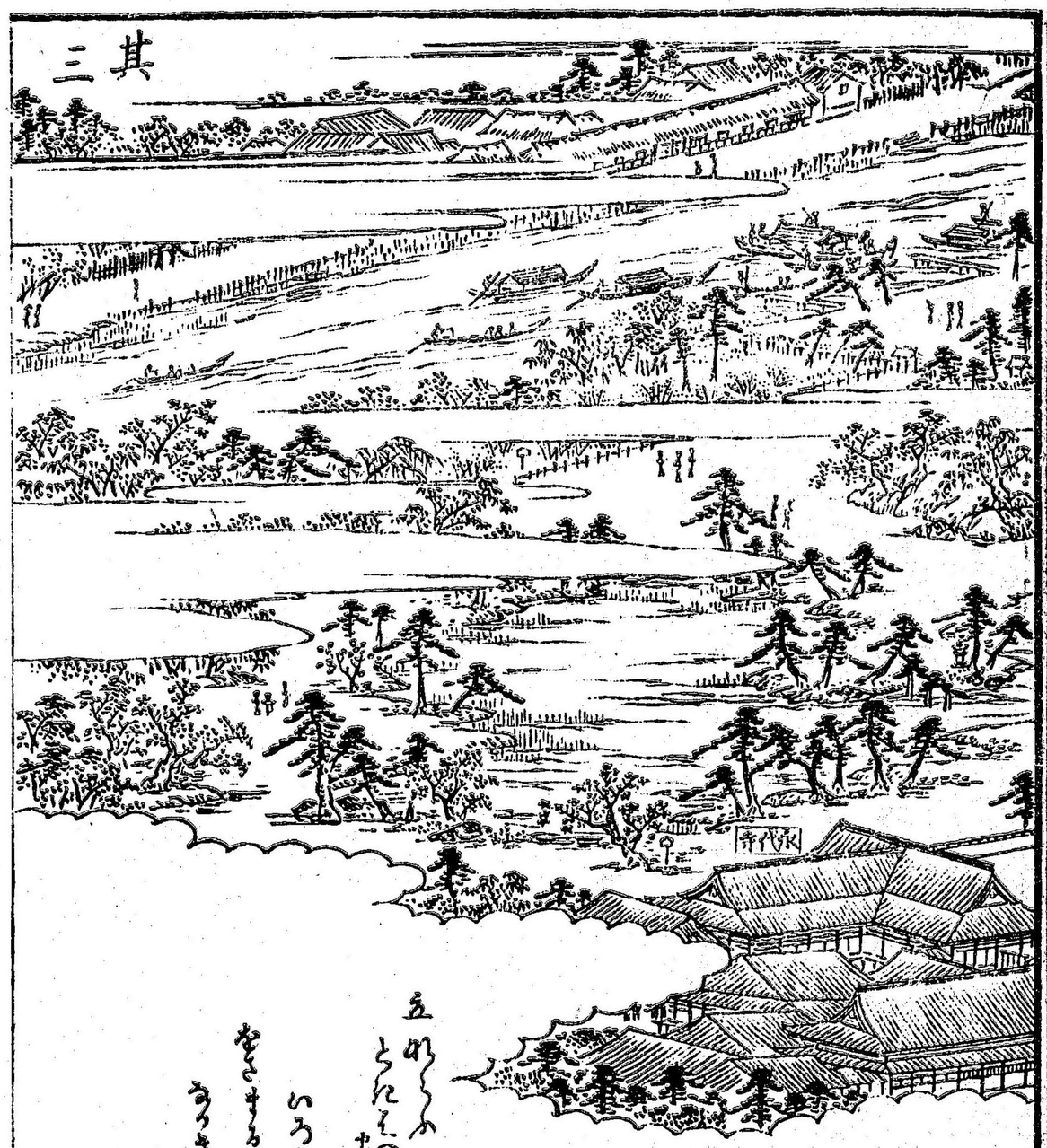
社内物ノ名ヲ記ス中ニモ
二ノ字ヲ添ヘタルハ
ミナ〳〵名ヲル〵
本殿
大神殿
神ヤ
そでノ
神水
唐門
唐香
二ノ鳥居


富岡八幡宮
永代橋
八幡宮ヲ納
共角
神ヤ
橋ノ


社本
本社
末社
神楽所
手水舎
絵馬
茶屋
休所
大鳥居
裏門
天満宮

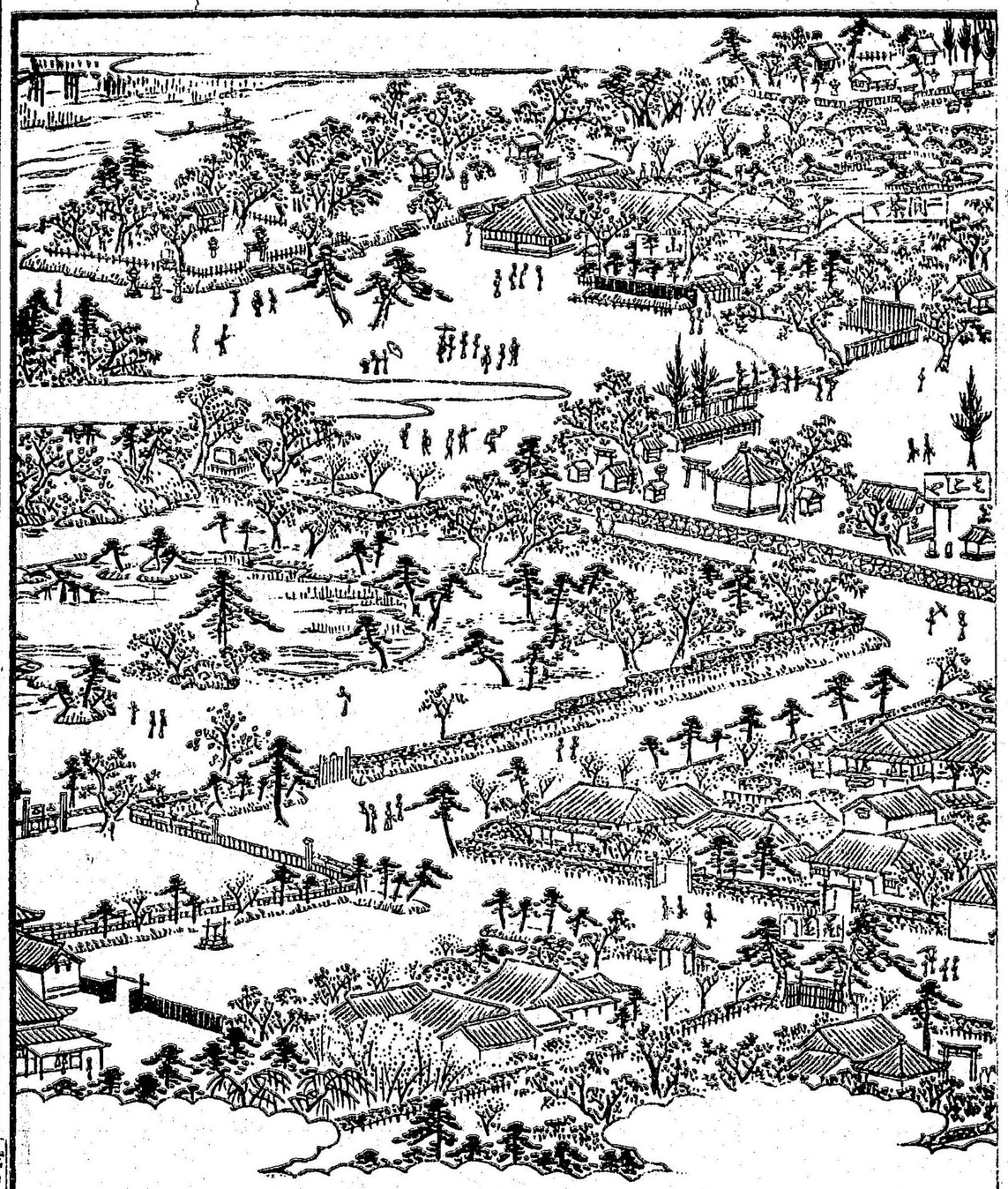

其二
天満
茶屋
茶屋
茶屋
茶屋
茶屋

三其



五月ふつかのまつも
いろそへて
なをまさる御代の
うき代の
ろう

仁和寺宮



富岡八幡宮　深川永代嶋にあり別當は眞言宗にて大栄山金剛神院永代寺と號す　江戸名所記に寛永五年の夏弘法大師の靈夢ありて高野山の両門主碩學其外東國一流の納僧此永代嶋に集會し一夏九旬の間法燈をかゝげ列祖弘法大師の御影堂を建て眞言三密の秘蹟を講ぜられしより以後神前より龍燈のあがるゆゑありと云云

本社　桑神　應神天皇　神影八幡宮右天照大神宮左八幡大明神　三座　當神作

相傳往古源三位頼政當社八幡宮の神像を尊信せし其後千葉家又ひ足利將軍尊氏公鎌倉の公方基氏又管領上杉等のあがめ仕へ太田道灌崇敬殊に厚かりし道灌没するの後此神像の所在も定かならざりしに寛永年間長盛法印靈夢ありて東の方砂村の海濱より元八幡宮と称する當社の同地とかや　依此地に當社を創建せしとぞいまさら華構の餘よかゝるをや唯茅茨の風基寶山師正保三年丙戌永代寺周光阿闍梨の法筵とひらき寛文四年の頃靈夢を感じ宮社を経營せんと日あらずして落成し結構備りしかばこゝを以降神光日そゝ新なり　江東第一の宮居と

富岡八幡神祠石華表　銘　并序
維著雍敦祥之歲部下人某等拾漆名戮力挙錢
建冨岡八幡祠石華表凡厥高壹丈伍尺左右中
間稱焉石以代木備不朽也厥石取諸相之土肥山
鳥蓋卿以文之鳳卿開之國家勞及自禽云鹵具狀
采慈采蘋可薦於亀神惠信來誠
由中也而況於不朽周之呼歸風之呼自於是乎観
人載心矣神之歆可知也因叙厥載勒右柱
銘以繫左柱亦其所需也
銘云
繫昔應神　帝悳恊天
威霑顯赫　奕世且千
惟石之柱　磐之祠前
敦忠祓肅　跡于豊山之遷
遊矣東海　齋祠壹公
憩祈敬聲　私禱相延
幽宮隆隆　福鐘永年

永代寺山門

每年三月廿一日より同廿八日迄の内

山開　每年三月廿一日弘法大師の御影供を執行ふ此日より同廿八日迄開社列參永代寺の抹泉をひらきて諸人に見物をゆるす是を俗に山開と號す

參禮　關東八月十五日は駿河臺に此日神輿三基本所一の場の南藏前舟倉の前なる行祠へ神幸同日歸輿ところの祭記ハ寛永二十年癸未八月十五日初て執行ありしより連綿として今に至る江戸名所記にもこれをしるせり夢の浮橋四年の秋天下暴雨の神祷のため相州鎌倉鶴岡八幡宮の法式を摸して行ひしより後ずゐぶんの假屋掛數をとゝのへ見物と貴賤市をなすは同書に見えたり流鏑馬　鎌倉の流鏑馬をうつしむかしの假屋掛數をとゝのへ見物と貴賤市をなすは同書に見えたり流鏑馬の餘風ともいふべし

當社門前一華表より内三四町より間ハ兩側茶肆酒肉店軒を並べて常に紅哥のたえ絶ざる社頭なり二軒茶屋と稱する貸食屋抔あり遊客絶ざる牡蠣蜆花蛤鰻鱺魚の類ひを此地の名産とせり

三十三間堂　同所三町ばかり東の方にあり相傳ふ寛永年間或人こゝに九年大佛の弓師備後といへる者射術すぐれ古の洛京師蓮華王院を摸して三十三間堂を創立ん事を企依怙地を揚ん諸藝を勤進して建立の功を募るとかや於て同十九年壬午十一月普請落成と

其二

其二

の四方を今は夫婦崎と呼ぶ又三十三間堂の旧地なり今は町名となれり俗間堂前と唱ふるも三十三間堂の訛なり

田緑の色に催ふて灰燼となりしかば其後今の地へ移されたりとぞ

三十三間堂矢数順よ慈眼大師の愛起るより又一説よむり歩川部直義と云る射術一流の武士ありしを建立ありしとぞ江戸剃髪の遠く相撲よりも当を吉祥院と号す本尊

弁財天

同所東の方弁財天女の像は弘法大師の作とぞ相傳元禄年間深津氏正隆

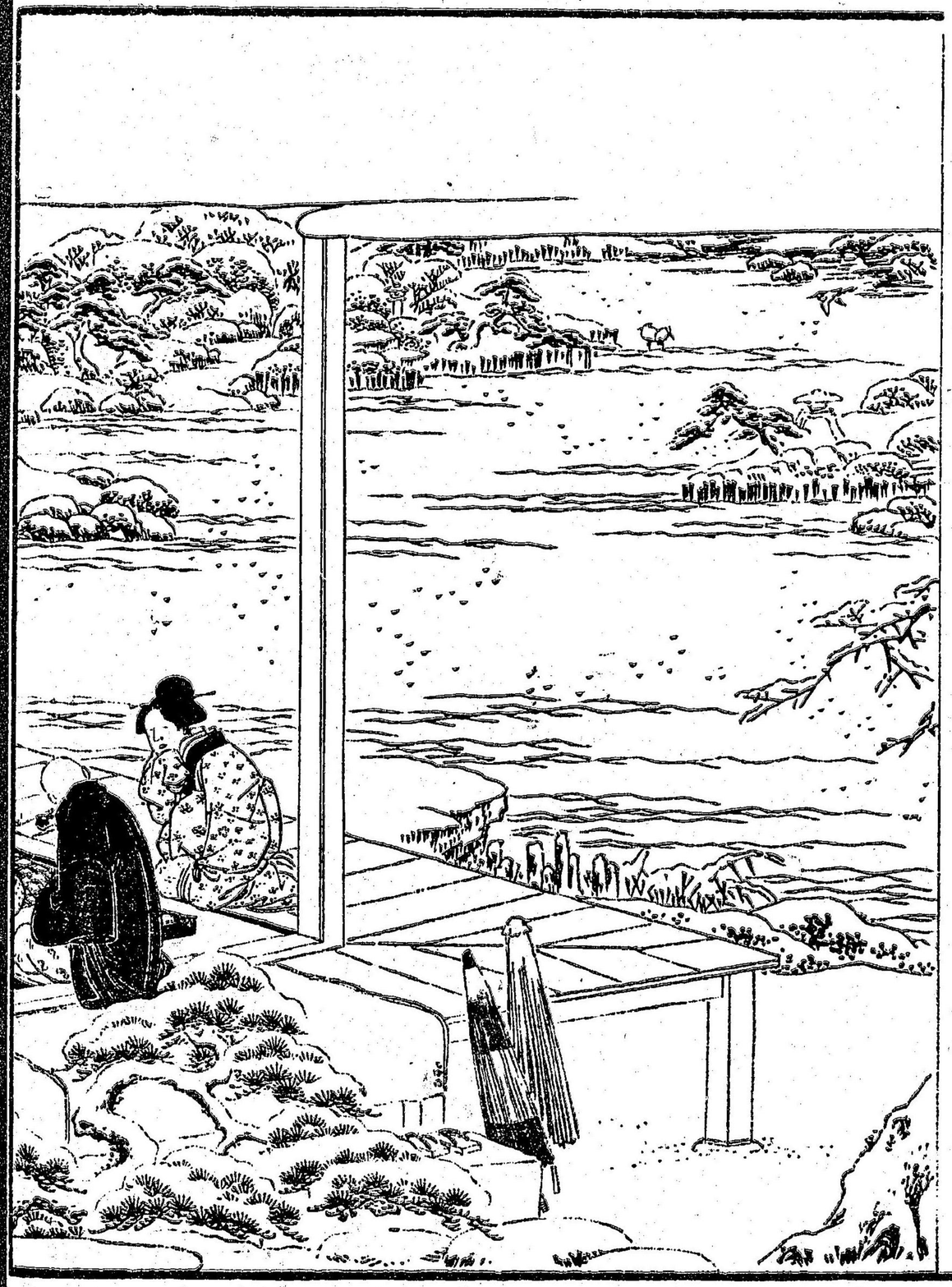
台命を奉じ八幡宮を東の方十三年庚辰護持院の大僧正隆光

此地は海岸ゆゑ佳景なり殊更弥生の潮晝よ都下の貴賤袖を連ねて真砂の文蛤を拾ひ又は採菜を摘むもおもしろく春色を添るの一奇観たり又冬月千鳥も名を得たり

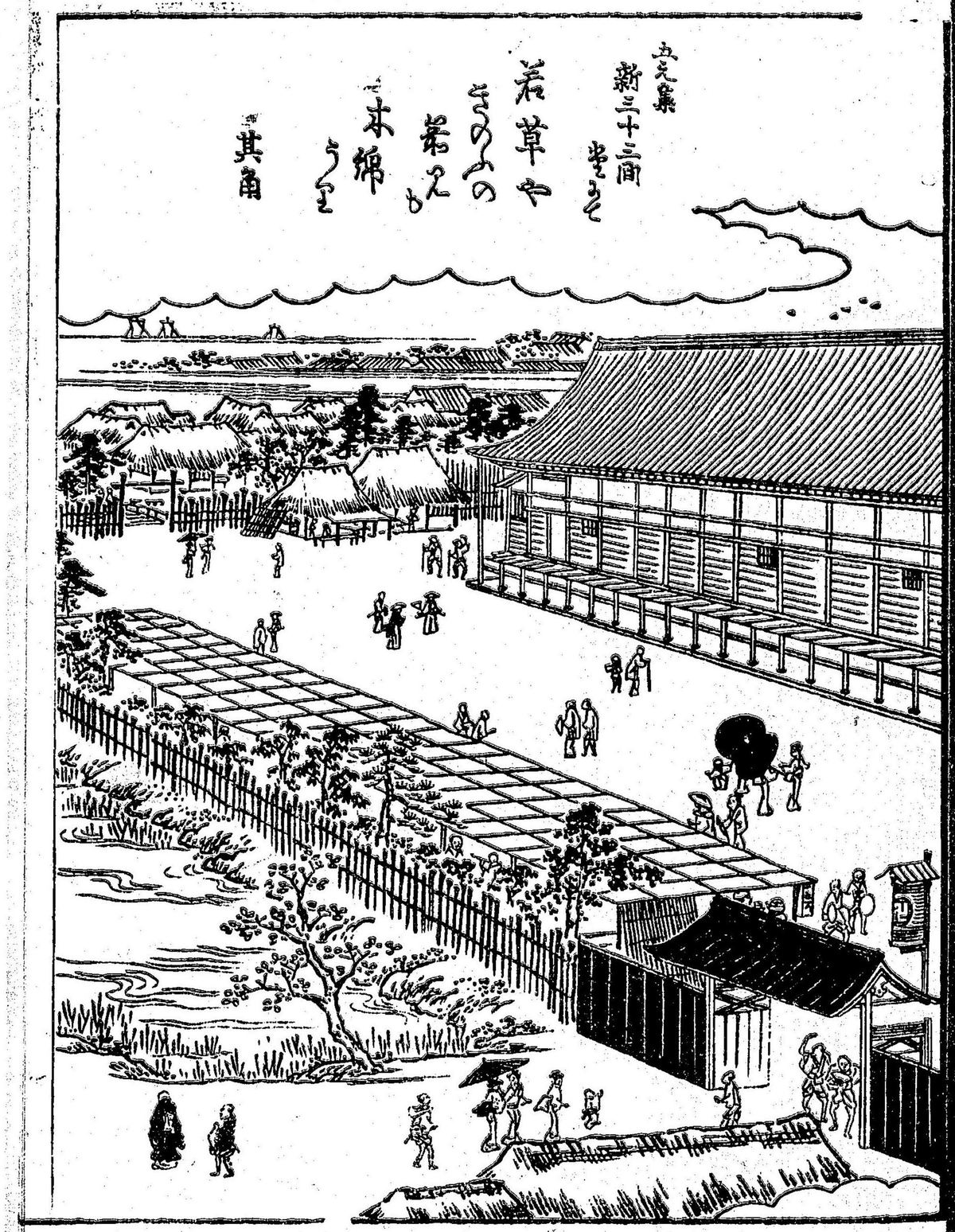
長光山陽嶽寺

本尊観音大士の像は恵公僧都の作なりと云向井氏忠勝開

二軒茶屋
雪中遊宴之図



三十三間堂（さんじゅうさんげんどう）

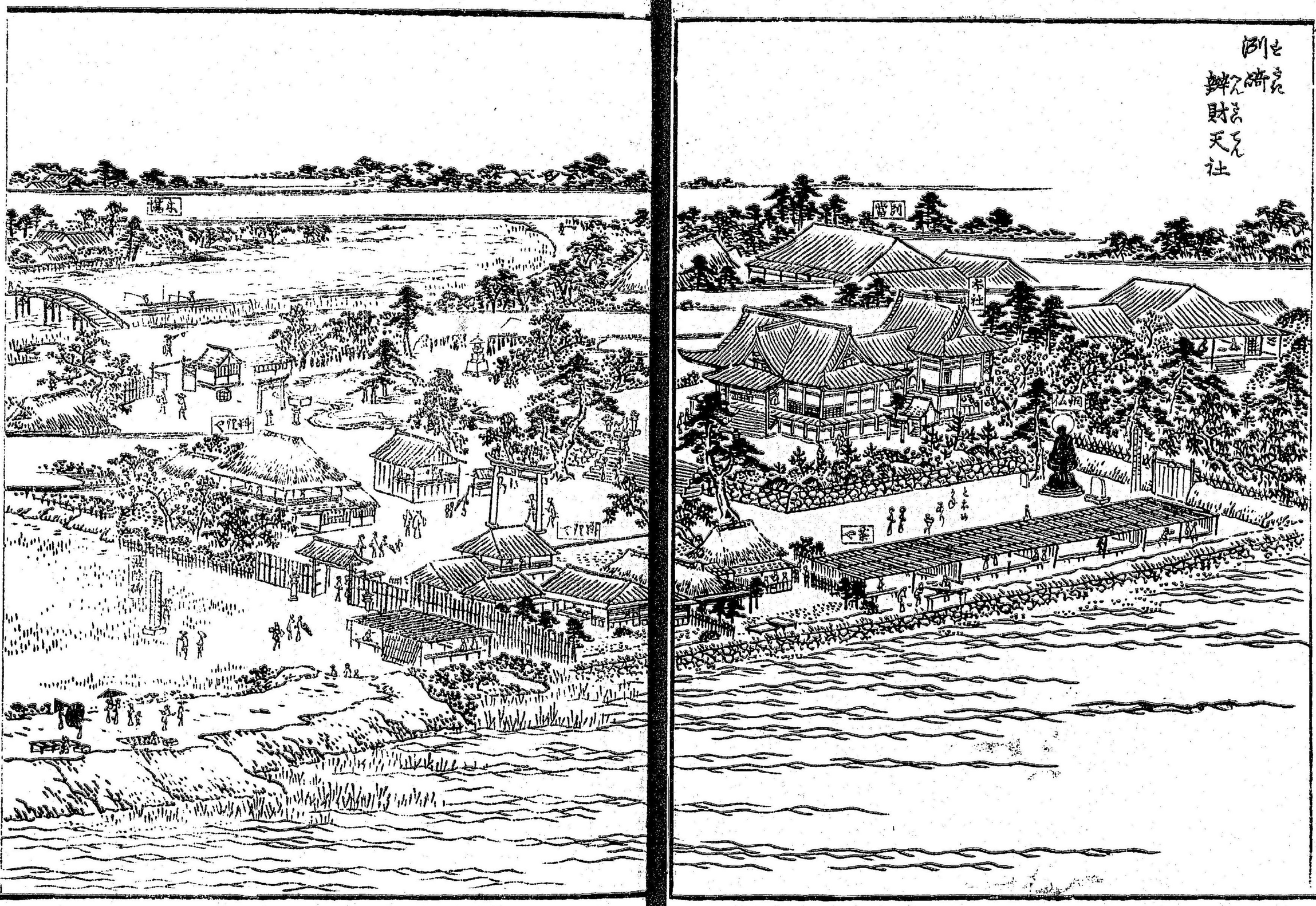


六条堂

新三十三間堂

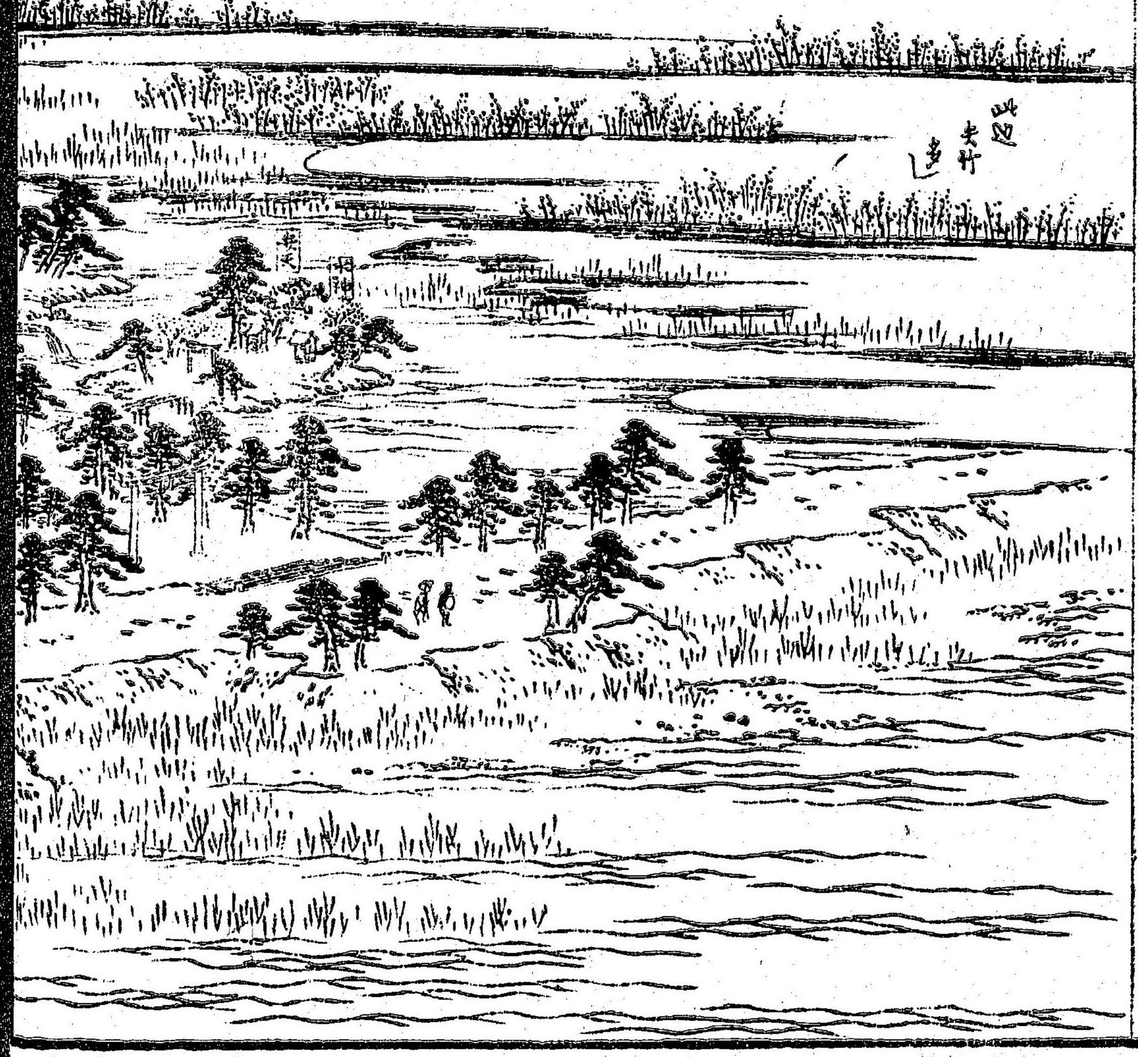
若草や
その子の若え
も
木綿
うた

其角

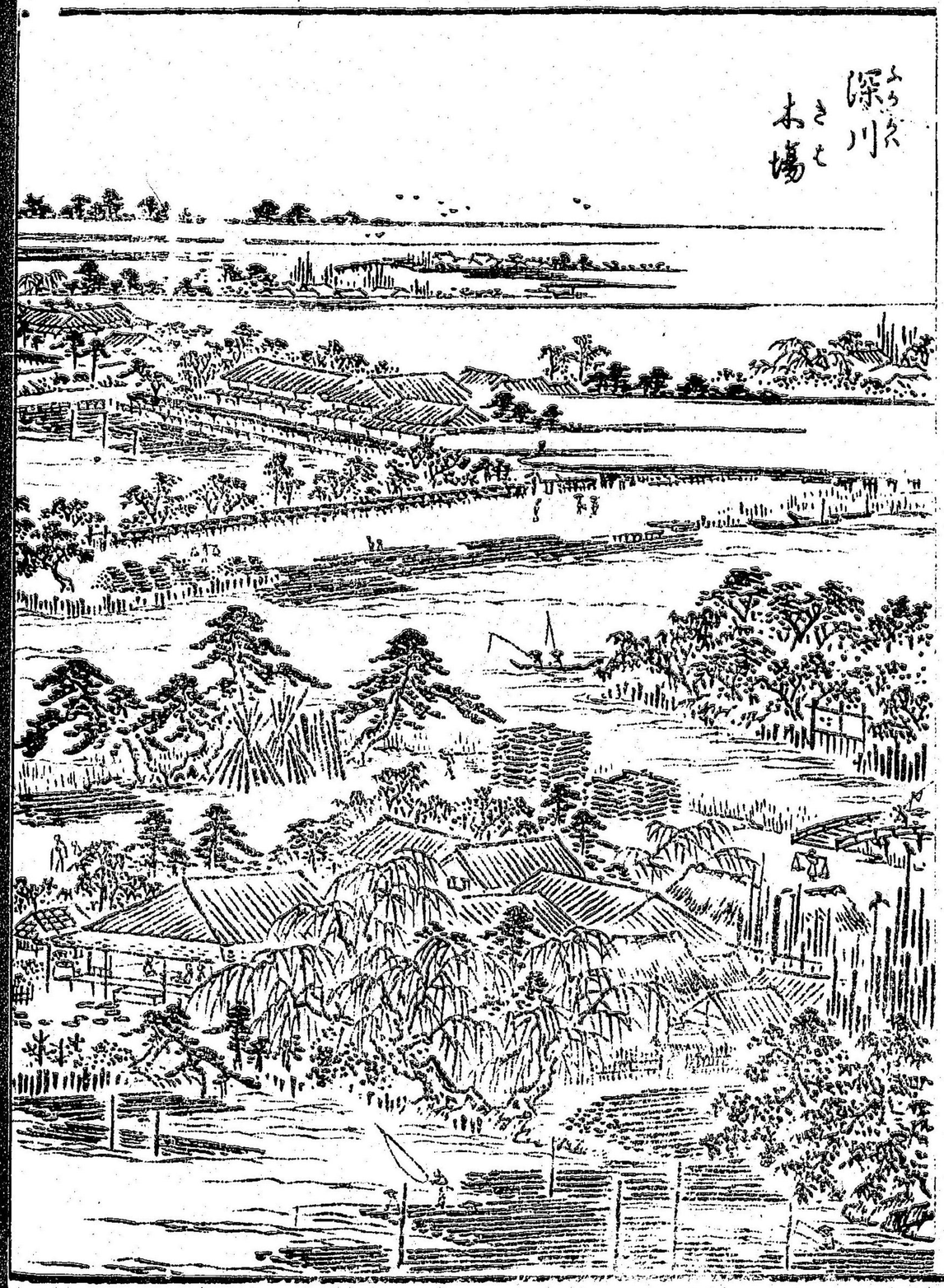

本堂
本社
弁財天社

砂村
富岡元八幡宮

洲崎弁天より
十八丁あまり東
の海濱つゞきの
深川八幡宮の
門也



柿喜妙
葉の
色
ふるさと
みやこ
わすれ
宗瑞


ふかがわ
深川
きと
木場

基の精舎ゟ〻文室和尚を
開山と
勝嶽の麓井
和尚の相別三崎見
桃寺白室和尚の法号ゟ〻
見桃寺も領主向井氏
出山釋迦如来像
立像二尺ゟ〻
和尚の需ニ応し
彫刻ゟ〻
二代目央一蝶墳墓
當寺開塔の中
ゟ〻
永壽山海福寺
同所寺町通ゟ〻中程の右側ニあり黄檗派の禪林ゟ〻
江戸觸頭二箇寺の一員たり
萬治元年戊戌の創建開山ハ隱元禪師
中興ハ鴈本和尚ゟ〻本尊釋迦如来左右ニ迦葉阿難十六阿羅漢木
の像を安ゟ〻開山隱元禪師の肖像もあり

佛殿　額ハ二重　大雄寶殿　永祖ゟ〻
揭る筆ハ開山隱元禪師の
筆ゟ〻

鐘樓　同　額の揭る筆ハ七世
財別和尚の筆

聯　左右の
大鴈の筆

聯　同　額の揭る筆ハ
開山隱老和尚永令垂不朽
之劫火熾起炎燐殿宇巨
刹之冬本願忻然鳩金重新造焉
及宇竣工如事來七
十一翁隱元
八十一閱
山洪鐘者覽文正
爲大檀田園請銘予
也時天和二年壬戌
等諸者同氏思失先
已之
遂再擧此以鐫其上銘曰
大化壞內
洪音嘹嘵醒覺群生
返聞自性
永劫風
化家國昇平
聯謹題

天和三年癸亥小陽吉日
永壽山海福禪寺住持
檀主　石川氏正之
正茂
治工武州江戸居住中村喜兵衛藤原正次

臨濟正宗三十三世
住持沙門獨木源和南謹識

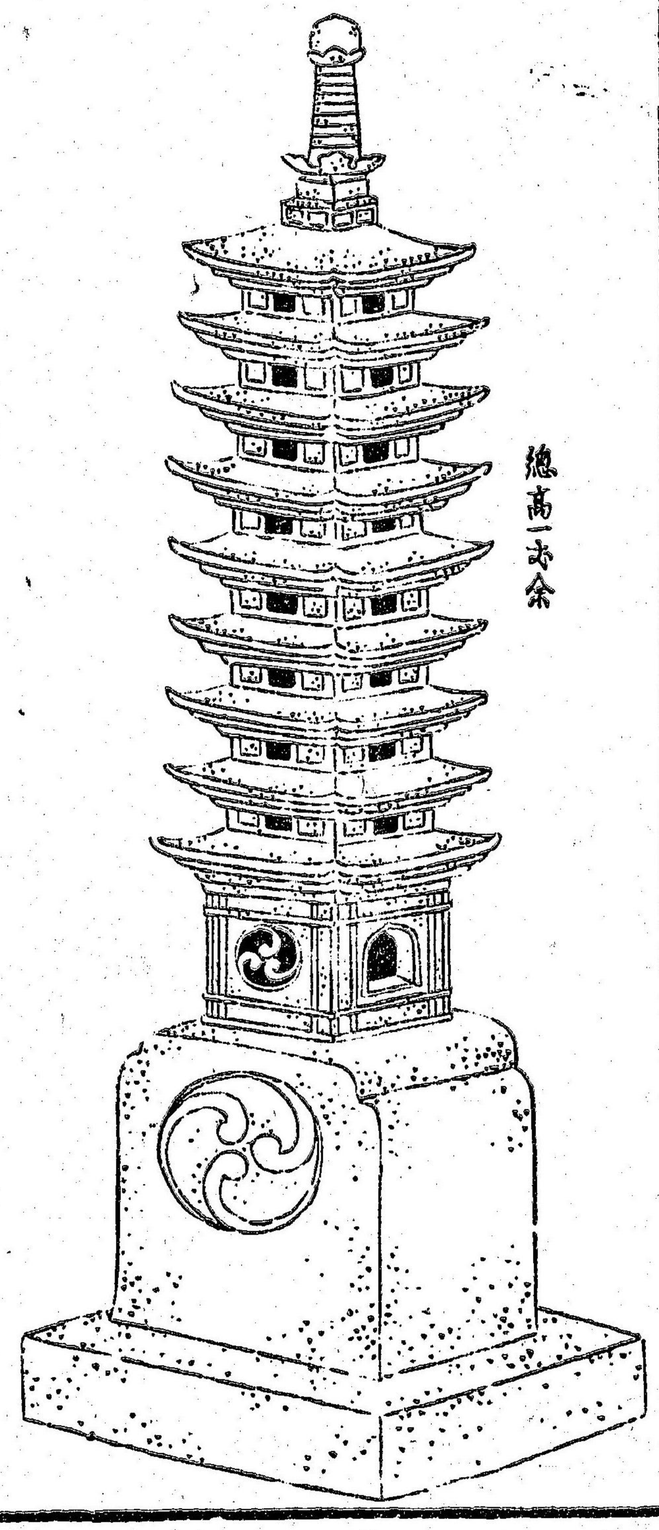
九輪塔　寺境池のかたはらニあり高一丈ほどの石の塔ゟ〻相傳ふ武田信玄の
ものゟ〻とゆゑ上屋民某ゟ〻これを持行んとせしに遂ニ
建ることゟ〻

佛殿　額ハ二重　大雄寶殿　永祖ゟ〻揭る筆ハ開山隱元禪師の筆ゟ〻
鐘樓　同　額の揭る筆ハ七世財別和尚の筆
聯　左右の大鴈の筆

鐘樓　天王殿　額ハ開山隱元禪師の筆ゟ〻

天王殿　聯ハ開山隱元禪師の筆ゟ〻

妙相端嚴丈玉毫長現瑞
盖門弘廓千秋後海宏開



總高一丈余

採茶庵舊蹟　同所平野町にあり俳諧師秋風子の庵室なり秋風本國は
參州にて秋山氏なり鯉屋と喚へ大江戸の小田原町に住て奥詹たり
後隱栖して一元と号と　裏翁裏翁の号あり常に俳諧を好み擅林風を慕ひ
のち芭蕉翁に俳諧を遊ひ寛元六十年翁常に奥せられ
ること甚し来ハ西三十三箇圀秋風ハ東三十三箇圀の俳諧奉行なり

と　次の芭蕉翁の追悼の連句に秋風一よ芭蕉翁の号あり秋風ハ
墳七　　寛保十七年丁酉六月十二日八十六歳にて没せり西本願寺の中興なり

秋風白集　　予閑居採茶庵をとひ
秋萩をうつしうへたりとかたりぬ
雨雲もとほざけぬ萩の枝

秋風

ものもとれよのうまそ

義ひろくひろうえうつしくさ

時雨

深川や月も時雨る水の音

深川ハ

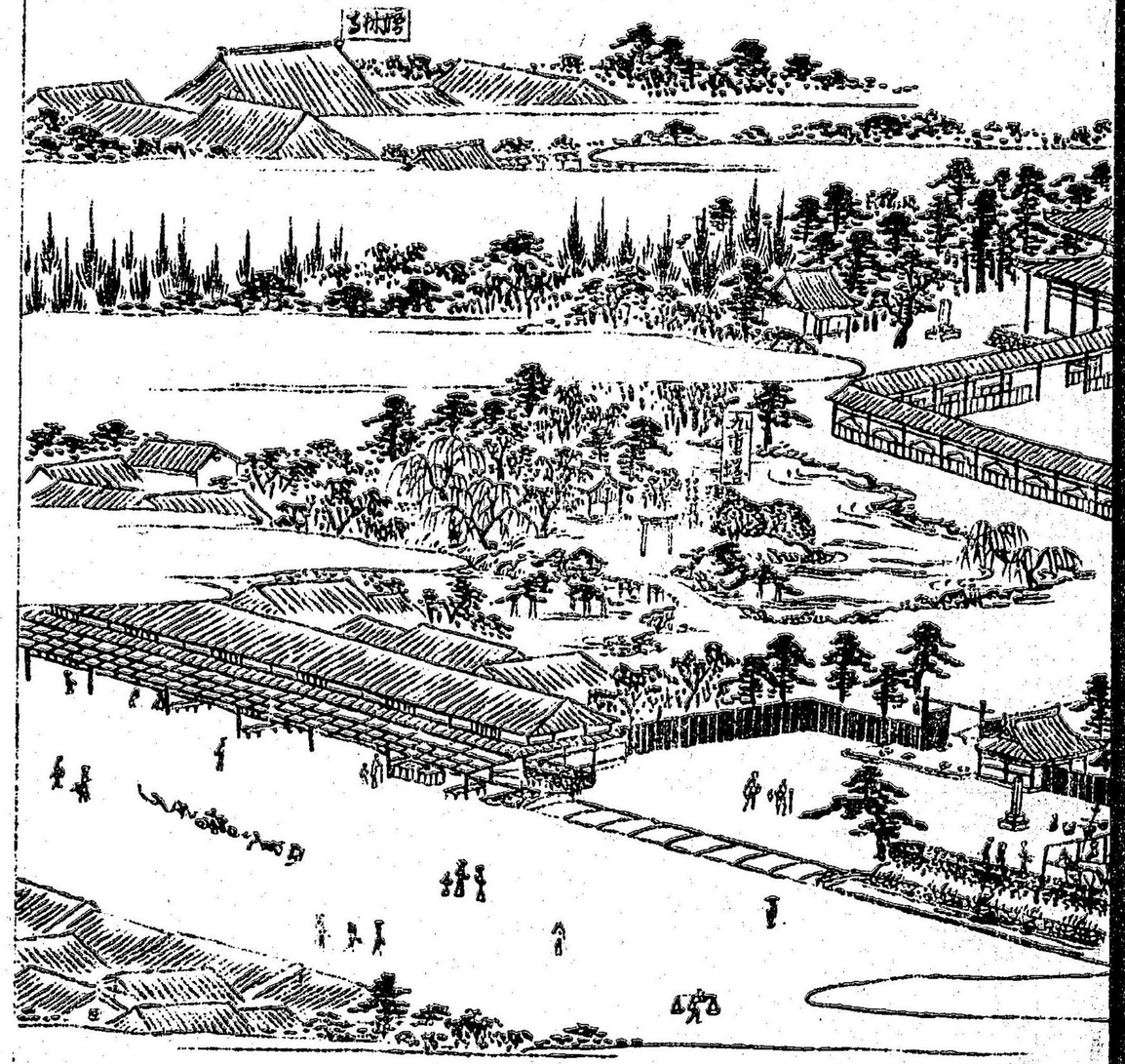
川の音蛙の起臥とうとし

法苑山淨心寺　同一通り正覺寺橋より北の方右側にあり日蓮宗田舩支
圀寺延山と屬せり身延山の弘通所と称せり萬治元年戊戌創建の
本院なり開山ハ通遠院日義上人と号と中興ハ覺成院日念上人
たゝ本尊ハ釋迦如来の像をおさ

海福寺

武田信玄の持つてきたといふ石の湯壺基

堂前北の傍ら



祖師堂（本堂の左にあり日蓮上人の像を安ず）　七面堂（同前延山奥の院の七面と同体なり）

相傳當寺淨公院殿妙秀大姉の菩提を吊いせんがよ御建立あり〳〵精舎ありと當時淨公尼小堀正一入道宗甫の妻なりと

寛永十八年辛巳　大樹御誕生あり〳〵頃正一入道の忠心を補ふの一分よ備んと春日の局よ執て御乳母とせり

大樹を育〳〵まゐらする故よ淨公尼卒するの後も猶生前の勤労を思召出されし萬治元年戊當寺境内若干の地を封〳〵楊ひ又堂舎経営の料として大よ資財を喜捨〳〵ひ日義上人をもて當寺開山

ならしむ乃淨公尼の遺願を建又香燭の料とそ同三年庚寅を附せらるゝ

道幸山靈巖寺　日〳〵北よ隣る淨土宗関東十八檀林の一室ありて宏壮の（淨土宗の境内よりは隣の境内なり）

梵刹なること幸尊ひ阿弥陀如来開山の靈巖和尚先

傳よ姓は里見氏南総小糸の産なり十三歳同縣青龍寺の学僧（寺は今廃せり）の室よ入剃染と其性明敏よして學ぶ檀林の業〳〵（寛永十八年四月一日他國より天狗の如き賢のく或ハ強剛寿中の老姓八十餘に氏泊津淨運院開山の法嗣なりと和尚問剃の請合故當まゐり此寺を

寺産を附せらる資舎僧坊豊を

七一銅像の地券ある大江戸六地蔵の一員ありて總門の内正面よ對〳〵毎年四月朔日より同十日まで

ひらく道俗群詣せり

開傳寛永年間當寺開山靈巖和尚或日大江戸の東浦を顧て侍者のこゝ謂て云く我大益を此地よ建む侍者のこく江潮浪高く鉢盂底空〳〵爭巨擘頑梁を架せん師笑こく俟夫日あらん於是師北蹤を筆〳〵諸檀家を勧勵と一簣毎よ十念〳〵て脈譜成結縁す

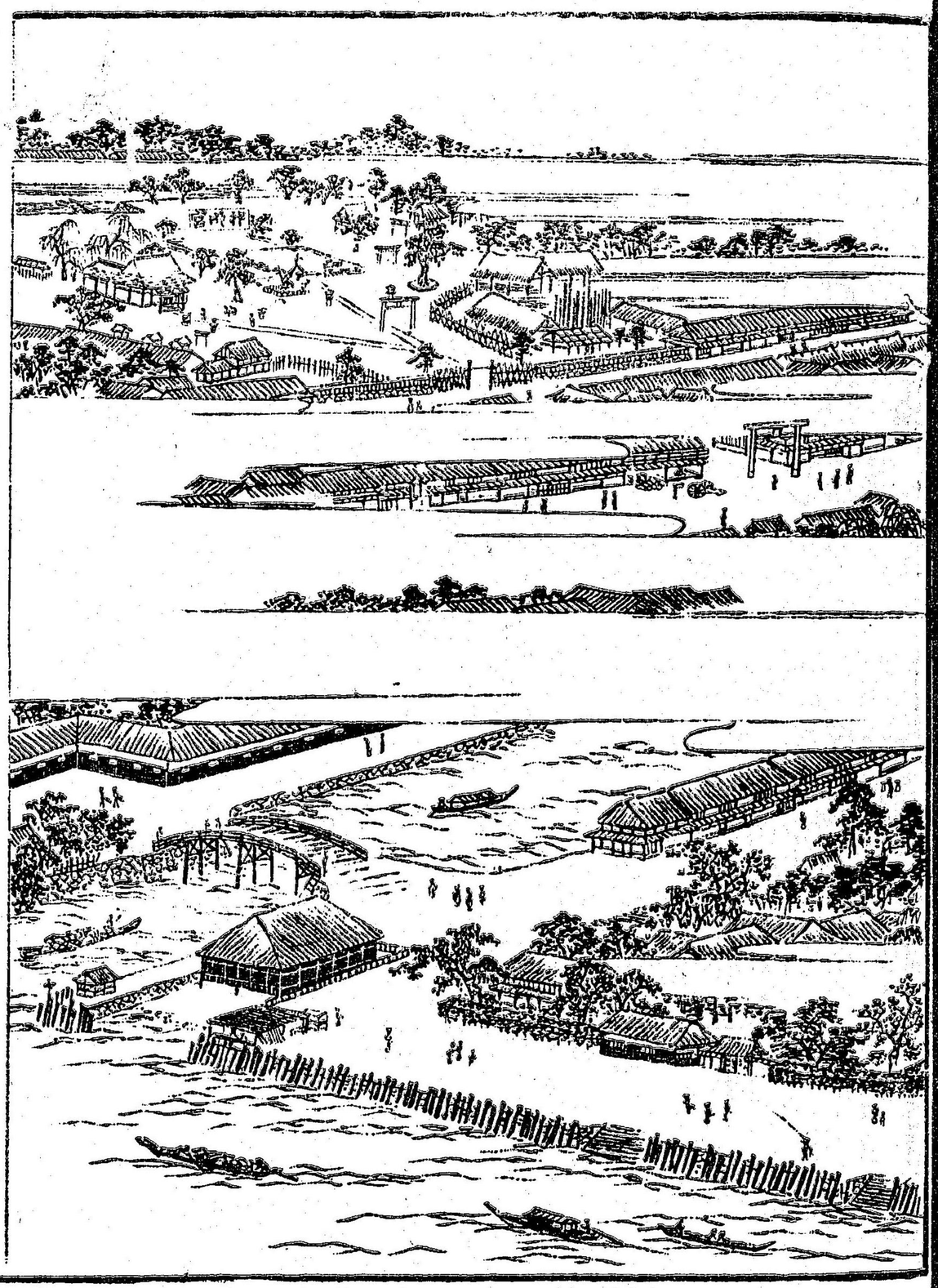
ら故小四輩競厳廣汀日めらと〳〵陸地とるの（今靈巖嶋と称するの其旧地也）其比早く

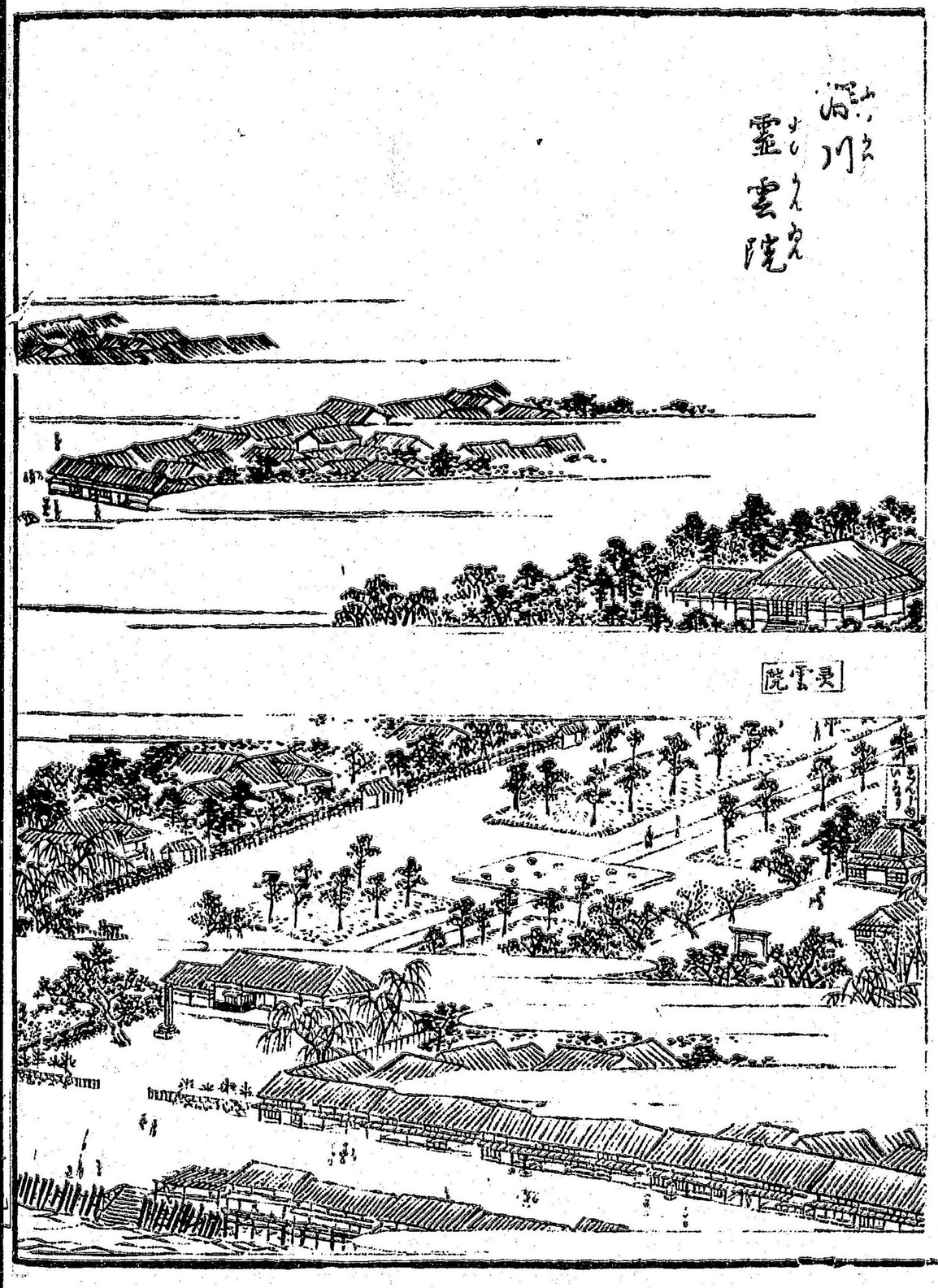
成て境内を開創〳〵靈巖寺と号とこゝよ於て學ぶ資五十石をゆか爾法幢盛よ起て五百の義龍順よ蟠る故よ阿山和尚の世尚寺第二世祖運社大尊

頓證寺と号す　明暦丁酉の回禄に悉灰燼となるの後今の地に移
さしむ其須弥今の地も海濱すして輒寺院構営もあり
あり〳〵成打碩和尚　打山和尚の事あるよりて
興澤九品佛の宅基と　十方より勧進して地を築固め諸
堂伽藍建立せらるとぞ
當知山本誓寺　重願院と号と同通りの向側よりあり浄土宗江戸四
箇寺の一員たり　京都知恩院より届り　唐佛の門弥陀如来を本尊とす
相傳此本尊小相州小田原の漁者其詳よりも　魚網を洗〳〵て彼地の海中
小得て後霊示ありて也當寺よ安〳〵
あり〳〵傳蓮社曜誉　酉冏阿和尚　弘綱寺の第二世也　創建〳〵藤枝氏冏基の
浄舎あり〳〵文禄四年丁未　巌命よ依寺を大江戸よ移す　其旧
地ハ今の汐留内　貞蓮社大誉上人　文旨賀和尚中興の冏祖とする　傳燈系譜よ委
昆布汐門の辺あり　俗称ハ田中氏相州小田原の人なり　其後馬喰町の辺へ地を賜ひ〳〵
頓寺〳〵よりて名僧おかし〳〵とぞ　其後馬喰町の辺へ地を賜ひ〳〵
水戸中納言頼房卿の御母堂英勝院殿當寺を祢造なり〳〵

一蝶寺　冏呵東の方海辺新田義貞の内よりあり京師知恩寺流の禅
宗蓍龍山宣雲寺と号と元禄七年甲戌創建の林丸園よりて草禅
和尚冏山たり英一蝶翁曽當寺よ寓居と其須の遊とて佛殿庫房
等の屏障悉く翁の畫るり故よ此俗一蝶寺と字よと　一蝶の住ハ第二番
冏呵山佳禅寺　冏呵南の小路よあり浄土宗なり京師知恩院よ属と
本尊ハ門派阿弥陀如来の像ハ佛工安門派の作なり　左右二十五
菩薩の像ハ雲中よ羅列〳〵常よ行者を護念し場ハ不の靜粧
を摸擬と　奥院と称とるもの〳〵拠乐上品上生の靜相のりて
荘厳とぞ　冏山ハ長蓮社英誉也　濃列恵那郡粕塚の住人俗姓ハ伊賀氏
打一人と号と　慶長七年九月廿二日よ化寂せ　濃列恵那郡粕塚の住人俗姓ハ伊賀氏
ハ〳〵三郎五郎則俊と号〳〵　紐賀左衛門依則吉の
弘治元年乙卯粕塚に

一所を築地江田の地と号け居住と
後世あれこれ中嶋と云ひ又雨居をも雨へ多良庵
と号け雲頂と改めて浄業を修行ありよ多良浜今
御打入の順道徳殊勝の事へある故又大江戸より品川よりをひこまれ
境を湯の今愚痴も浅禅あるより其後天和三年より至りて今の地へうつる
地を替させられたりしう孫くより天和三年より至りて今の地へうつる
竹城辺よりあり一頃は正月三ヶ日の間
其間例年よりも参りて銭数を鳴さるとそ
龍徳山雲光院　光巌教まと号と同所西の隣る浄土宗江戸四箇
寺の一つ本尊阿弥陀如来の像は京師東山獅子谷忍澂上人
の作といふ開山は遵社参上人潮吞和尚と号さと　観智国師の法嗣なり
本頑は門茶局なり　甲州武田家の臣飯田弥後守の孫同久左衛門某の女にて
同門弟廿四輩の守護の母と　後に後妙今川氏義元の士神尾孫兵衛久宗の室となる
女御　入内の時供奉の功により従一位に叙せらる當寺創開の
物も黄金二百枚を投をとうひ堂材をとゝのへ建立ありよ
と号とそ　押条堤の南よりは頃は尚まと光巌まと号とり
文化二年回禄の災よりて後おすべて
鶴巻　後水尾帝の勅をうけ奉りて良恕法親皇筆を深うんと
面を獲ふかの古松をいふ　清水寺堂より掘る事
尾山堂より収るとあり
五本松　同所小名水川通り大嶋小あり　或人云此名は三谷の
川を隔て南岸の地い知恩院宮尊空法親皇御幽棲の舊跡なり
又人家なき沢と書たる江戸鑑
天王山霊雲院　清澄町大川の湾百年橋の南詰よあり禅宗にて
武州越生の龍穏まと号と本尊は聖観世音開山は放光東明
とう号く宝暦七年丁巳　台命あり依創建する所の蘭若
潤基の年歴久しくよりて
なり　此俗称深川の新まと



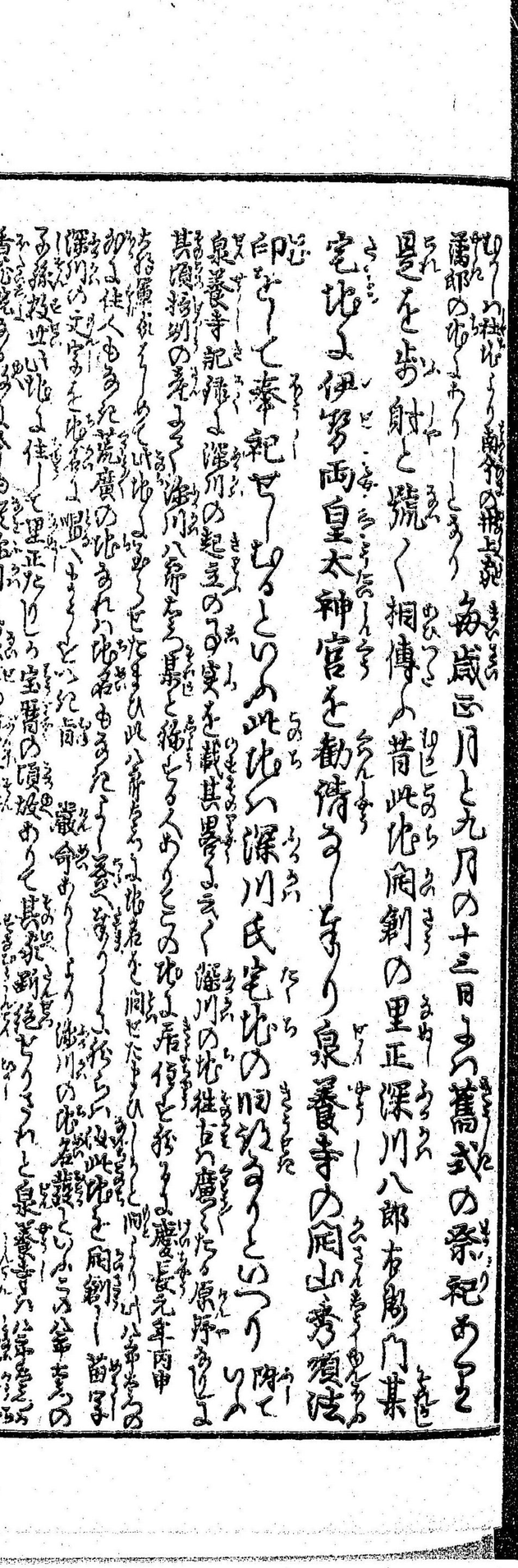

靈雲院

芭蕉庵舊址　同一榠の北結松平遠州候の庭中よりて古池の形今
猶存ずるといへる延宝の末桃青翁伊賀國より始て大江戸に来り
枕風の称ふ入後判髪して素宣と改む又枕風芭蕉庵の
号を譲請夫より後此地にうつり泊舩堂と号す
といへり江戸小田原町の奥井戸より一頃の繁昌せるうち後此業をもとどりし
事も多し一日水面に草覆ひしより古池の句ありしも古池のほとりなりし
芭蕉を移し碑
菊の東籬に咲る牡丹の紅白の見事非ありて世塵よりけうさる清閑
本地ふたゝび水清ふされ花咲ふとも時芭蕉一ともと植ゑ
風古芭蕉のくさむらもありひけん枕猿芭蕉庵の
萱の軒端もあらくさうりふく人皆亡草庵の名とと庵前友門人とうち
根をとゞめてあらしぬ一とをこゝろの行脚あり此主て芭蕉庵
ふたゝび破壊んとされいふれ離の隣
よりと称へてやうやう造立くに雪の積ひ風のうこひ
ふと称へてやうやう造立くに雪の積ひ風のうこひ
簷のしづくよりとうにうりぬつゐに再ふ旅
出杖をとゞめて拠ふひとうくるぬ従しも称よふ年の
まをうふされいくめ経ふも昔よりふ滅をそふく今年五月のま花橘のふほひもふうて
ふ間の茅屋つゝくふ枕の柱ひとふ別ふうふ芭蕉のふうふ
ふふ南ふ向ふ池ふ臨ひて水楼ふふうふ芭蕉ふふ
ふふ浙江の潮ふ腰の後ふふて月をふふふ

芭蕉庵

古池や
蛙飛こむ
水の音

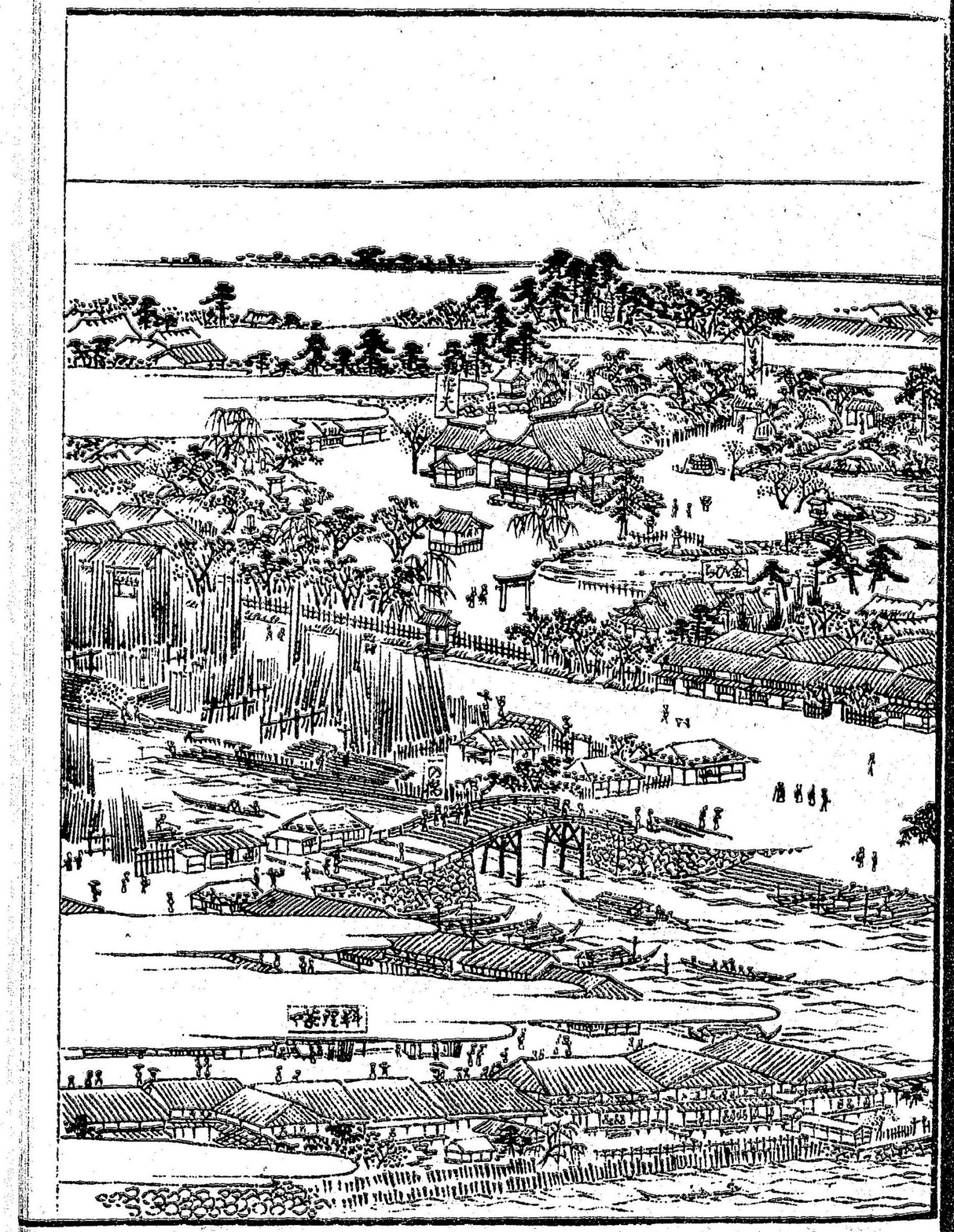
桃青

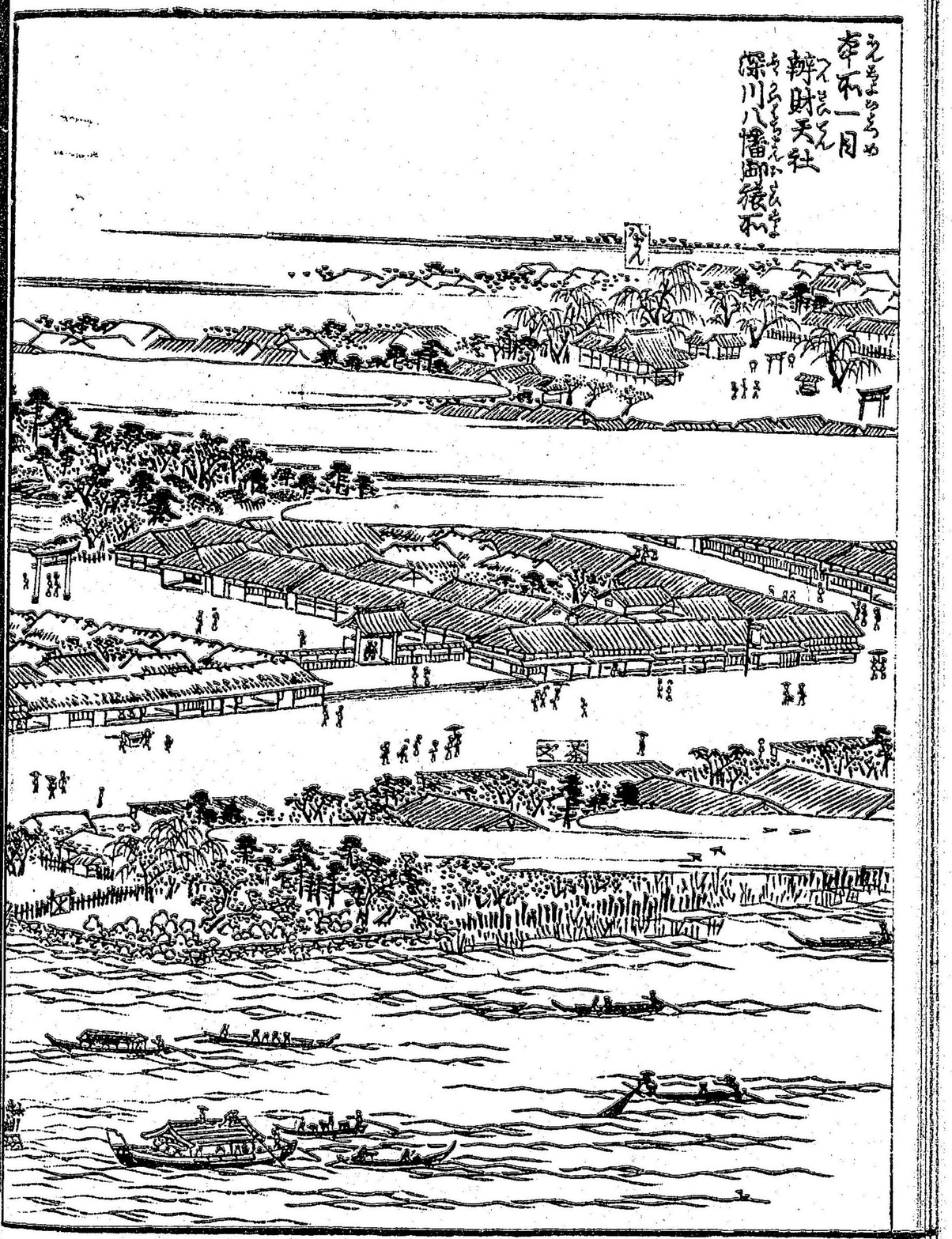


元禄二年九月の十三日より舊式の祭祀めうと
濁酒の中興一酔の俳友魯
曇を歩射と號く相傳ふ昔此地
宅地より伊勢両皇太神宮を勧請ふ
即ち深川氏宅地の内より
泉養寺記録より深川の起立のうち
其境内別当の
深川の文字を地名とし
香花院
深川氏累代の
頭
圀より南
萬徳山彌勒寺 日呼二丁めまりを隔て
義の舶頭江戸四面まの一宝うり
曲を中興開山祝着鏡上人と
圀雪月堂の筆跡うり當寺旧柳

本所
彌勒寺

中堂
本堂
方丈


花大
茶所料


辨財天社
深川八幡御祓

の後此地へ移されたり毎月八日十二日を縁日として未請多し

深川八幡宮御旅所　大川端大船倉の前よりて富岡八幡宮参

禮の砌八神輿此地へ渡らせらるる

辨財天社　同所一の橋の南の詰よりすぐ

一の橋の南の詰よりすぐ

一流の観能流とて此流の元祖は秦氏京師猿楽を始めて行ふ

毎年二月十六日より三月十九日まで興行あり

岡豊山同向院　両国橋の東詰

称念上人の遺風ゆえ捨世一流の佛域たり明暦三年丁酉の春大火の時焼死の輩の冥魂追福のため毎年七月七日大施餓鬼法會を修行ど又日八日佛飴施行ど又日八日佛飴施行ど

又國豊山とあるは縁山定日和尚の筆なり

本堂　本尊阿彌陀如来座像壹丈許り

洞の阿弥陀仏伝曰ひらかなまる事四世観業上人称誉上人称鑑和尚ひらかなまる事四世観業上人称誉上人称鑑和尚の御像の後ろをとりて本尊とこの堂むかいの堂へ入ての事そ

第三世喚霊和尚今の地へ移されたりといふ

黒本尊と同体ありといふ縁山二十三世の貫首遵誉貴屋上人念仏

願死せる者の十萬八千餘人の亡者を回向のため

三佛堂　本堂のうしろ

三佛堂　本堂のうしろ

弘法大師の作なりと推知し新しく副刻して小祠を営と尚まるの護法神とあがめたるを

佛餅を馬頭観世音　幕十

吊へて肯圓光大師堂　ほしうらひてのこと

台余りしかと死山上人ある夜枕まで来り告られいわく首ひろひてのこと

拾せ某のとよりて作りたまの叫より船

をつくねて全身を造りそくたりとうんぬ

を通たり

蓮池　信誉上人常に蓮実を

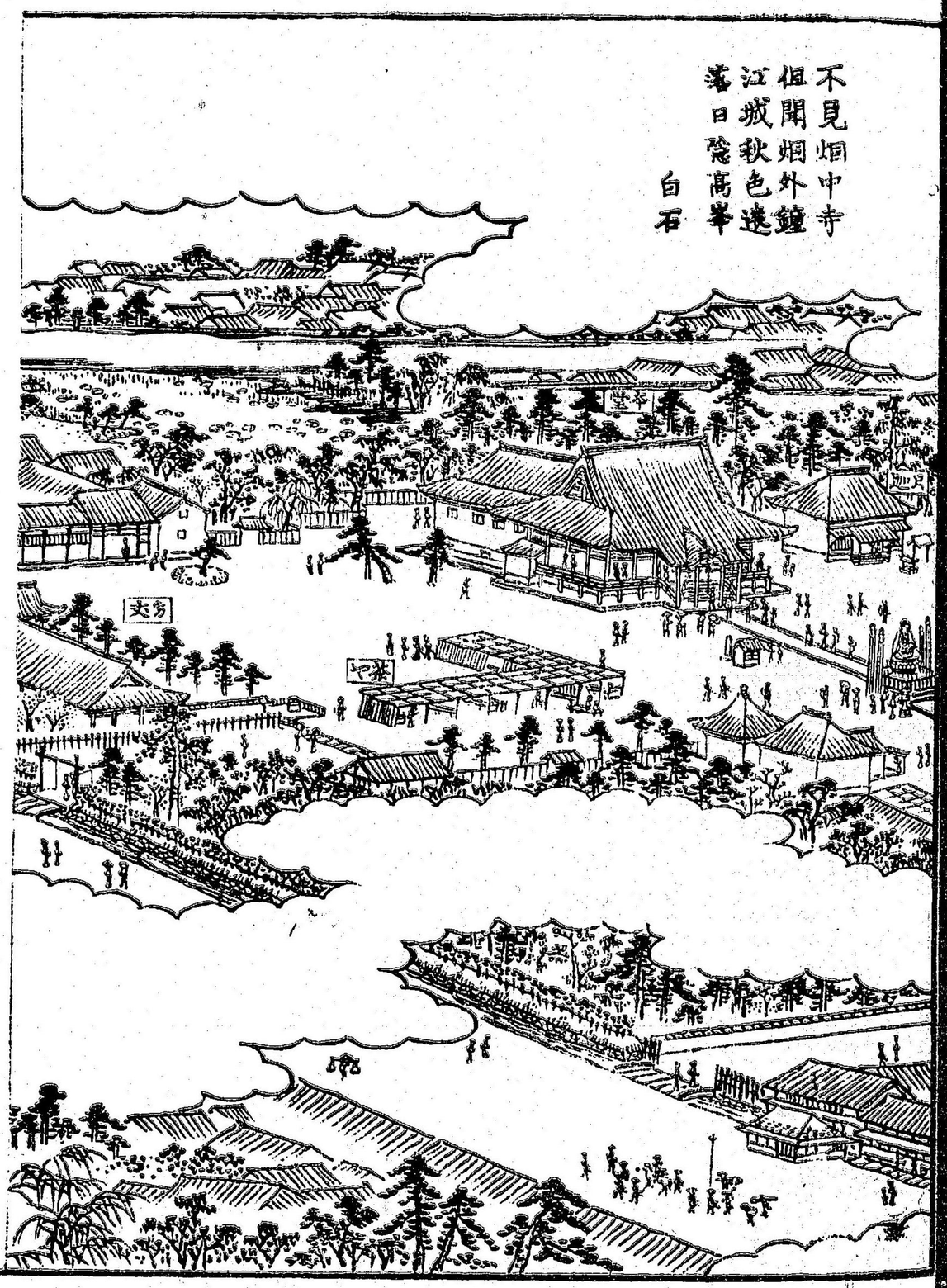
と　樽　是も信誉上人手自植られしとぞ

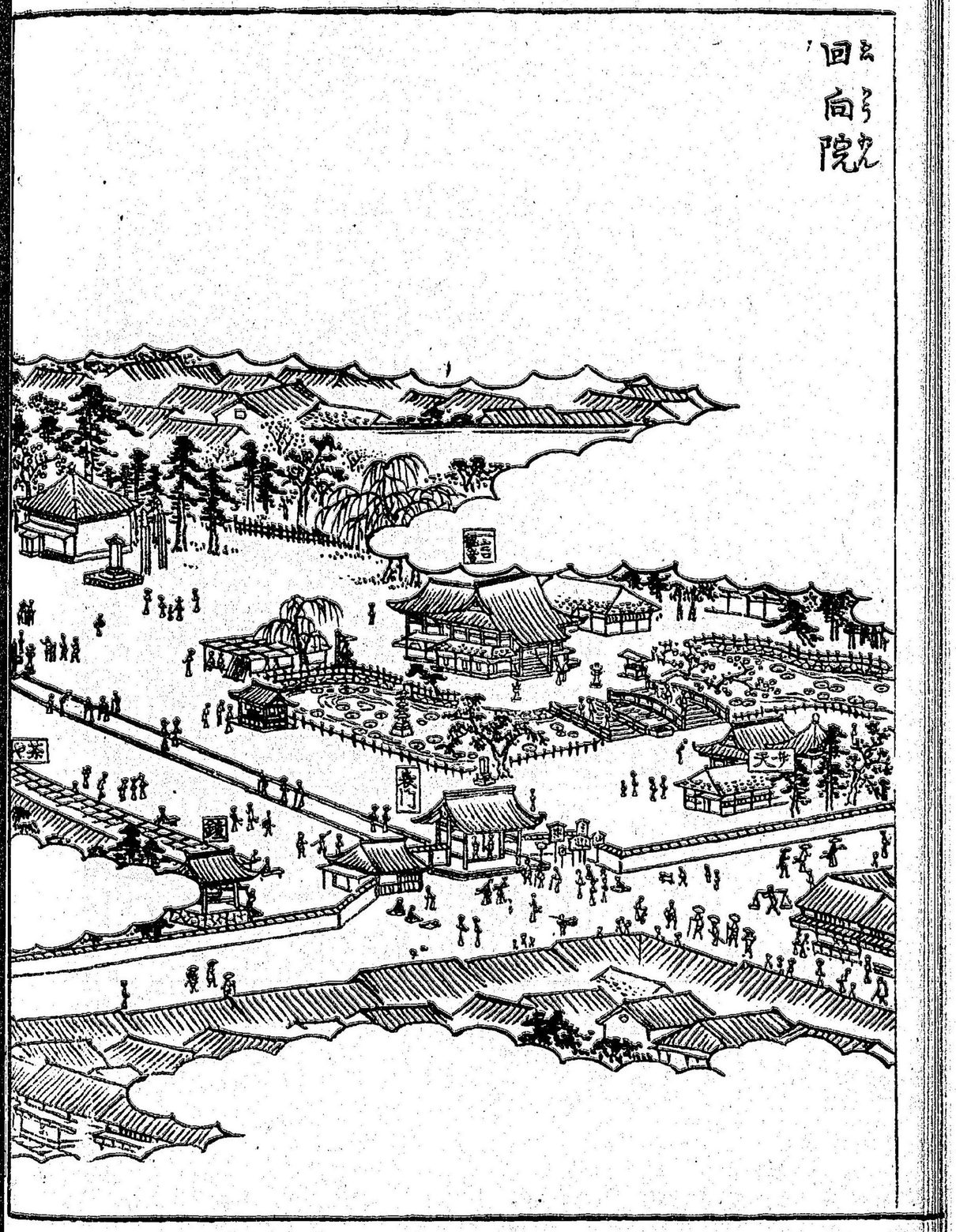
本堂の西面より

弥陀如来銅像　坐像一丈六尺あり

不見烟中寺
但聞烟外鐘
江城秋色遠
落日暨高峯
白石

回向院





相傳明暦三年丁酉の春 正月十八日 大江戸大火に仍て焼死する者凡
十萬八千餘人なり時よ 台命ありて此地とト一六十
詩歩の北よ仵の焼死骸を埋藏し一上よ一堆の塚を築き號けて滿澤
園と唱へ乃亡魂追福の爲增上寺第二十三世貴屋大和尚祝し
一宇の梵刹を創基せしめらる當寺曼荼羅
之る冊子 諸宗の僧を集め一七日の間塚の
小双巴 大法會修行ありされとも住持なきより其頃小石川智香寺の信
誉自心上人道光世よ隠れさるよ當寺第二十四世として
開山と称したまの後上人彼塚上小堂宇を建営し長よ幽魂の冥
福を助むる爲不斷念佛の道場とせられたり
剃よ髪鬘たり當院よ妻する所の
佛像の悉く此上人の影像なること
天息山五百大阿羅漢禪寺 本呼五目竪川より南よあり黄檗派の
禪林なりて河東第一の名藍たり開山心藏眼禪師中興の象先和尚又

猿江泉藏寺の沙汰よ
生ずるところの蓮花八
重辨紅花よて花敢
壮冊よ髣髴たり故よ
奇傾と覚改
九年の晩夏
そめそ
この花を
愛しよう
今よ至り
まくに
ちり

猿江
摩利支天祠
靈驗炳然として人常に絶ず
来由は拾遺に戸
名不記全文
ゝゝゝ

をなきうら
小名木川
五本松

深川の末
五本松とよめる
ふる松を
そこと

川上も
この
うたーもや

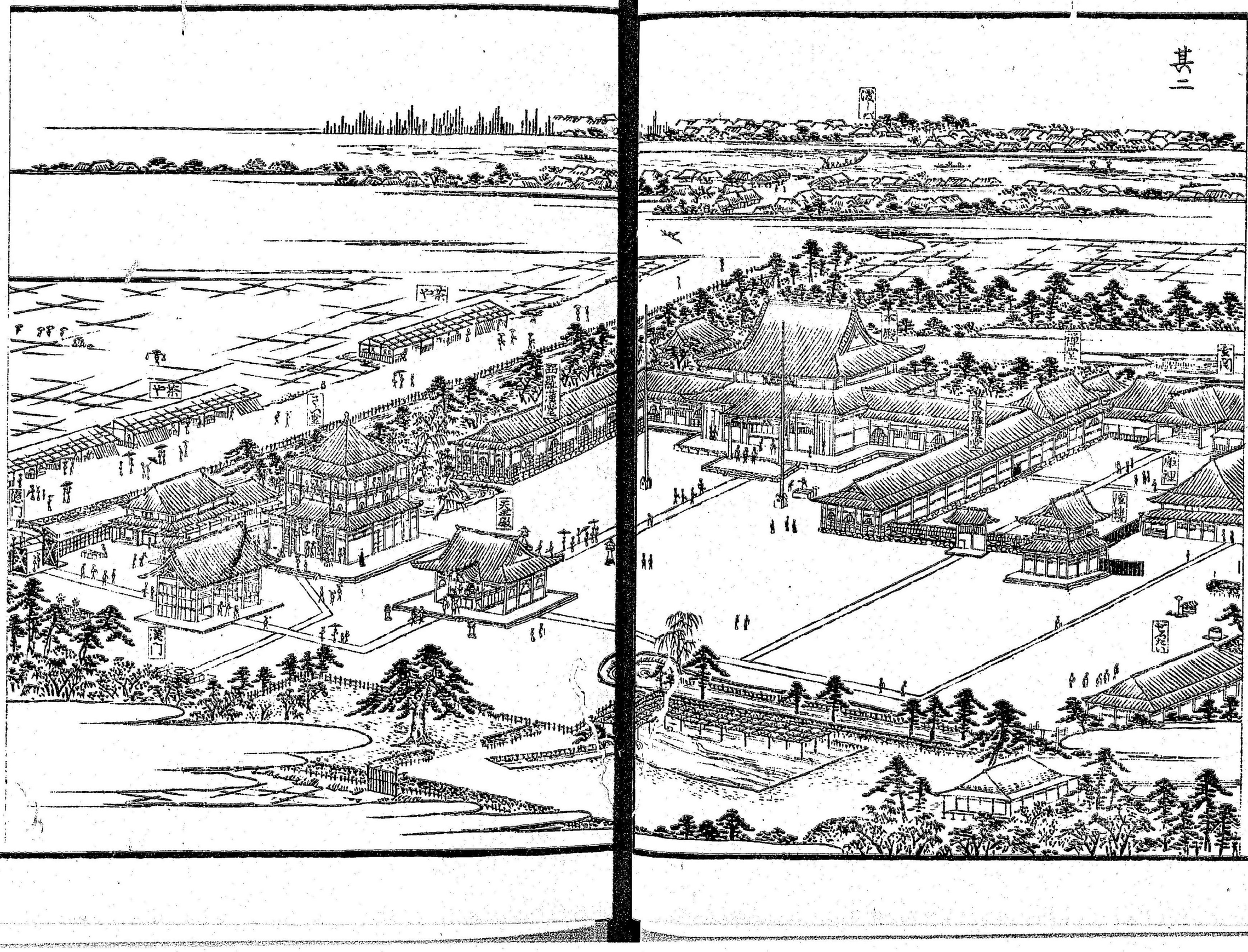
月の文

芭蕉

五百羅漢寺
三面堂

海西小飄歴一豊前圀羅漢寺小至り唐土天台山の逆流並ニ賢順との云る二僧一夜ニ造立セしといふる五百聖者の石像を謄禮一恭敬日々小厚く其後溜よ五百羅漢の像を手彫ニとするの意あり歸省の日鐵眼禪師果して其命のるを以遂ニ貞享年間江戸小来りえ禄辛未始て餓草まの境内壽松院ニ就て假屋を儵け衆人をとゞめ羅漢の木像を彫刻ニ弘福まの鐵牛和尚ニ資ゑを喜捨一尊を刺まらむるとゝも時至ニて施るる微々ニよ歳月を歴たるを以小同壬申の年大倉前一十六員の道俗結盟輔佐を奏酉孟春ニ至り五十尊成甲戌三月不も御圀毋桂昌一位尼公金を縁を佛像造立の資とるるのゝ此時十尊成彫営をるのりしより縁化響の衆とるる如く施財日々小多く竟ニ一ト餘霜を経て完く本尊丈六の釋迦佛及ひ阿羅漢等をくて五百之千有餘躰の佛像縹緲よ〻た現ニと其

其二



梵相の奇古坐立の威儀儼然として生ける如く其妙手常人のさる呼ぬり贍禮する者をし

乙亥夏五月 鐘の銘に七月とも

又天恩山羅漢寺の号を賜ひ

甲子同年八月黄檗高泉和尚偶東行のり迓て黙眼の導師とを

又先師鐵眼和尚をして開山祖とを是其原を貴むの故とそ又其時

黄檗山の未まとある松雲禪師其頃既伽藍建立の企のことも

時緣重とをして宝永七年庚寅一旦疾よ罹を月を越て起を終て

同年秋七月十一日奄然として化を時よ歳六十有三ぞり 法臈四十二年

五百大阿羅漢尊號

第一

阿若憍陳如尊者　有賢無垢尊者

須呾陀羅尊者　開聲果尊者

槃頭盧闍尊者　憍魚垢尊者

迦留陀夷尊者　橋梵般提尊者

泥樓頭尊者

第二

因陀得慧尊者

第十一

迦那行那尊者　婆蘇槃豆尊者

優樓頻螺尊者　佛陀密多尊者

那延羅目尊者　佛陀難提尊者

第二十一

優波毬多尊者　僧迦耶舍尊者

商那和修尊者　達磨婆羅尊者

宝果徳業尊者　嚴魚憂尊者

迦那提婆尊者　蘇密多尊者

第三十一

破那神通尊者　堅牢持三字尊者

鳩摩羅多尊者　毒龍設依尊者

毘羅旺子尊者　伐蘇密多尊者

僧法耶舍尊者　闍提首那尊者

第四十一

悲密世間尊者　阿兜樓駄尊者

伽耶舍那尊者　同聲警首尊者

解空魚垢尊者　闍提婆尊者

伽耶天眼尊者　富那夜舍尊者

第五十一

不著世間尊者　眼光定力尊者

金則破魔尊者　婆闍提婆尊者

魚作慧善尊者　無憂禪定尊者

金山覺意尊者　羅度無盡尊者

解頻空第一尊者　薩底蘇花提記尊者

額蘖世間尊者　薩底蘇花提記尊者

斗劫慧善尊者　摧魔徳香尊者

第六十一 無量本行尊者 摩訶利利尊者 觀身無常尊者 解空定空尊者

第七十一 乾陀訶利尊者 見人飛騰尊者 比丘尊者

第七十一 薩陀波崙尊者 摩訶注那尊者 周利槃特尊者

第八十一 畢陵伽蹉尊者 解空無名尊者 方便法藏尊者 拂塵一珠尊者

第九十一 摩訶羅網思惟縛尊者 訶俱舍提尊者

第百一 羅睺羅眞實尊者 除憂尊者

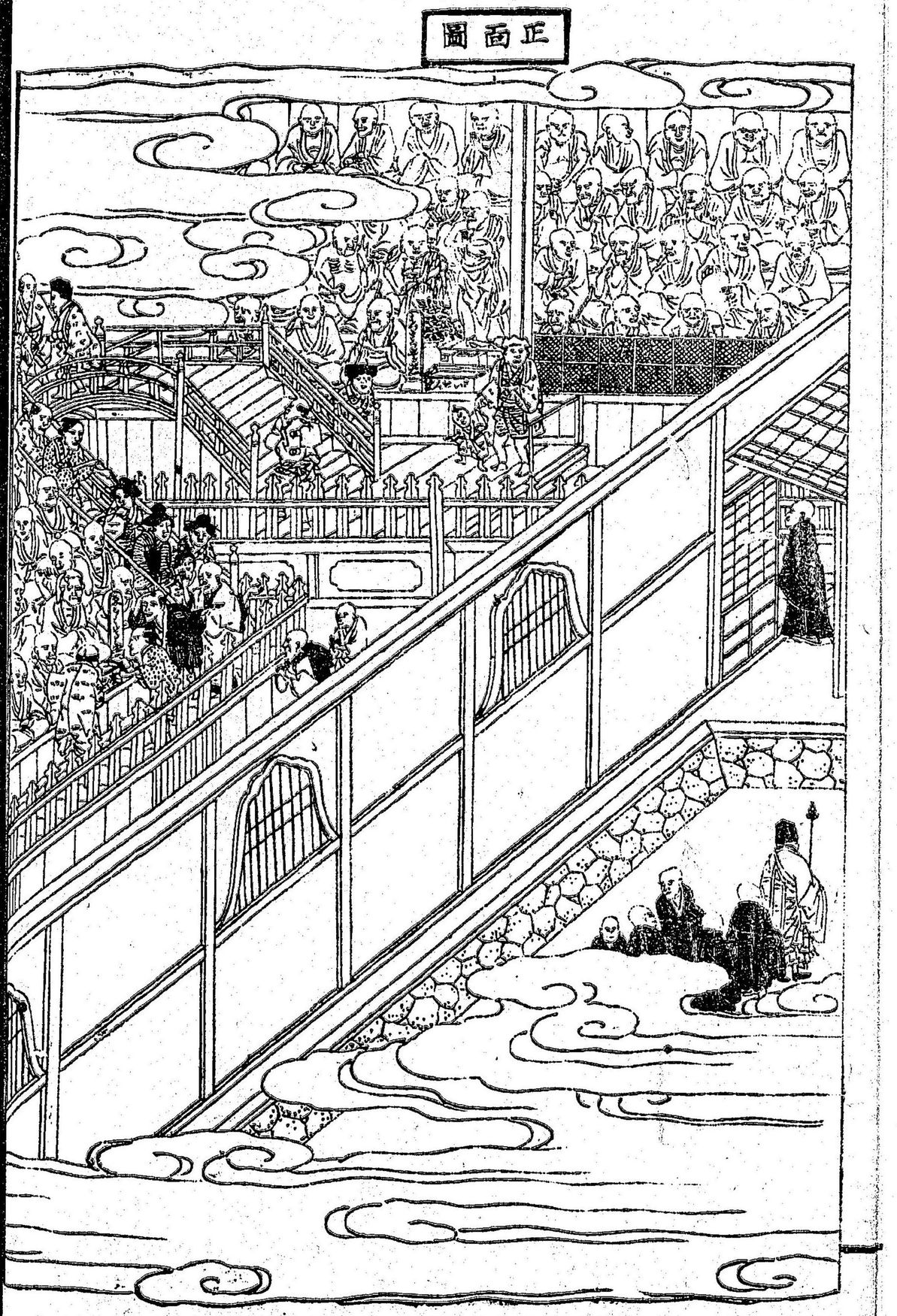
第百十一 大慶喜尊者 摩訶迦葉尊者 阿那律尊者 離婆多尊者 劫賓那尊者 摩訶俱絺羅尊者 畢陵伽婆蹉尊者 摩訶迦旃延尊者 阿難陀尊者 羅睺羅尊者 憍梵波提尊者 賓頭盧頗羅墮尊者 迦留陀夷尊者 摩訶劫賓那尊者 薄拘羅尊者 阿那律尊者 優波離尊者 阿那邠邸尊者 羅陀尊者 金毘羅尊者 伽藍神尊者 半度落迦尊者 因揭陀尊者 伐闍羅弗多羅尊者 注荼半托迦尊者 羅怙羅尊者 那伽犀那尊者 那提迦尊者 蘇頻陀尊者 諾矩羅尊者 跋陀羅尊者 迦理迦尊者 蘇摩尊者 周陀尊者 莫訶周陀尊者 阿氏多尊者 跋陀羅尊者 伐那婆斯尊者 伽耶舍多尊者 鞞紐多羅尊者 僧伽耶舍尊者 鳩摩羅多尊者 闍夜多尊者 婆修盤陀尊者 摩奴羅尊者 鶴勒那尊者 師子尊者 婆舍斯多尊者 不如蜜多尊者 般若多羅尊者 菩提達摩尊者 慧可大師尊者 僧璨大師尊者 道信大師尊者 弘忍大師尊者 慧能大師尊者 南嶽懷讓尊者 馬祖道一尊者 百丈懷海尊者 黃檗希運尊者 臨濟義玄尊者 興化存獎尊者 南院慧顒尊者 風穴延沼尊者 首山省念尊者 汾陽善昭尊者 石霜楚圓尊者 楊岐方會尊者 白雲守端尊者 五祖法演尊者 圓悟克勤尊者 虎丘紹隆尊者 應菴曇華尊者 密庵咸傑尊者 破菴祖先尊者 無準師範尊者 雪巖祖欽尊者 斷橋妙倫尊者 高峯原妙尊者 中峯明本尊者 天目中峯和尚 千佛勸請尊者 悲願尊者 成就因緣尊者

第百二十一 馬鳴尊者 自淨尊者 境界尊者 悟達尊者 眞實幢尊者 調達尊者 寶光尊者 修道尊者 持世尊者 善思尊者 慧尊者 寶見尊者 勝尊者 善眼尊者 積慧尊者 仙道尊者 寶網明尊者 眞意尊者 無勝尊者 遊戲尊者 法眼尊者 淨德尊者 燈明尊者 金髻尊者 香象尊者 無憂自在尊者 山頂龍聚尊者 神遍滿藏尊者 億劫具壽尊者 三昧甘露尊者 金剛精進尊者 阿那邸提尊者 師子比丘尊者 不空有尊者 空自在尊者 光曜尊者 慧覺尊者 歡喜尊者 善住尊者 善權教尊者 勇寶尊者 慧持尊者 帝網尊者 敬首尊者 離垢尊者 無休息尊者 智積尊者 大光英尊者 善調尊者 天不動尊者 善光尊者 慧積道仙尊者 梵摩帝尊者 勝光尊者 帝釋尊者 大忍尊者 大辯才支轉智尊者 寶藏尊者 金辯德燈尊者 摩訶利不動尊者 佛難提尊者 月輪尊者 辟劫賓羅王菩提尊者 大嚴雷音尊者 摩訶利支提尊者 觀行尊者 見飛騰尊者 解空定空尊者 解空不空比丘尊者 解空自在尊者 三昧甘露進尊者 金剛精進那邸提尊者 山頂龍聚神遍滿藏尊者 億劫具壽香象尊者 無憂自在尊者 光曜慧覺歡喜尊者 善住善權教尊者 迅捷奮迅尊者 慧持帝網尊者 勇寶尊者 敬首離垢尊者 無休息智積尊者 善光大英尊者 善調天不動尊者 慧積道仙尊者 梵摩帝勝光尊者 帝釋大忍尊者 大辯才支轉智寶藏尊者 金辯德燈尊者 摩訶利不動尊者 佛難提月輪尊者 大嚴雷音尊者 辟劫賓羅王菩提尊者 摩訶利支提尊者 觀行見飛騰尊者 解空定空尊者 解空不空比丘尊者 解空自在尊者 三昧甘露金剛精進那邸提尊者 山頂龍聚神遍滿藏尊者 億劫具壽香象尊者 無憂自在尊者 光曜慧覺歡喜尊者 善住善權教尊者 迅捷奮迅

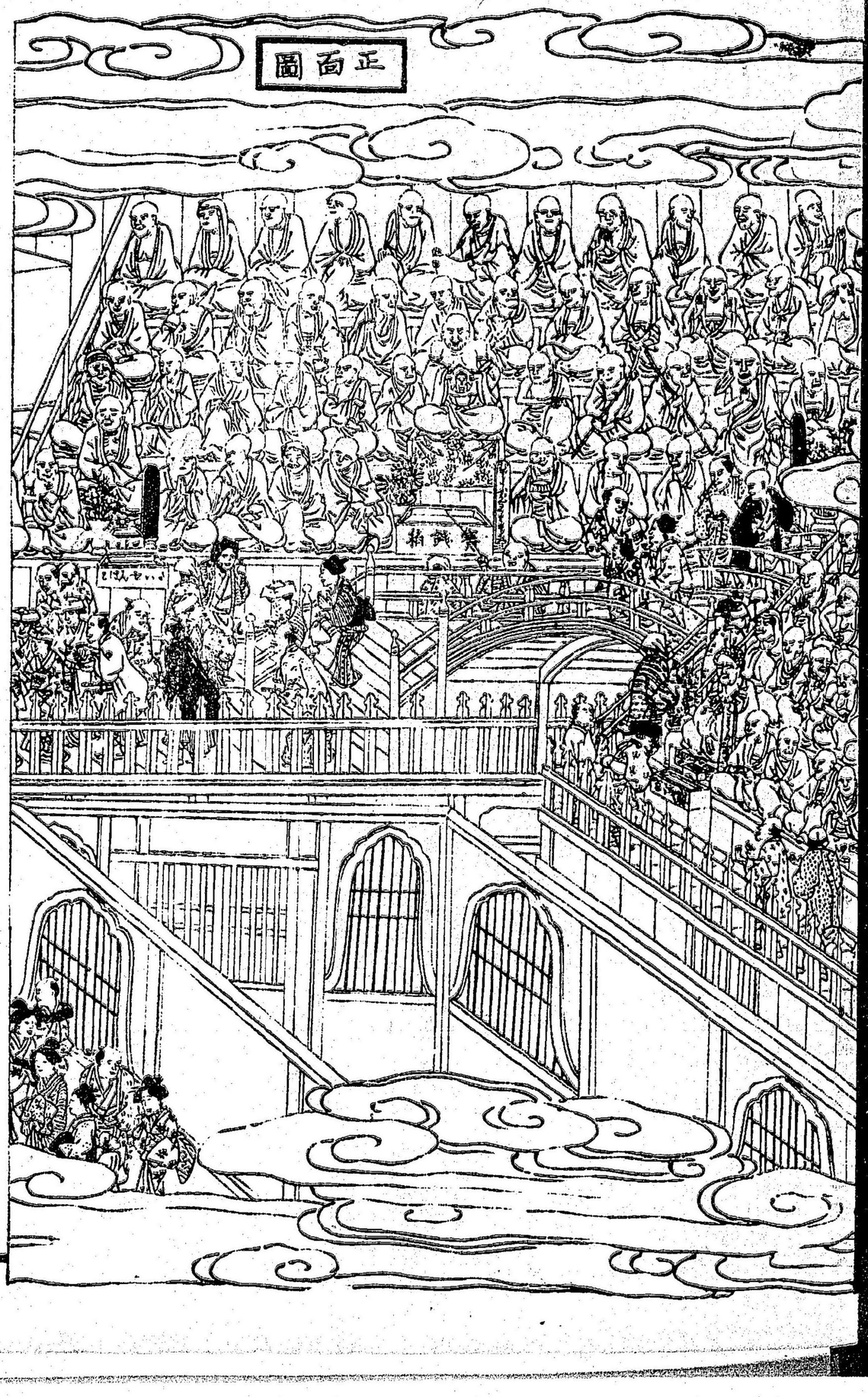
五百羅漢堂
內相之圖
共五枚

羅漢堂東面之圖

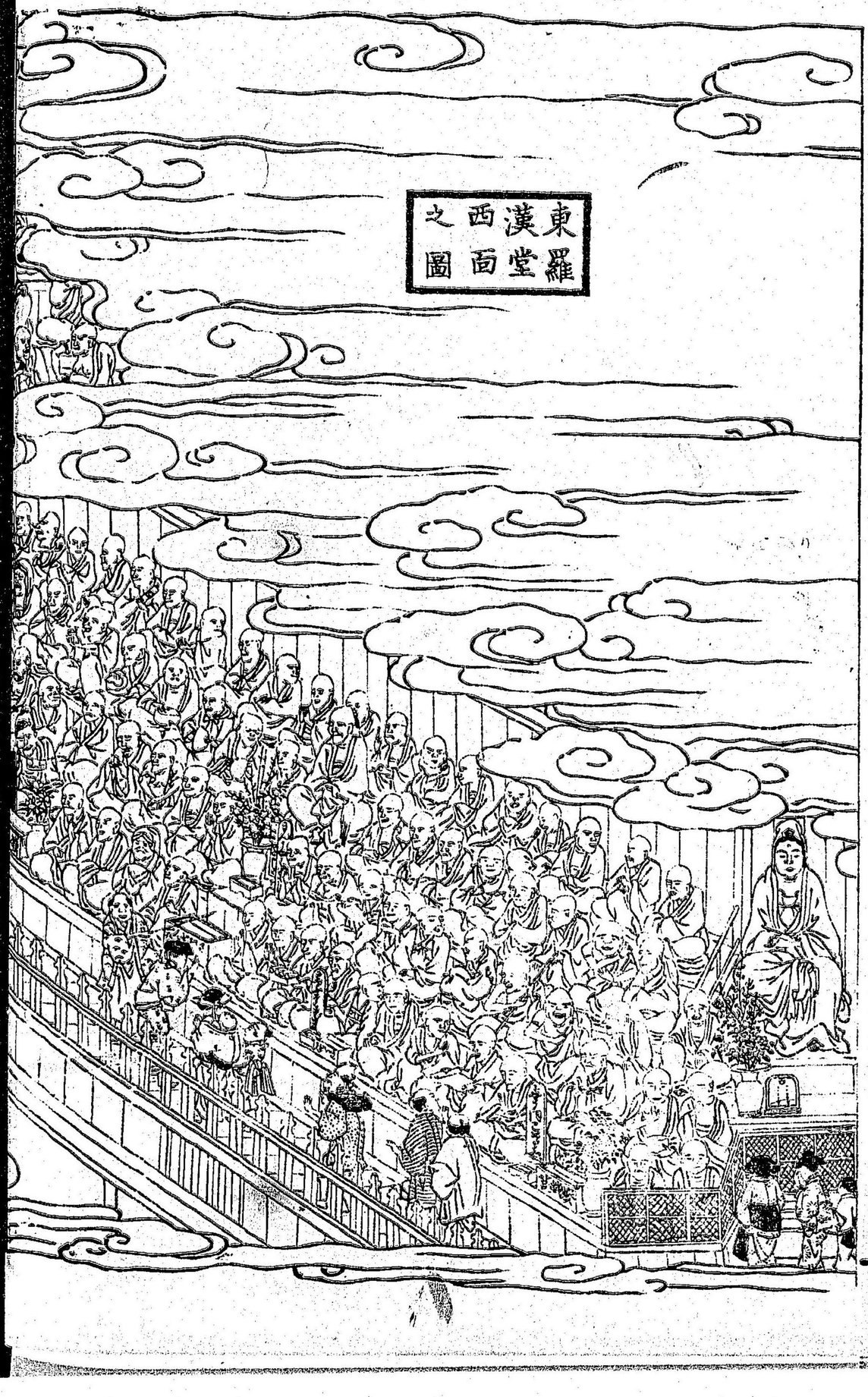
正面圖



正面圖



東漢西堂羅漢之圖



正面圖

正中之面尊圖

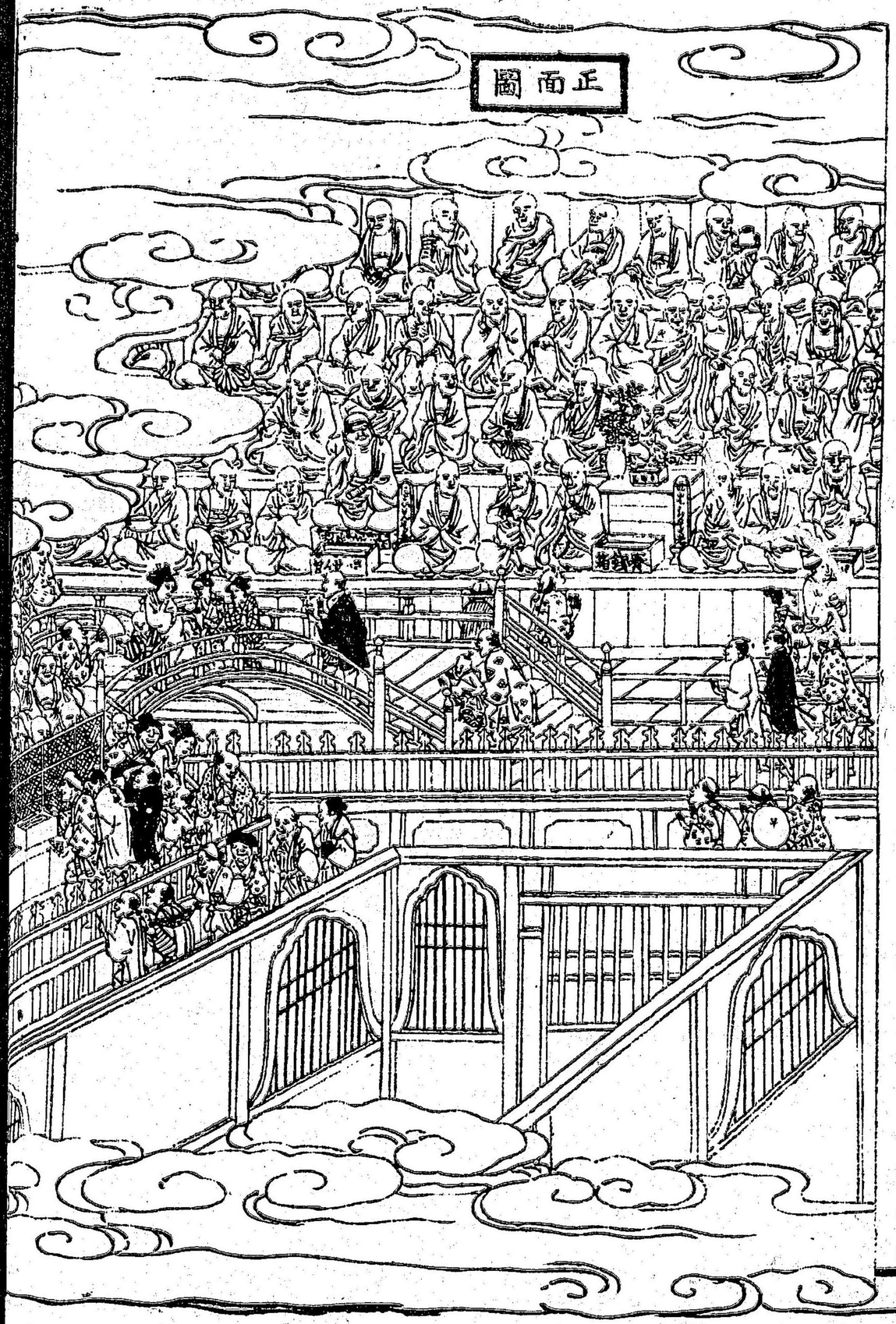
諸子百歷者現淨妙身說法相

堵闍

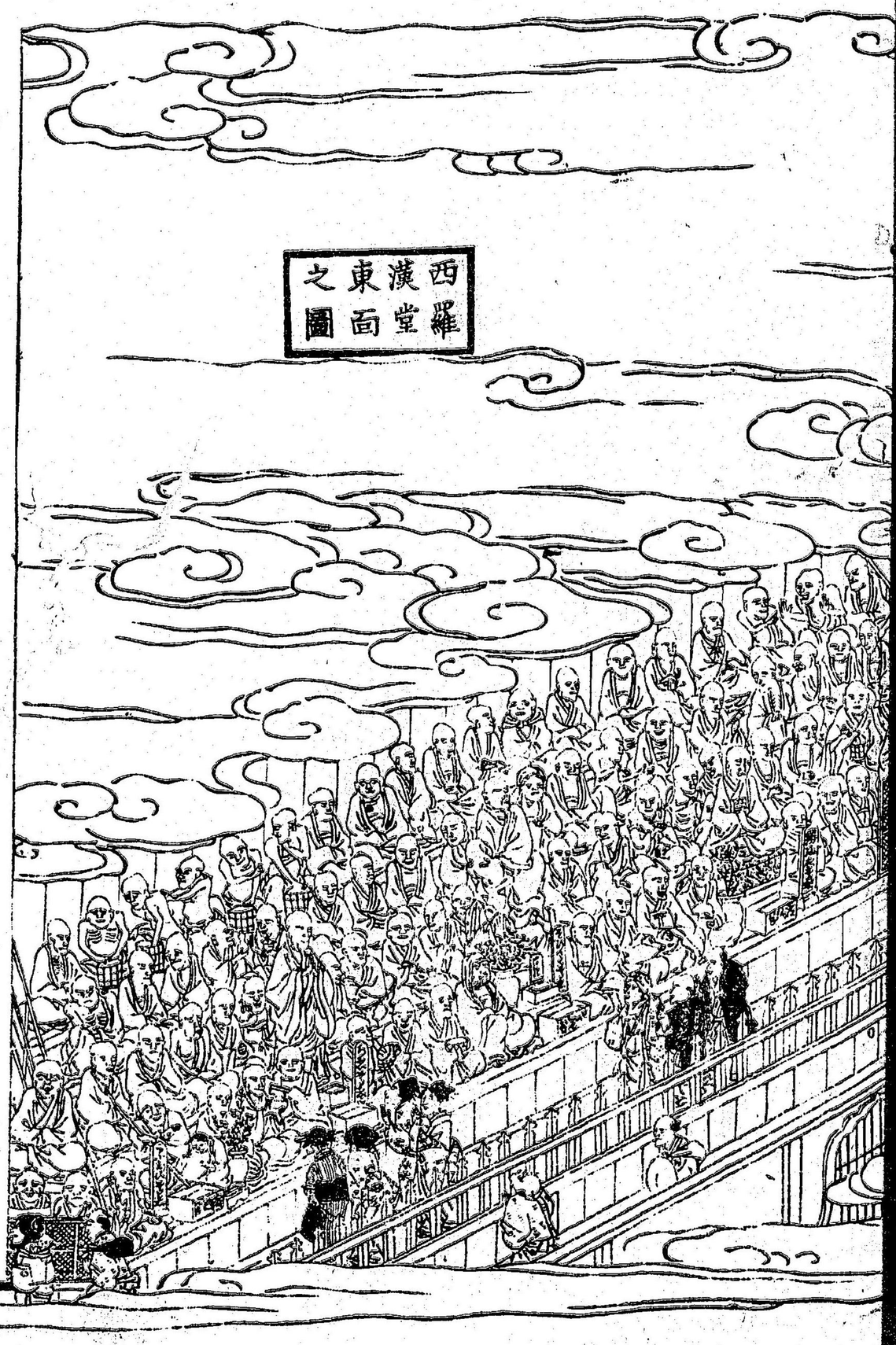
正面圖

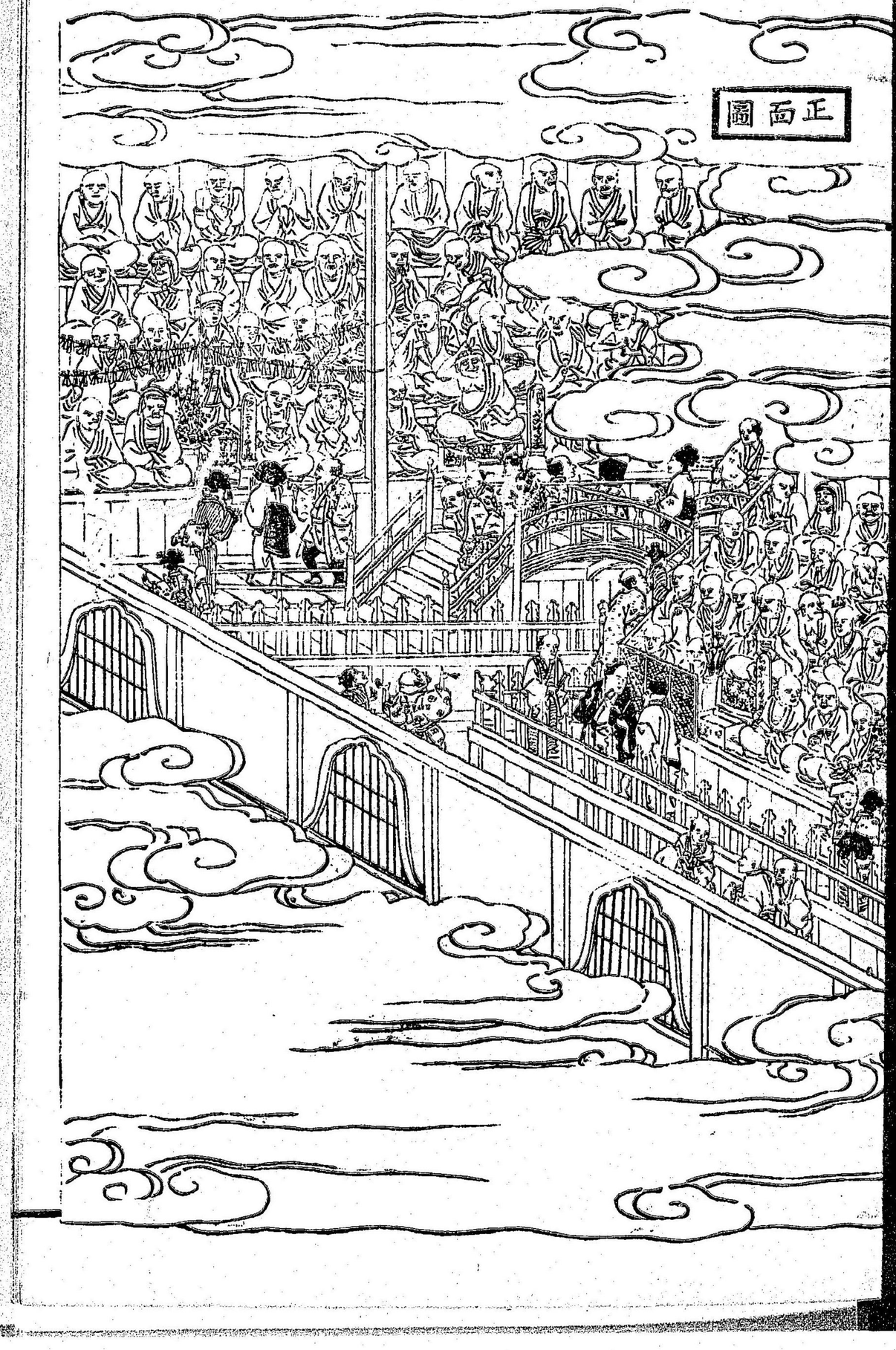
大六妙古云何得九定往詣七地

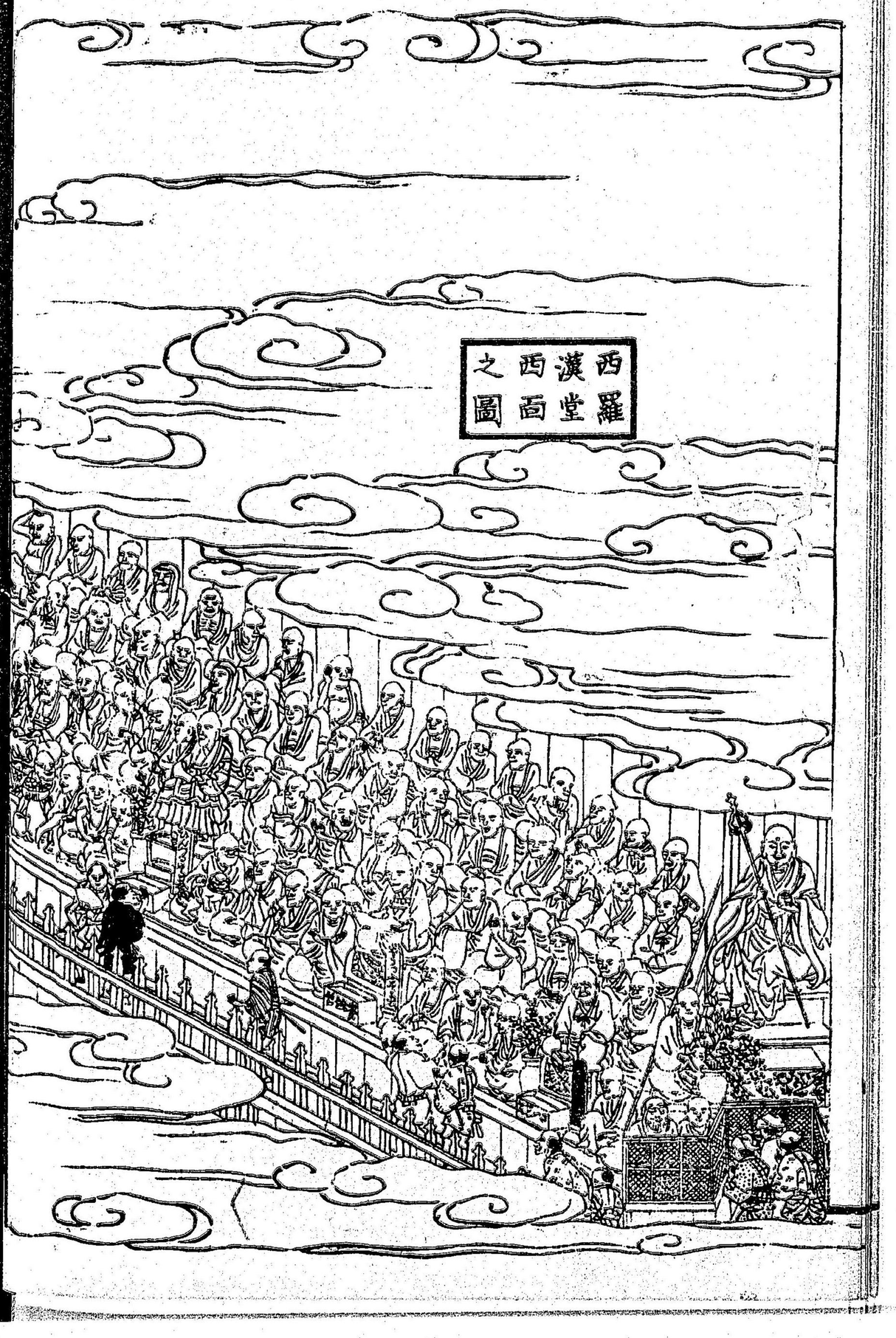
正面圖



西漢東之羅堂面圖




正面圖


西漢西面堂羅漢之圖

第百七十一

慧作尊者　善德尊者　花王尊者

第百八十一

助歡喜尊者　寶涯尊者

喜見尊者　變光尊者　善根尊者

第百八十一

龍益尊者　散結尊者　大力善星尊者

第百九十一

羅旬世友尊者　淨眼淨月尊者

第二百一

波羅密尊者　菩薩聲尊者　無遮眼尊者　來味尊者

第二百十一

婆私叱尊者　樂寶藏尊者

難勝身尊者　觀身火焰平等尊者

善宿光項尊者　德光寶伏尊者　善觀陀羅尼尊者　德慶友藏尊者

三昧聲尊者　針多羅尊者　金剛味尊者

不可比尊者　顯墮尊者

第二百二十一 斷煩惱尊者 讚妙法尊者

第二百三十一 寂勝意尊者 彌沙塞燈尊者 智慧燄幢尊者 香燄幢尊者

第二百四十一 阿濕卑尊者 利裴殊尊者 歡喜智尊者 須彌聖尊者

第二百五十一 持善法尊者 智慧海尊者 彌遮仙尊者 淨菩提尊者

第二百六十一 覺殊行尊者 衆和合尊者 妙慧輪尊者 梵音天尊者 精進山尊者 脩善業尊者 聖峯慧尊者

第二百七十一 多伽樓尊者 利裴多尊者 威德聲尊者 可那悉尊者 仁國尊者

第二百八十一 聲龍種尊者 行傳法尊者 光普現尊者 首歐光尊者

第二百九十一 持大聲尊者 眼龍王尊者 義法勝尊者 王住道尊者

第三百一 無垢行尊者 禪定果尊者 遠塵眞尊者 心勝修尊者

第三百十一 會法藏尊者 頭陀僧尊者 無垢藏尊者 金富樂尊者

讚俱羅尊者 讚多伽樓尊者

須彌燈尊者 善圓滿尊者 栴檀藏尊者 摩尼遮密尊者 舍乾陀羅尊者 摩訶迦葉尊者 因地果尊者 阿那律尊者

普賢行尊者 普勝山尊者 利裴多尊者 提衆具足尊者 尼德伽尊者 阿泥盧豆尊者 阿那律尊者

譽香金剛手尊者 南山王尊者 藏夜叉羅尊者 焰婆多羅尊者 慧依止尊者 降魔軍尊者 冨伽那尊者 摩訶羅尊者 德自在尊者 秦摩利尊者 闡提魔尊者 聲聞僧伽耶尊者 威儀多尊者 德淨悟尊者 阿僧伽尊者

持三昧尊者 名無盡尊者 辯財王尊者 可不退波羅尊者 持善法尊者 常歡喜尊者 議伏魔尊者

讚利裴多尊者

沒特伽尊者 波頭摩尊者 迦難留尊者 福德首尊者 斷蘖伽陀尊者 水潮聲尊者 不思議念尊者 覺性解意尊者 不動佛尊者 法輪山尊者 天鼓聲尊者 魚比丘尊者

第三百二十一

頗恰尊者　周陀波尊者　魚垢藏尊者　修行尊者　喜見大利尊者　修摩提生尊者　仕世間尊者

燈導首尊者　甘露法尊者　除衆憂尊者　成就大德尊者　讚歎離諂願尊者　無德羅尊者　自在王尊者

須達那尊者　超法兩尊者　善修行尊者　乘德尊者　離淨詣除尊者　德相尊者　德妙法尊者

第三百三十一

堅固心尊者　聲響應燈心尊者　喜無著心尊者　定拂羅尊者　應起供養尊者　金剛明尊者

慮知空尊者　光明執寶炬尊者　和倫調尊者　薩和壇尊者　捨尊者　執寶炬尊者　賢首尊者

切德相尊者　忍生阿氏多尊者　慈仁尊者　論著尊者　鴦舍尊者　阿氏多尊者　金剛藏尊者

白香象尊者　心尊者　那羅達尊者　定尊者　羅尊者　尊者　月菩提尊者

第三百四十一

識自生尊者　聲引衆尊者　除垢網尊者　韋藍王尊者　除疑網尊者　明世界尊者

聲引衆尊者　鬱多羅尊者　魚量明尊者　法首尊者　魚垢藏尊者　慢意尊者

鬱多羅尊者　大藥尊者　光明網尊者　金剛藏尊者　德尊者　魚垢藏尊者　魚垢藏尊者

第三百五十一

勝解空尊者　日照明尊者　去蓋障尊者　天眼尊者　大威光尊者　幻化空尊者

月蓋尊尊者　魚量明尊者　淨除垢尊者　寶蓋尊尊者　上尊者　拘那羅尊者

蓋尊尊者　光明網尊者　魚盡慈尊者　喜信解尊者　最魚比尊者　調定藏尊者

第三百六十一

須那刹尊者　魚憂眼尊者　行願持尊者　金光慧尊者　世界尊者　最勝幢尊者

直福德尊者　提婆長尊者　伏龍施尊者　蓮花淨尊者　定花至尊者　身尊者

蓋羅滿尊者　蘇頻陀尊者　利亘羅尊者　天音聲尊者

第三百七十一

日照明尊者　魚量明尊者　光明網尊者　憂眼尊者　天眼尊者　寶蓋尊尊者　喜信解尊者　金光慧尊者

第三百八十一

去蓋障尊者　淨除垢尊者　魚盡慈尊者　行願持尊者

第三百九十一

天眼尊者　寶蓋尊尊者　喜信解尊者　金光慧尊者

第四百一

伏龍施尊者　蓮花淨尊者　利亘羅尊者　天音聲尊者

第四百十一

大威光尊者　最上尊者　最魚比尊者　世界尊者

第四百二十一

定花至尊者　身尊者

第四百八十一

滅惡趣尊者　性海澄心尊者
破宛城尊者　慈悲普濟尊者

第四百八十一

慈不息尊者　法水盡尊者
常隱行尊者　法炬照曜尊者
尋聲應尊者　法施平等尊者

第四百九十一

數知定尊者　得定通尊者
慧廣增尊者　皈度羅尊者
思薩埵尊者　鉢利羅尊者
願事衆尊者　拔衆苦尊者

以上第五百竟

十大第子

大迦葉尊者　舍利弗尊者
阿那律尊者　須菩提尊者
阿難陀尊者　富樓那尊者
優波離尊者　目揵連尊者
羅睺羅尊者　迦旃延尊者

十六阿羅漢

賓度羅跋囉墮闍尊者　迦諾迦伐蹉尊者
迦諾迦跋釐墮闍尊者　蘇頻陀尊者
迦諾迦伐闍羅尊者　迦理迦尊者
半諾迦尊者　因揭陀尊者
茶半託迦尊者

以上十六竟

第四百三十一

智眼明尊者　堅固行尊者
不動羅尊者　善光明尊者
那羅德尊者　師子尊者
精進辨尊者　普照尊者

第四百四十一

破邪見尊者　無礙行尊者
慧金剛尊者　無盡慈尊者
說果尊者　無垢光尊者

第四百五十一

信證尊者　觀無憂德尊者
行恐慈尊者　無邊尊者
敬端尊者　師子翻尊者

第四百六十一

勝清淨尊者　勇猛精進尊者
法自在尊者　師子作尊者

第四百七十一

音調歡尊者　淨解脫尊者
分別身尊者　大賢光尊者
智仁慧尊者　師子脣尊者

第四百八十一

頻婆羅尊者　摩訶羅尊者
足儀尊者　大藏妙尊者
具足戒尊者　大慧海尊者

第四百三十一

光焰明尊者　常悲憫尊者

第四百四十一

那羅延精進尊者　善住師子尊者

第四百五十一

慈悲尊者　如意善巧尊者

第四百六十一

慈慈尊者　無相性空尊者

第四百七十一

慈慈尊者　大師子吼尊者

第四百八十一

慈慈尊者　大慈悲尊者

第四百三十一

慈慈尊者　普莊嚴尊者

第四百四十一

慈慈尊者　大塵障尊者

第四百五十一

慈慈尊者　普莊嚴尊者

第四百六十一

慈慈尊者　普莊嚴尊者

第四百七十一

慈慈尊者　普莊嚴尊者

第四百八十一

慈慈尊者　普莊嚴尊者

三币堂　経門の内左の方天王殿ようやく上続いて観音の霊跡を模擬して高廠の経蔵あり当寺中興気先和尚之を建てり俗間栗嶺堂と唱ふ後世三重の法式の右繞廻廊を造立せられたり右繞三重にしてもっとも二階の高楼よりなる意を以て寛保元年辛酉是を造立せられたり

額向拝の内に掲ぐ当寺宝物和尚の筆なり

右繞三币堂

額同堂二階の軒に掲ぐ当寺気先和尚の筆なり

回廊

禁一石羅漢堂の石なり

天王殿

額天王殿の軒に掲ぐ当寺宝物和尚の筆なり

天恩山

額同堂の軒より掲ぐ黄檗木庵の筆

遊佛場

額旧呼右の方の禅堂旧呼右の方の後より掲ぐ

摂待所

額旧呼左の方の鐘楼庫裡の前より元禄九年牧野備後守成貞の令室高祥院殿之を建立せらるる後ち弘福寺の鐵牛和尚擯斥する所なり

喫茶玄

額旧呼左右よりの軒より掲ぐ細井九皐の筆なり

刹竿簷

額旧呼左右よりの軒より掲ぐ享保十三年三月より建初ることなり

藤棚　庁脇掛の傍

四年已まだ栽しめざるなり

天恩山五百大阿羅漢禅寺鐘銘並引

武蔵國天恩山五百大阿羅漢寺者元禄辛未沙門松雲創建也辛未春松雲子自幼好彫像今発志願欲刻五百應眞爲衆生之福田然微縁難得成興不志誠則福縁在衆生豈少哉一尊又請阿羅漢寺鐘銘并引。

武陵海上新創禅園大冶鑄就響震鯨鯢

欲鑄蒲牢鳧氏丕屯
大千是曰山河倒呑

一音纔動警覺曉昏　修洪規範解塵勞煩
觀音大士加入此門　回遍無礙卻慈闇根
幽明莫滯功德難論　由斯生悟直證本源
存沒俱利消融百寃　國平民業斯子斯孫
雲禪功烈函盍乾坤

元禄九年丙子四月穀旦　牛頭鎌牛撰謹誌

掘樹境内ありし文五年庚申掘樹九十餘株を掘るとて其の方のこと共を載しめしを

開山堂　隠掘の比丘尼三代堂とも唱へ開山鐵眼禅師の像を置奉る三代堂ともいふ鐵眼禅師の行業を掘列せし碑文に詳なり

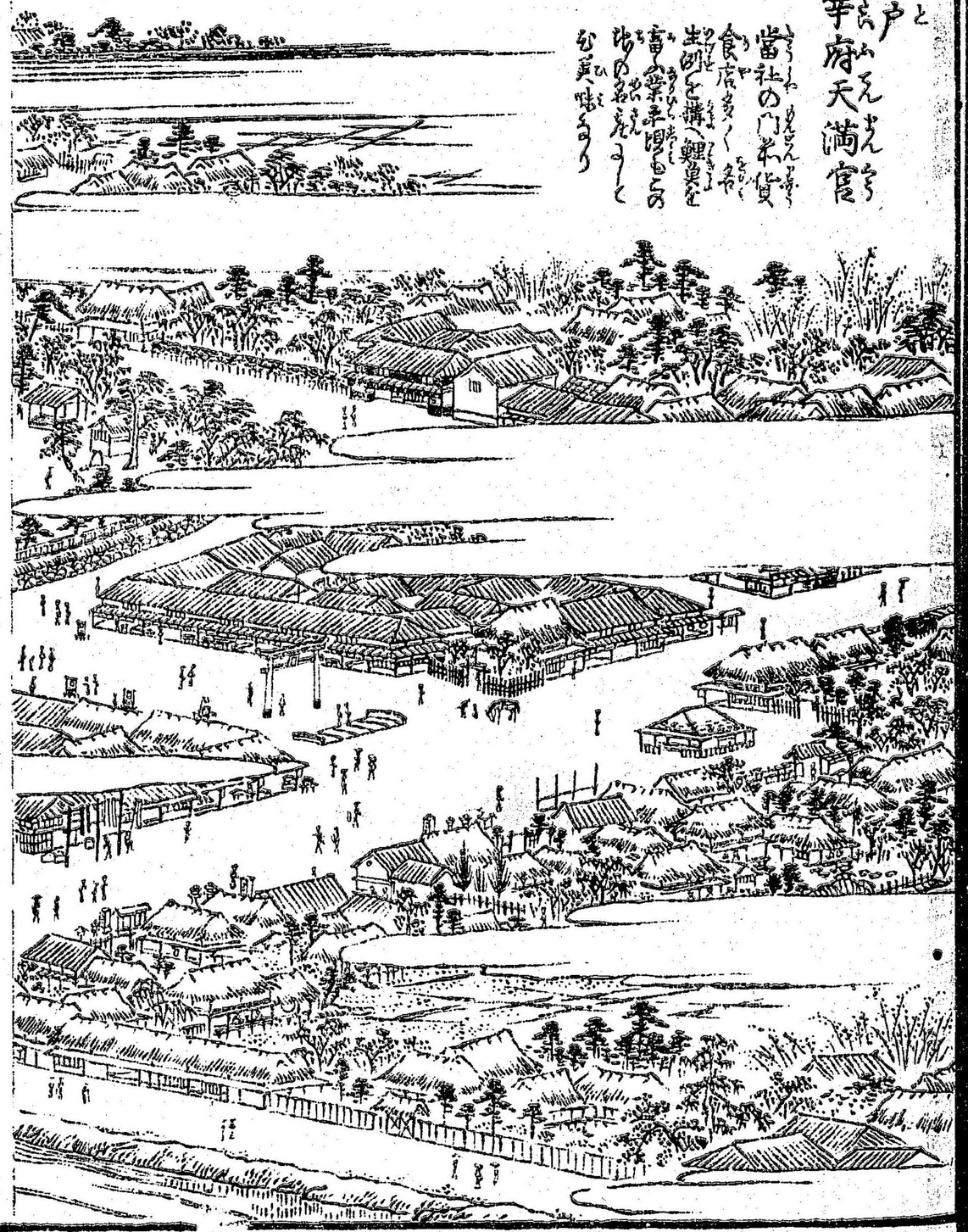
中興象先和尚の黄檗四世の法孫として鐵眼禅師の法脈たり

當時松雲禅師化縁の後ひ微堂も破壊し佛像も雨露のみに侵されんとするを深く患ふ正徳三年癸巳冬鐵眼和尚の舎を受始て大江戸より来り當寺の曠外南正月より十有餘年の間心肝を砕き其の暑風雪の厭ふ

日とに廓下の街市より行乞し既して勧進の功成り募ること一握一投の米銭を積て甚夥しく建立成就せしを依同十四年己丑二月開堂慰供養の大法會を行ひ盂蘭盆の大施餓鬼會を開く當寺開山いまし象先和尚たるを甚だ顕盛たりとぞ

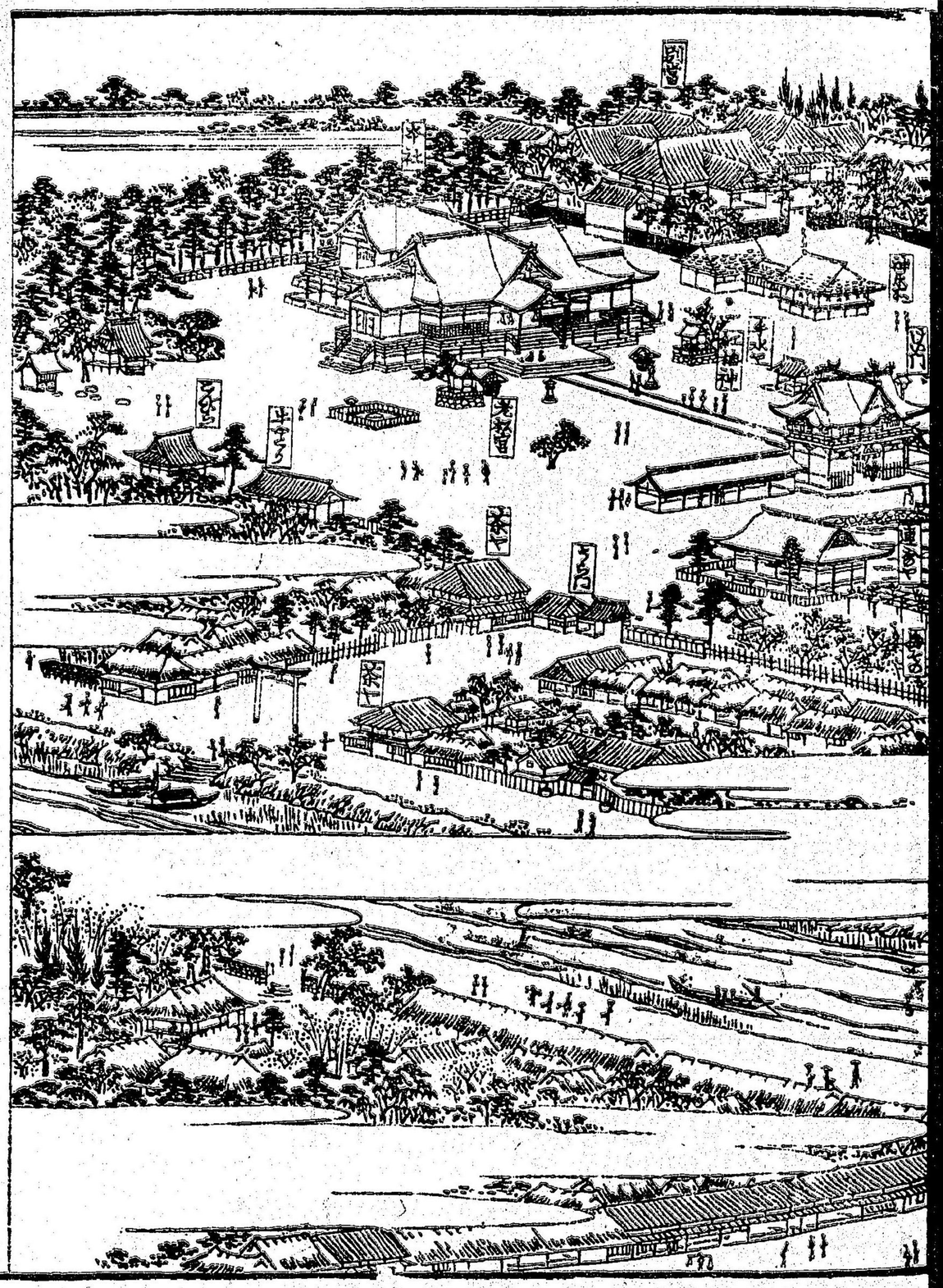
を二代とし又松雲禅師創業の大功のあるを以一代開基と称し自三代の席より坐ぜられ隠元禅師歸化の後ひ持斎一食として深く貧者をのぞみ佛像経巻と古衣裳の外ひ聊も所有なし一日の勤行ひ般若理趣分五巻と荘厳経行願品百五十巻とを讀誦し観音の尊号を書写ひ其数積て山の如し又大般若経一部六百巻一字百禮して是を書写し其先生死得道の時掘出し舎利に入て法道成

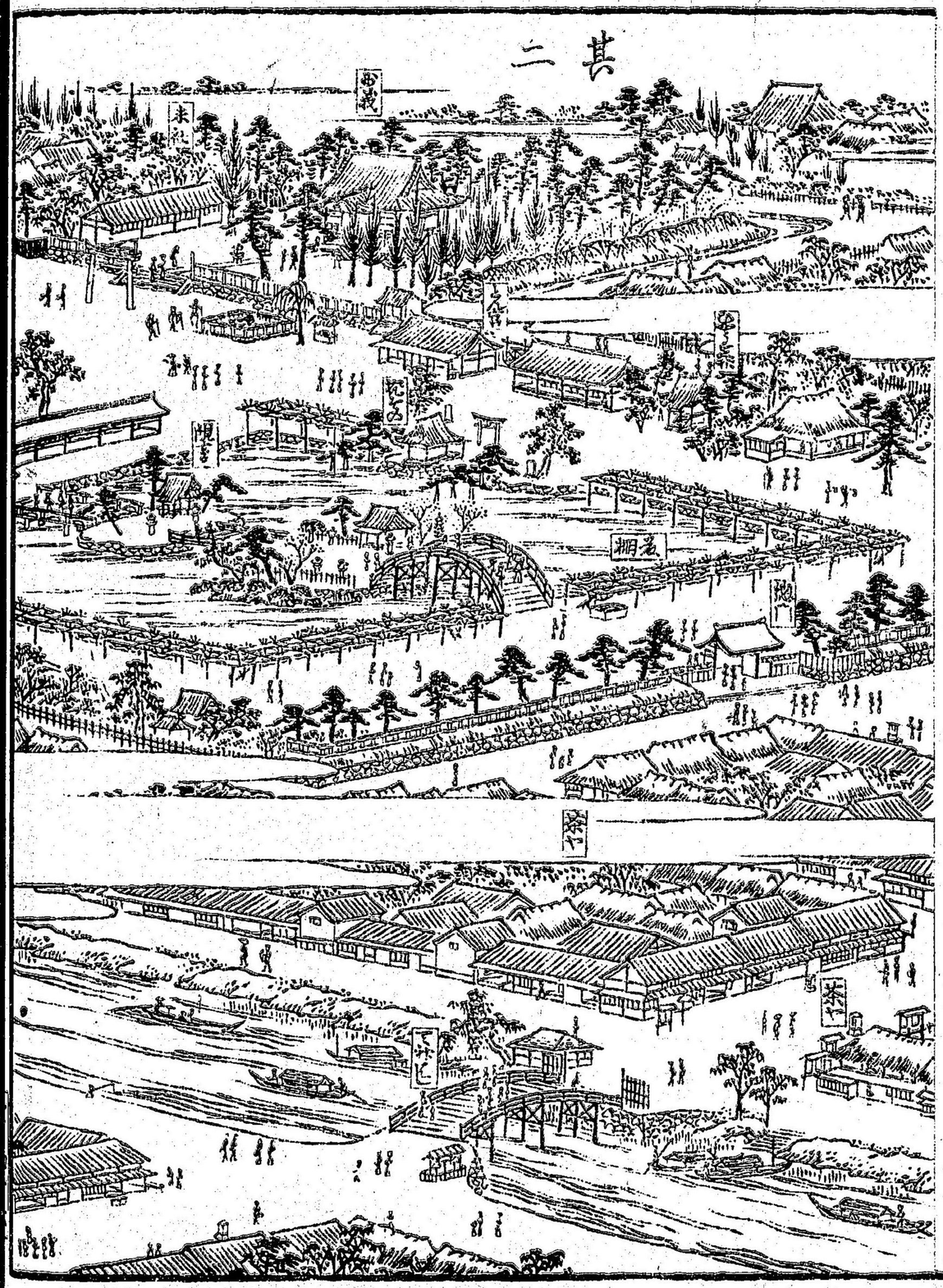
就の誓願を發し三年の間双手の指爪切八十巻の長經を血書し其後當寺殿堂の營大半成といへども宗門の坐禪夏冬の結制行れさるを愛して文二年丁巳の冬洞泊両首坐を立て五十指の僧を集め江湖の大會を行ふ此時大樹もよほしたまひ坐禪の行相成ることを則江湖の僧財として米五百俵をたまふ丈山後服若の全文を眞讀して拜れを拜すること覺延三年巳丑六月五日七十三歳にして遷化の大定に入貴賤香花を捧ひとぶらひ來ること三日三夜奠暑甚しといへども遺骸酖変する色なく茶毗して全身舍利となる



亀戸
宇府天満宮
當社の門前賣食店多く名生劍を講鰌鯊を會の葉束團子の名物として名高し

二其





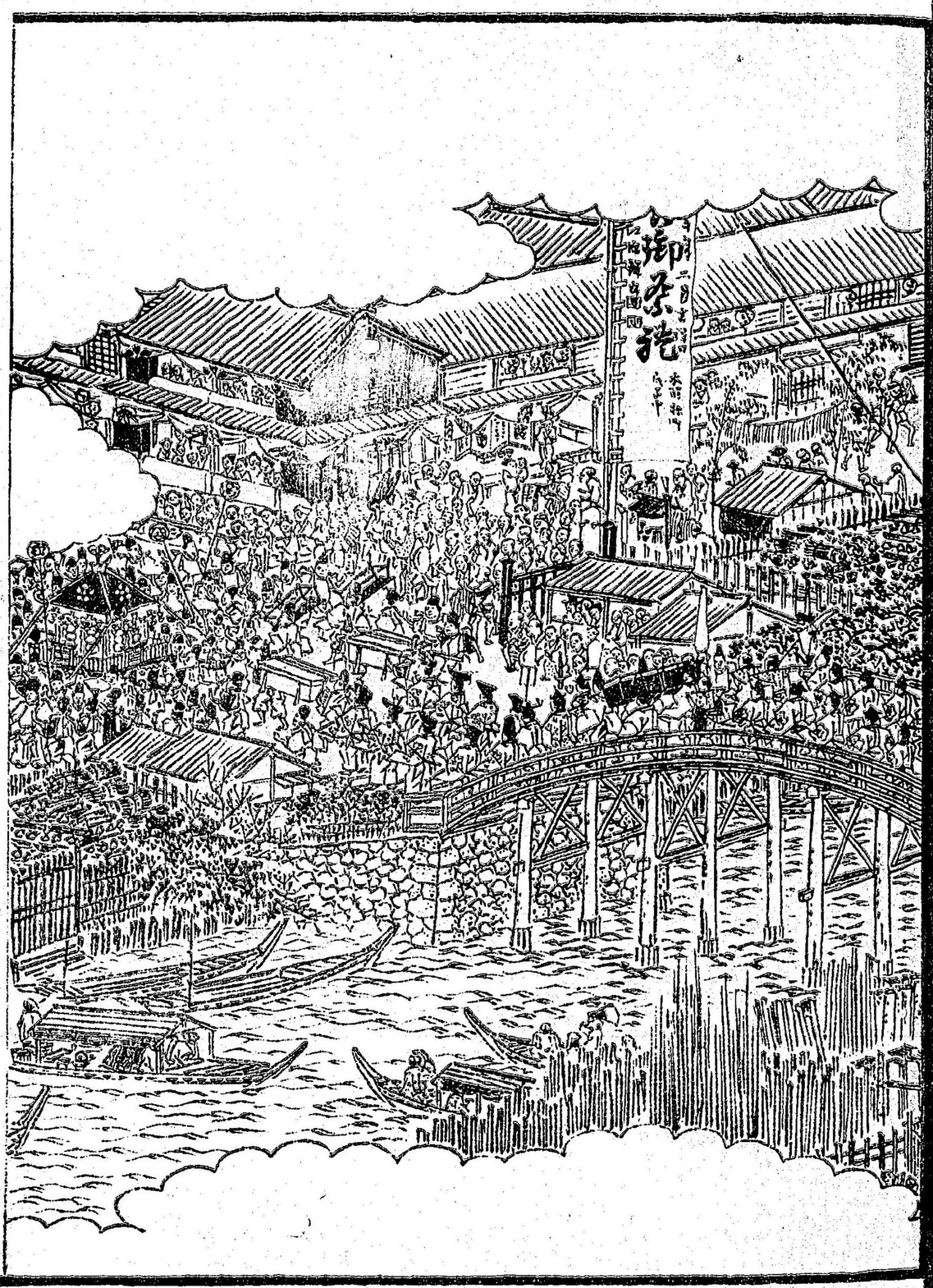
年甲辰十二月　大樹始て當寺へ參詣し其後同十五年正
月晩課　御聽聞翌年十二月方丈より住職を
勤む同十九年甲寅三十餘の地形流れ同二十年乙卯境
内より新殿を營繕まつられ後此地へ　御移鷹のため
かの〳〵と當寺へ立寄せられ月參の報日より
觀音懺法を修行し十六日より大般若經轉讀あり七月
廿一日より施餓鬼を修し十六日晩日より殊
更例年の如く已来當寺の住持へ風雨寒暗
道俗群參と雖先師の
を厭ふと雖大江戸の市中を行乞するをもつて勤行
とす
宰府天滿宮　龜戸村より坂を龜戸天滿宮へ詣ふ
別當を天原山東安樂寺聖廟院と号し楊谷宮司
大鳥居氏奉祀せり　當社例祭正月廿一日當中連歌有御旅所
所ハ當社の南竪川通北松代町四丁目にあり　元祿國絵圖の摸寫
本社　祭神　天滿大自在天神　相殿　天穗日命　土神宿禰命
紅梅殿　本社の前右のかたにあり境内前太宰府より載せ呼の北梅の雜木有
田廊　瑞門　右より隨身の木像を置
御嶽社　本社の右にあり藏山の座主法收修する意僧正の靈を勸請
花園社　本社の北の方にあり花園北野の一夜にて栽し
祭神　天滿大自在天神　相殿　天穗日命　土神宿禰命　三座
老松殿　右の方にあり

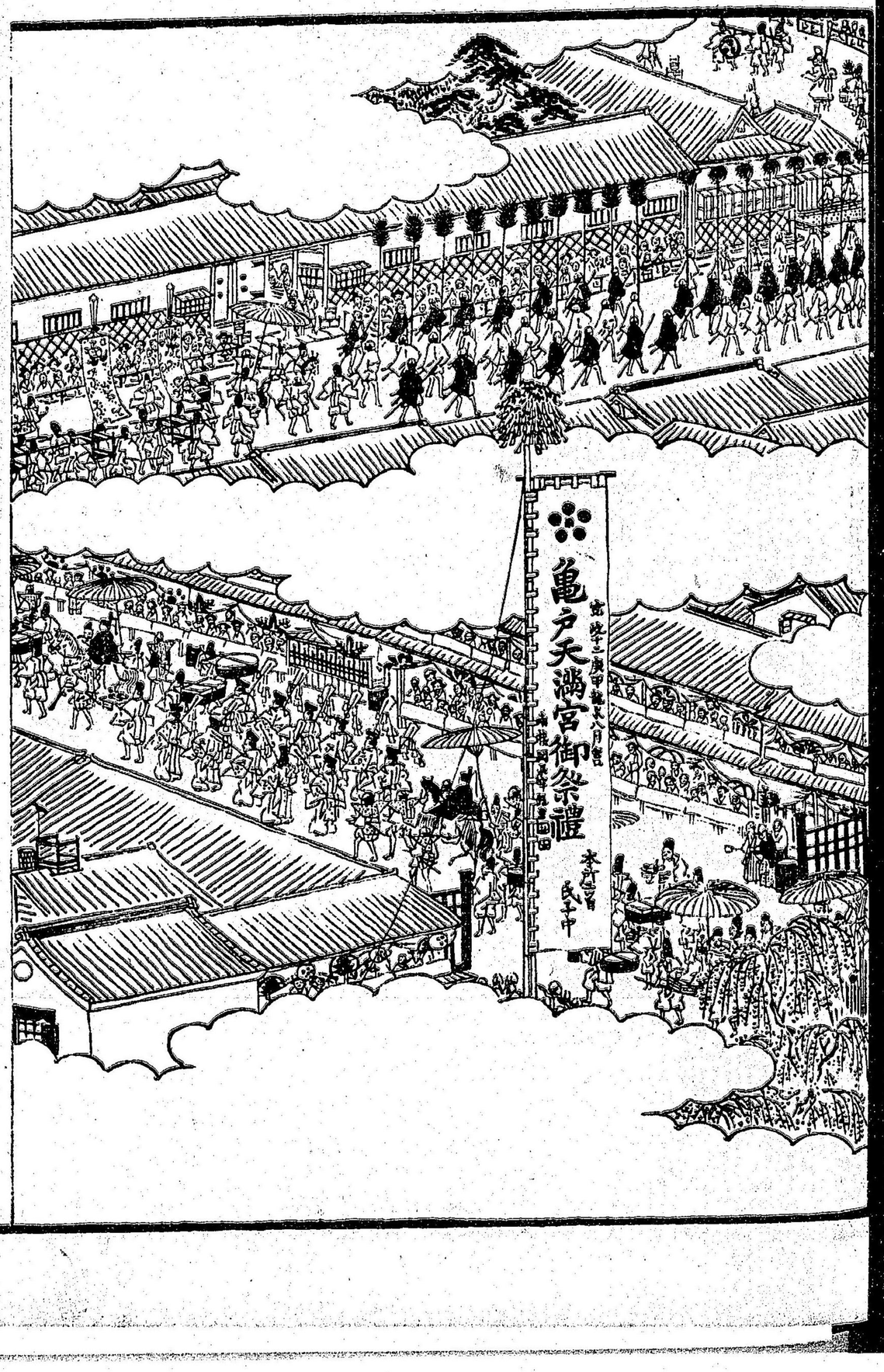
梅松や
元禄十四年
二月二十五日
聖廟八百齢
御年忌於
亀戸御社詩
歌連俳奉奥
行一巻
二月二十五日
菜種神事

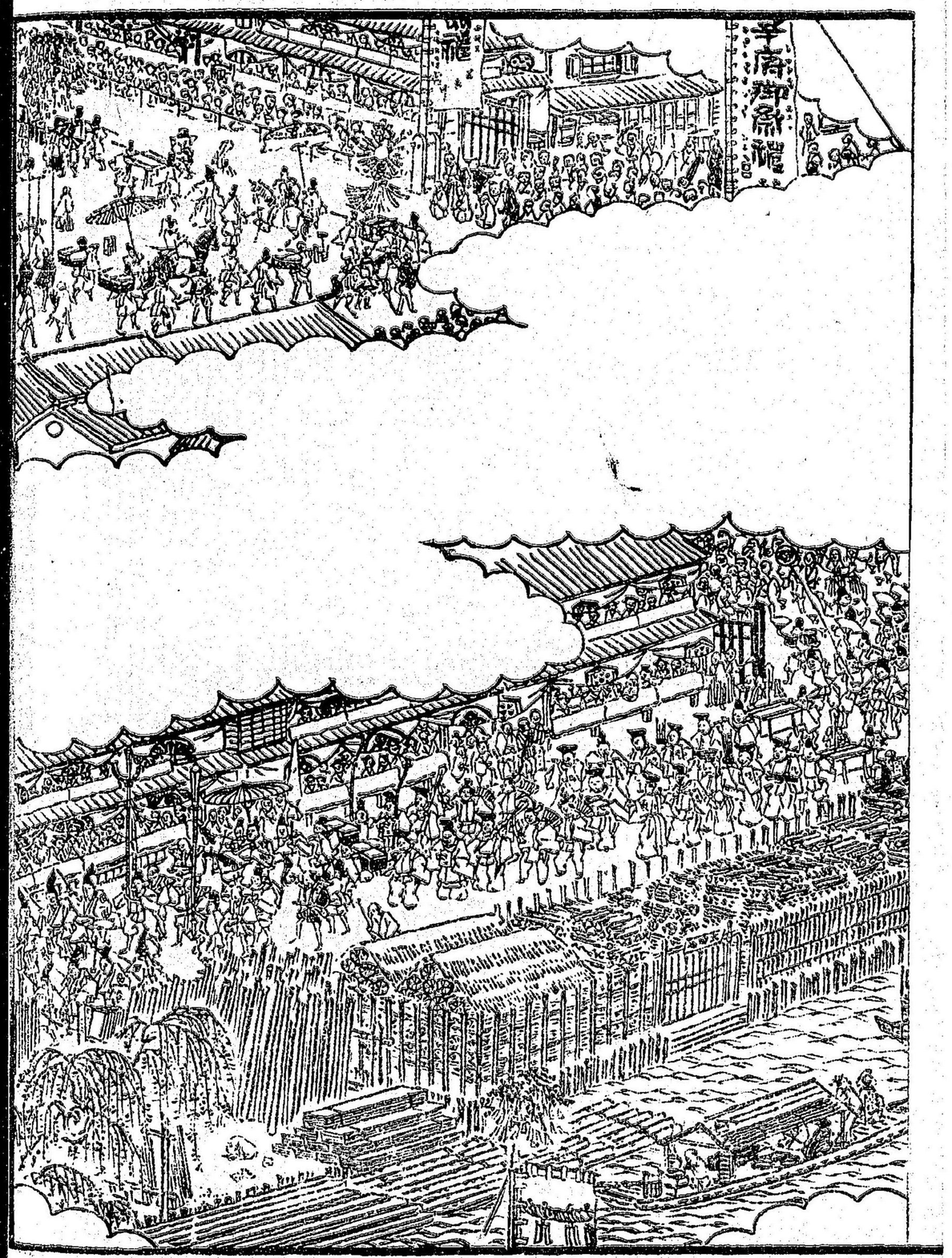
梅も
八百不
其角

亀戸天満宮祭礼
神輿渡御行列之図

毎歳八月廿四日より代時
の町も練出て
て行粧美麗
産子の町も練出て
都鄙のまれ群集て
いさめの一壮観なり




亀戸天満宮御祭禮


平南御祭禮

枝を折燃の神旗二十八首を披講と又夜よ入て寝同社人松明を燈し一拝と帰ると神幸と一本社より出宮の池をめぐり楼を経て還入社前より松明を積て庭を焚其の景ハ宰府の形を写すと呼ぶ雷神祭四月初日より至て十日の夜御衣をうつと呼ぶ名残なるにや名残祓六月二十五日筥川の西大河原にて七夕和歌連歌會を興行祭禮閏年八月二十四日より御幸ありて後水尾帝の勅許よりて神輿供奉の行粧よろしく進てもむ壮観なり列當大鳥居氏里正と当日陵王川通り松代町の門旅所へ神幸ありて宰府の例に准ふ一社の法式あり其餘一年の中祈るべき事ありて幸有ハ月見連歌會九月十三日火焼神事十月廿五日より三日追儺神事節分の夜焼松前大宰府よりの須正保三年丙戌一夜菅神の霊示を蒙る其夢中十五日より三日當社の祭式いとくしく雅にして他よ異なる社記云爾祖信祐の苗裔なり始

梅の雅枝これ枝と云る發句を得たり依其後梅を改く

翁より神像を造り是を護ると傳ふ今の亀戸村より勧請と

其後寛文紀元辛丑 台命を蒙り同年壬寅始て今の

地を湯の同三年癸卯宮く社頭の光景宰府の体を摸ち

後水尾帝震翰を濯ぐ菅神のそ號をたまふ又永禄

十年丁丑一社の神事法式等宰府本官の例よ准ふと云ふ

もと 同帝の勅許を蒙る爾来神威顕赫として霊験昭

著なり當社至寶と称するの菅神御影の天図

の寶劔なり

福聚山善門院 善應寺と号す本尊

其云宗にて今大日如来を

海に寺濯ぎ干を湯とす

香燭の料よ充しとなん

御腰懸松 堂前よあり昔 大樹

御腰を 慈眼水と呼ぶ

よ用ふ善門慈眼の意を

とりて名とす

普門院

身代觀世音菩薩（當寺仏殿に安置）
縁起云大永二年壬丑千葉次胤（兼胤の孫にて重胤の三男なり）三勝の城中より
一宇の梵刹を開き此霊像を安置し長賢上人をして始祖
今の普門院となれり三勝とは八隅川綾瀬川荒川の落合ひ三俣
うるをもって名とす堂宇
沈没を甚だしく火災あり昔千葉
ならしむ
（寺伝）
（後羅髪と号す）
善次盛光
（寺伝）
（寺伝）
（寺伝）

亀戸邑道祖神祭

毎歳正月十四日
ここれを良行と
此地の童ら多く
あつまりて菱垣
造りよーたる
小き船よ又彩の
幣帛を建松竹挿
その飾ー其中
夫よ宝舟といる文字
を染くる幟を建
たるを先増戸前よ
唄ひ連て此辺を
持歩行ゆく其夜
童ら集會して祝ひ
戯るゝを
恒例とも

一身に遍まり上人額に我法一千座を修して辛うじて救世の加彼力とのべへーと夢覚て後益数重を加へ辛そを修し奉るに佛躰より汗こそして蓮臺より退よ一千座の観音供を修しなれバ四中頃より疫疾の患ひを逃ることを故よ世俗身代観世音と唱へまるとのり

卽龍梅　日呼清香庵よりめり俗間梅屋敷と称と甚だ一品なりて重瓣潔白なり薫香至て深く形状宛も龍の蟠卧如し園中四方数十丈の間よ蔓て枝高めりと枝毎よ羊地中よ入地中を出ゝ枝莖を生ゝ仆れを輪ともつきそたりもそ〳〵も屈曲めりて自然勢を存と仍卽龍の号めりと

梅譜曰　会都城二十里有卽梅偃蹇十餘丈相傳唐物也謂之梅竜好事者載酒遊之云云

神明宮　日呼よめり宮居ハ一堆の湫よめり相傳ハ上古此地ハ一の小嶋なりて其後りいと難よ遶るゝ此勢両皇太神宮の加護よりり命を含よせ敵賽のため此地よ小祠神を勧請なりり宮居を営しとぃふ（往古ハ此地ハ海なりしを夫つゝ埋たてゝ今ハ陸地よ呼りとぃふ）

細于樓　云ハ社の傍よめりて神木ともと穿てり土中より漁網よ具ともる不の碓と干たる故こゝ号るとぃふ今も此のあたりの地を汲とする時ハ必ず碓を大平樓と号く社地をも大平隈と称ぬりし依海辺のりし女人云々

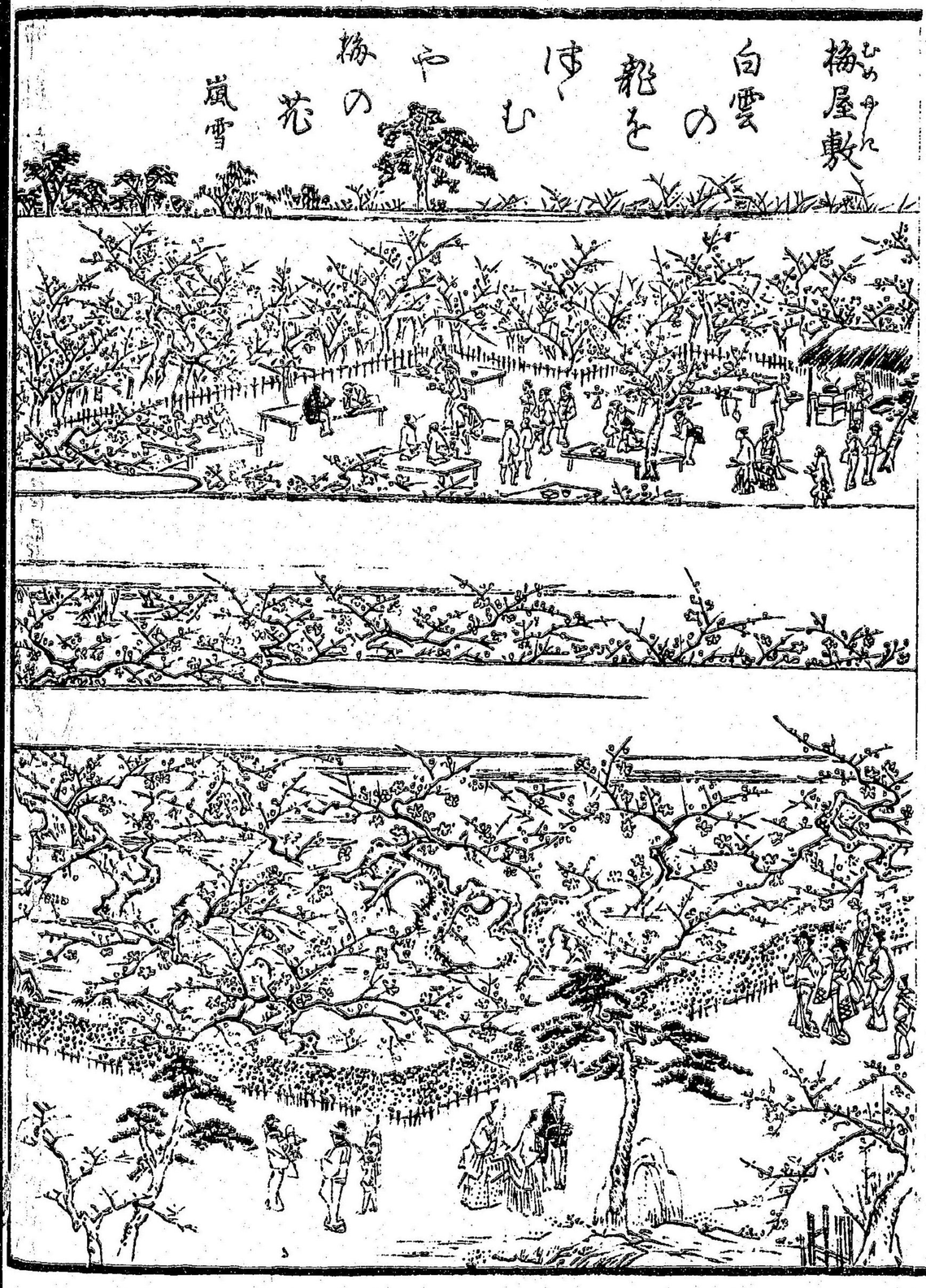
明王山東覚寺　同呼南の方にめり真言宗よりて寺嶋の蓮華ま与属と本尊ハ弥陀観音勢至の三そるより當寺ハ寛永四年辛卯草創なる呼のよりて開山玄賢法印ハ当寺の安置と良矣不動堂　當寺よ安置と良矣僧都の彫像よりて相列大山寺の孝そるとハ称緑起曰當寺往古草庵なりし時夏毎の優婆塞来りて投宿をもとめ法下許諾し其夜ハ床よ安卽幸卯歳相貞毎の優婆塞来りて投宿をもとめ法下許諾し其夜ハ床よ安卽ち聖蘭法下疾起て仏間よ入ひとすると像よ一人の壮夫の仕然とりて法下怪を其故を問とゝも壮夫ハ聲聴の如くさゝに答なる不ゝ其時投

梅屋敷

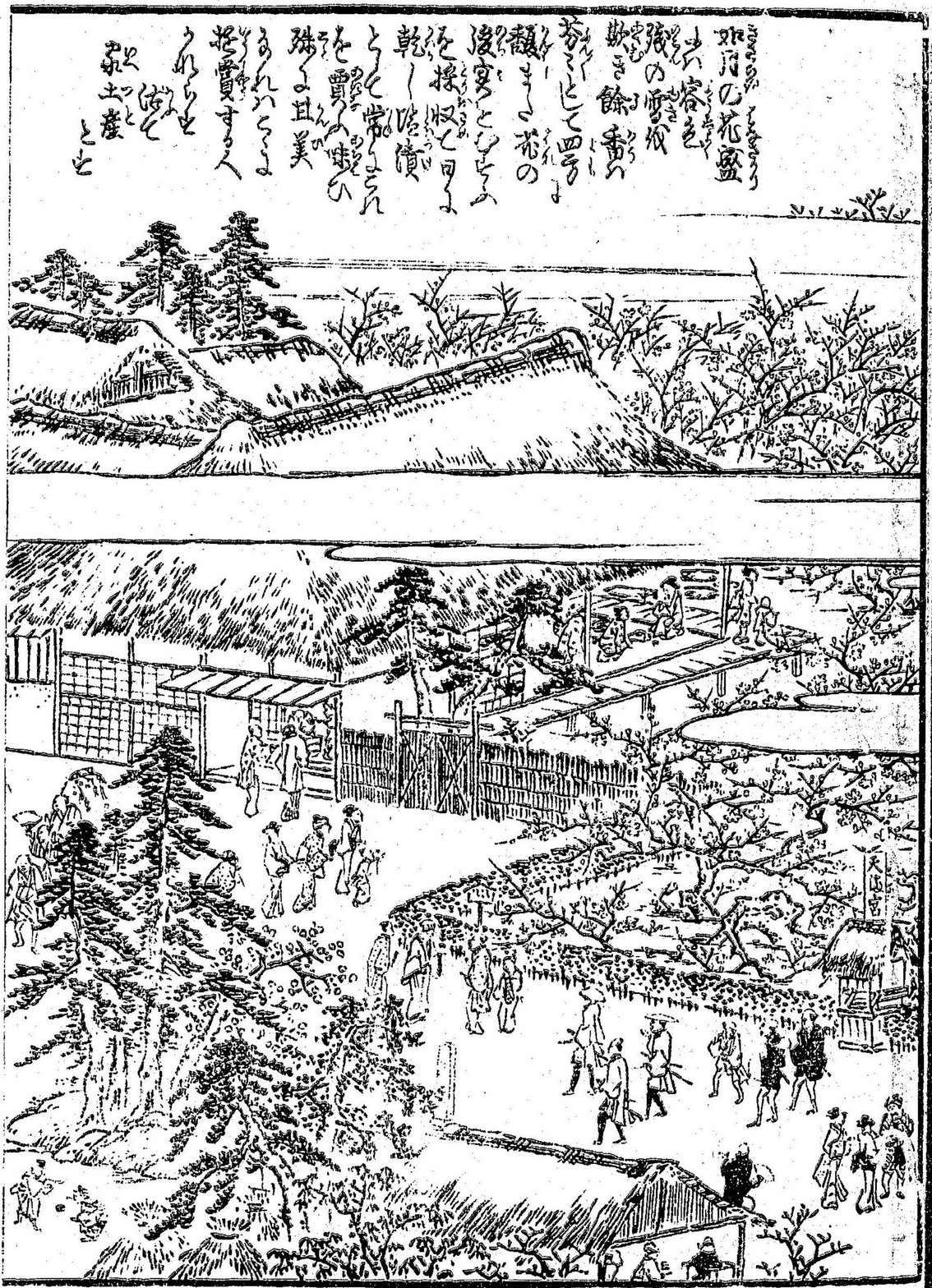
白雲の
　　亀を
　　ほし
　　む

やぶ
梅の
花

嵐雪



加門の花盛
　　よし
　　容色
　　殘の雪
　　歟
　　香
　　ことごとく四方よ
　　觀
　　まさ花の
　　浸
　　實
　　を採收して日
　　乾
　　陰
　　とうそ常
　　を賈
　　味
　　殊
　　且美
　　ものれいらくよ
　　好賈
　　うめらも
　　ぬそ
　　土産
　　と



入神明宮
六年擬

宮の優婆塞これを守護奉る〳〵ホトそこ〳〵
不思議とまて即夜の夢ふひきまりた漸
うをおそろしとおもひて語を發せうとする
其器を謝して永く良ひよひろくさひ始
を同優婆塞こそ〳〵云〳〵もう〳〵良ひ傍都相列大山寺の奥基うり其後
よ安持よ仕せ〳〵う其時傍均を供奉せ〳〵う
もう〳〵むらか相列大山寺の奥基うり其後
に附属りたひ告〳〵云〳〵人畏の大患い盗難
ひろ〳〵故うる孫おひひ見守結縁の輩も又其難を遁れそめんとそ
永寺よ相伝ひろうる今まりて二十五代当
うりもこの霊像の垂護によう呼うりこ
世よとめ一守を建立〳〵普く衆生を結縁ひんと欲
優婆塞も倦よ其意よ垂〳〵この霊像を安置
皆ひく此霊像を安と当寺これより故よ世人盗難除不動尊と称しまうる

香取大神宮　同所二丁許乾の方にあり

本社　斎神経津主命　下総一宮の神同躰

當社ハ亀戸村草創ひりの勧請まして此辺第一の古跡なり

武候よ當社ハ大職冠藤足公の勧請なりとい

例祭ハ毎年六月十四日十五日よ御行と後所ハ吾妻森より二十歩東のそりはの中よりあり往古

相殿　武甕槌命　鹿嶋大神宮
　　猿田彦命　大牟大明神　三座

此地も昔ハ大手原よりく海
まて一の離嶋ありて亀の宮ふ

香取之神宮

亀戸邑の常光寺江戸六阿弥陀巡の第六番目
うり春秋二度の彼岸
中都鄙の老若参詣
群集

本堂建立

盛礼を行なむとせし頃より此辺なくて海面ゆるゝ〳〵ゐを流し其止る地を以後所と定へしと誓ひたり〳〵小其春町ところ止ることとなり故よ今も昔の例よりより健の同ところも十同川よ亜り〳〵と神輿を舁よ移し〳〵後所〳〵神幸なりもとこと

東林山寶蓮寺　日蓮藏院と号と真言宗にて宇嶋の蓮華堂寺すよ屬と雖ども空藏菩薩の行基大士の作なり江戸三嵐空藏の一貫なり小高白山西福寺品川養願寺末なり　當寺の吾嬬権現の別當寺なり相傳嘉元年癸卯俊鍛法印草創と云所の精舎なりて始の相州小田原よりめり〳〵となり鎌倉北條家の時此地よ移とといふ

西歸山常光寺　同所一丁めり〳〵もて擂陽の總泉寺に屬と雖ども曹洞派の方にめり曹洞派の禪刹和尚と號す本尊阿弥陀如来の像の即行基大士の作なり六阿弥陀第六番目なり　来迎松の前よ存せり　中古り災の時當寺の本尊丈嬬と共よ焼を出ざりしよとよ

（時として山根上へ移して撮影す）

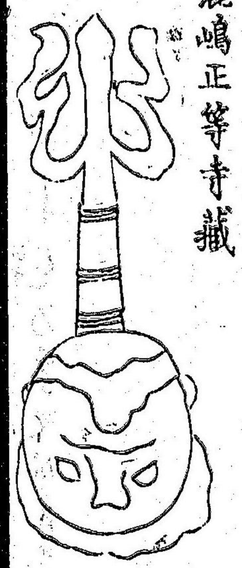
龜命山慈光院　同所十同川を隔て向よめり當寺も洞家の禪林なりて同〳〵總泉寺に屬と永正十一年甲戌葛西出雲守某の令室慈光院殿草創と云所の寺院なり開山の嵐巖和尚本尊觀世音菩薩の像の此地より東の方の土中より出現せしを以後所よ安置せる辨財天の像の智證大師の作なりて葛西出雲守某信めり〳〵靈像なりとぞ

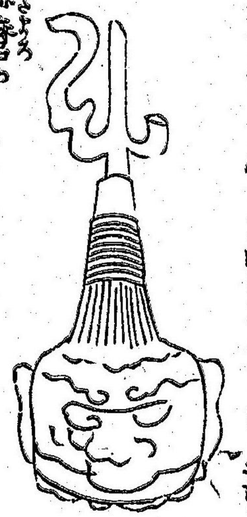
吾嬬権現社　同所十同川の灣よめり此地を吾嬬森又深川洲崎とも號〳〵別當の宝蓮寺よ属す

本社　祭神　矛槍媛命　一座

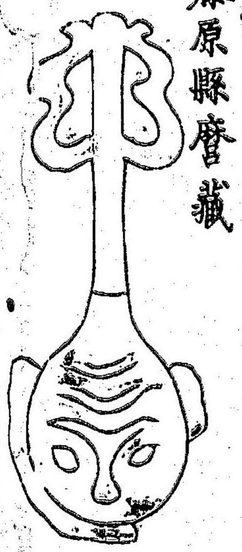
日本書紀神代巻曰日本武尊初至駿河其處賊陽従之欺曰是野也麋鹿甚多氣如朝霧足如茂林臨而應将曰本武尊信其言入野中而覓獣賊有殺王之情放火焼其野王知被欺則以燧出火之向焼

而得免
一云王所佩釵囊雲自抽之薙攘王之傍草因是
得免故號其釵曰草薙也囊雲此云武羅玖毛
王曰殆被欺則悉焚其賊衆而滅之故号其處曰焼
津亦進相撹欲往總上望海高言曰是小海耳可立
跳渡乃至于海中暴風忽起王舩漂蕩而不可渡時
有從王妾曰今風起浪泌王舩欲沒是必海神心也願以妾
王曰今風起浪泌王舩欲沒是必海神心也願以妾
身贖王之命而入海言訖乃披瀾入之暴風即止
舩得著岸故時人號其海曰馳水 下畧
相生樟 此を離るゝこと四尺ばかりにして二股よりなる社記に往古日本武尊の
焼ある上に御食しめし時樟の枝葉をもりくまなく
と宣ひ御手を自御廟の東の池にさしひたし給ひしに
後枝葉を生し今に至りて繁茂せり又
其傍山にも樟の藤あり長さ八すぢもあり
神寶古鈴一口 銅色愛すべし
是よりしきりの常陸の鹿嶋正等寺もものぐさ
ものも藏とり其形状大同小異なる故よりを臨して
鹿嶋正等寺藏





藤原縣磨藏



社記曰人皇十二代景行天皇の御宇四十年皇子日本武尊東夷を
征伐しめし時相摸國より上総國へ往もとし王舩にて来たとき
海中にて暴風頻に起り王舩漂蕩て渡るべうもなき時に
妾茅揺媛曰今風起浪泌して王舩没もとせば必海神の
心なり願ハ妾が身を以て王の命を贖ひて海へ入もと言訖て渕を
披て入ぬ暴風即止て王舩茅揺媛の神靈を
今走水と
作る 其後茅揺媛の冲嘗此邊の海上を浮ひ
命して此所に祠を壇を築うしめ端籬を巡して冲廟となせり
又其冲御の時ハ此所を不去の音聲明神是なり 當社古へ
戦の時ハ此所を不去の音聲明神是なり 當社古へ
荒陵のみそぎしを承久元年北条義時の幕下鈴木隼人正神尾
栄安井出大學等の諸士小祠を創営し神領三百石を附しより
しとなり其後永禄の頃も小田原北条氏の臣山丹波守當社
を再興せしとなり

吾嬬森
吾嬬権現
連理樟

鳥うたふ
ものみな
春ぞ
うちとけそめし
川べ

入江の
波そ
うつ
そる

葛飾北斎 画

日本武尊東夷征伐ノ時相模國ヨリ上総ノ國ヘ往ントシ給ヒシニ其海上暴風忽ニ起テ王船漂蕩ト化シテ妾弟橘媛自ノ御身ヲ捨テ尊ノ命ヲ贖ヒ海神ノ怒ヲ鎮メ東ノ岡ヲ掘テ入タマヒシ事ハ日本紀ニ見エタリ

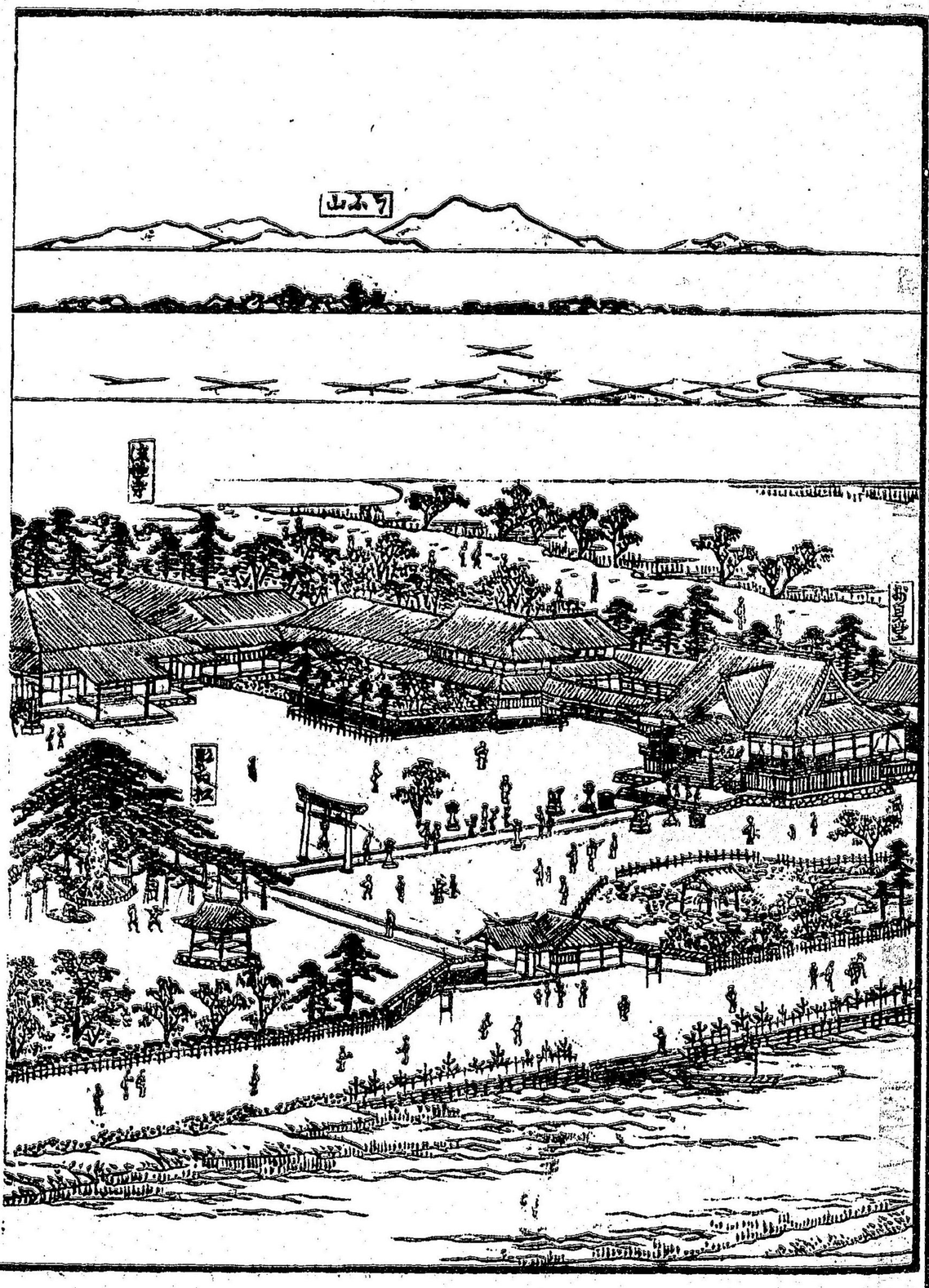
拂ふ小田原北条家の所領殺懸ともまぎれ山脈
井の亀戸村へ掛て則此社の北の入村をとり
祇児ーかうしんを

薙髪聖徳太子堂　同所亀戸天満宮の裏門の通り川端より傍
て慈雲山乾眼寺とよべる天台宗の寺境よ安置ゝ聖徳太子の
御影ハ太子自親彫造ゝ
妃との髪髪を薙ゝとゝ
う故よ薙髪太子と称ゝ　當寺藏　太子御齢二十二歳同年十月廿八日檜隈宮よおひて霊夢を得
て自親影像を作り班鳩の夢殿よ納たまふ　太子傳暦等よ此事影像
甚後代ゝの帝王大寺をなし
七年ゝ百濟寺を営ゝて安置奉
ゝ　慶長七年壬寅ゝ
遷の間南都大安寺及ひ花洛蓮花王院高雄の神護寺
豆別田方の般若王寺相別鎌倉の法華堂武別小菅の最明寺
江別滋賀菅原寺横別金昭寺ゝ移ゝ奉ゝ　寛ゝ當寺よ安置
壬午十月武別荏原郡の清谷寺より移ゝ　長ゝ當寺よ安置
ゝ奉ゝとゝり
當寺の後園萩を多ゝ栽て中秋の頃開花の時節ゝ壮観
たゝり故ゝ四俗萩寺と字せり
妙見大菩薩　ゝ川端橋を越て向ゝ角よゝり日蓮宗法
性寺よ安ゝ本尊の来由詳ならず　辺ゝ霊験著ゝゝ詩人
常よ絶ゝ堂前よ影向松と字る霊樹ゝり本尊初て此樹上よ
降臨ゝりゝとゝり故よ星降松とも千年松とも呼ゝ元和の頃
大樹　此地よ至ゝゝ頻更て境の松と号を揚ひゝゝと
傳ゝ
天松山最教寺　同所二丁ゝゝ
ゝて本尊よ釋伽如来の像を安ゝ寛永年間延山二十七世通
心院日境上人開基ゝ當ゝて鎌倉将軍惟康親王薨古鎮制

龍眼寺

庭中萩を多く栽て中秋の一奇観たり俗呼て萩寺と称す萬葉集萩を詠ずる作多く和名抄鹿鳴草と作る續日本後紀仁明帝嘉祥元年八月清涼殿に内宴ありて皇朝古今の讌とす長安芙蓉の讌と宜華

愛宕詣の事

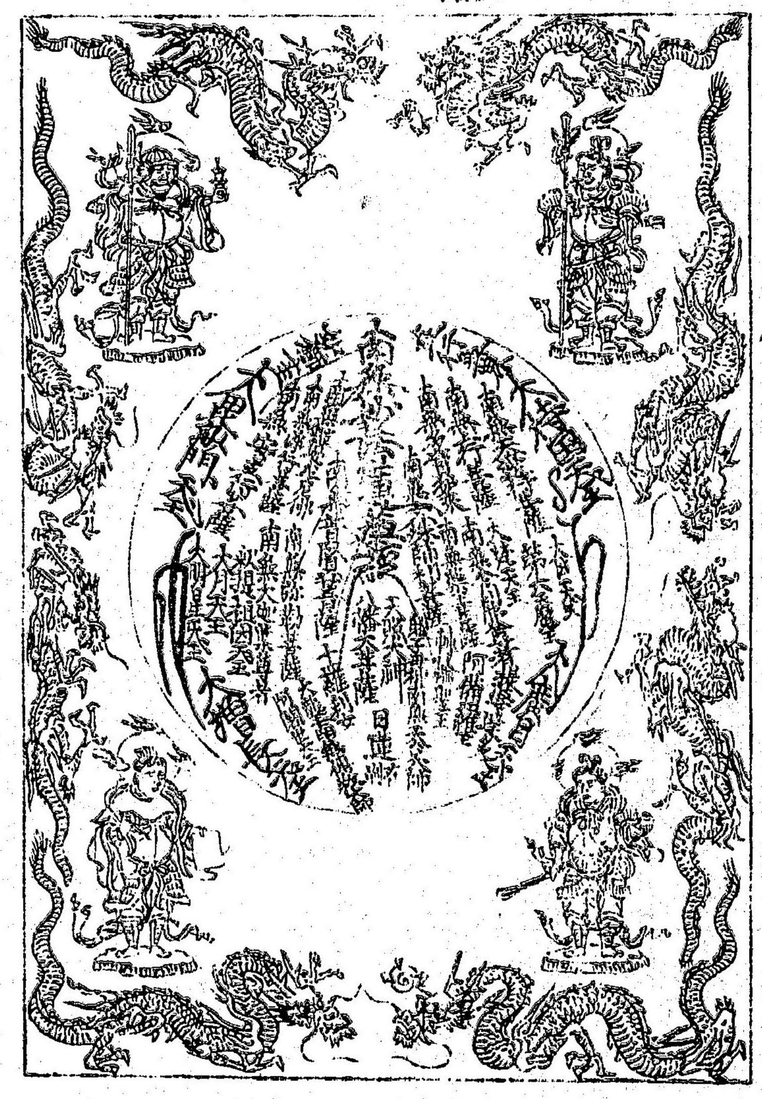

山ふり
清水寺
地主権現
音羽の滝

柳嶋妙見堂
山ふり

押上

最教寺

當寺ニ蒙古退治の祖師茶羅あり



竪六尺五寸

日の丸旗曼荼羅　一幅

のみを書しむる呼の日蓮上人真蹟の曼荼羅の旗あり

七面堂　境内より本山身延同躰の霊像うつしたゝ澤流杉檜の本そだちて當寺等二冊の

但持仏能院日栄ゝ百日北行して沖の傍ら北殿を建立ゝゝ

安政七月十六日

よりかの一ノ北二日

七面堂より掲て諸

人を除ゝ

月の丸の曼陀

羅八身延山ゝ

あり

両面之大旗来由記

弘安四年辛巳五月二十一日従大元國蒙古賊船四千余艘人數二十四万余責来七月於九州戰時這八大龍王之御旗先立向親王九列給時某為鳥聖人為祈禱之其時八大龍王之御旗先立向親王九列給時某為鳥聖人為祈禱之大漫荼羅令書此御旗則日本霊神擁護有神風吹彼賊船皆悉破異國江追拂給目出度旗成故

蒙古退治旗曼荼羅来由

三年庚辰春二月 元至元十七年ニ當ル 濵傳ニ統の世祖の至元一年 日本文永高麗人蒙古ヲ誘引ノ間之年八月 蒙古ノ使日本ニ来ル 者と稱の間之年八月 蒙古ノ使日本ニ来ル 安西ノ平近元使日本ニ書ヲ呈ス 元王憤て打剌罕 元ノ官名 等を遣して日本を攻て降を乞ふ 范文虎及忻都洪茶丘等の四將軍師十萬を率て

人皇九十代後宇多帝御宇弘安四年辛巳 這両面之大旗者 惟康親王所持之御旗也 弘安四年五月二十一日 擬大元國蒙古賊船四千余艘人數二十万余責来七月於九州戰時這八大龍王之御旗先立向親王九列給時某為鳥聖人為祈禱之大漫荼羅令書此御旗則日本霊神擁護有神風吹彼賊船皆悉破異國江追拂給目出度旗成故

宇津宮貞綱判 安達弘安 宗仲判 夫木 上村 池上村 武州 右衛門太

蒙古退治旗曼荼羅来由

三年庚辰春二月 元至元十七年ニ當ル 濵傳ニ統の世祖の至元一年 日本文永高麗人蒙古ヲ誘引ノ間之年八月 蒙古ノ使日本ニ来ル 者と稱の間之年八月 蒙古ノ使日本ニ来ル 安西ノ平近元使日本ニ書ヲ呈ス 元王憤て打剌罕 元ノ官名 等を遣して日本を攻て降を乞ふ 范文虎及忻都洪茶丘等の四將軍師十萬を率て

人皇九十代後宇多帝御宇弘安四年辛巳 這両面之大旗者 惟康親王所持之御旗也 弘安四年五月二十一日 擬大元國蒙古賊船四千余艘人數二十万余責来七月於九州戰時這八大龍王之御旗先立向親王九列給時某為鳥聖人為祈禱之大漫荼羅令書此御旗則日本霊神擁護有神風吹彼賊船皆悉破異國江追拂給目出度旗成故

宇津宮貞綱判 安達弘安 宗仲判 夫木 上村 池上村 武州 右衛門太

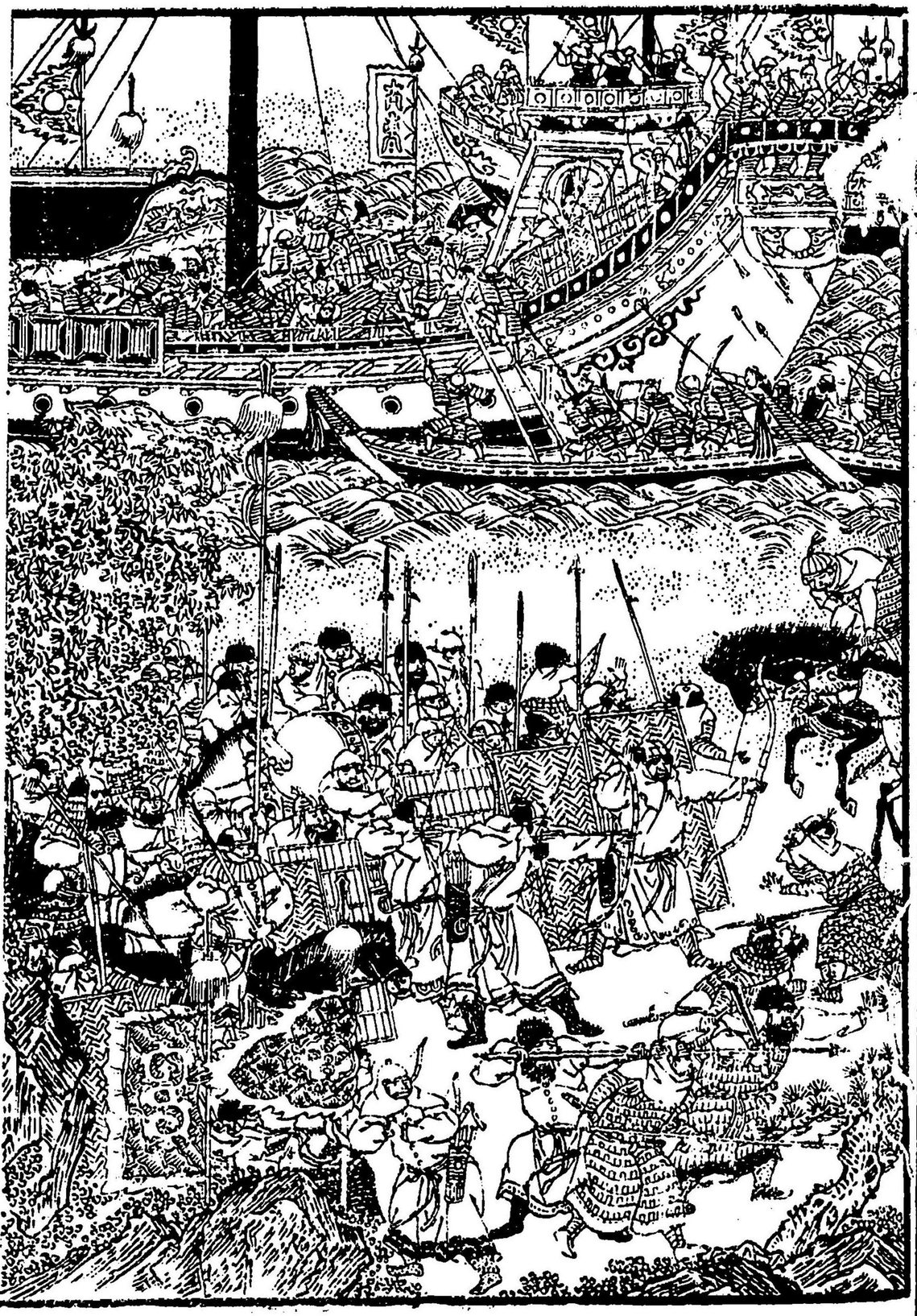
両面之大旗来由記

弘安四年辛巳五月二十一日従大元國蒙古賊船四千余艘人數二十四万余責来七月於九州戰時這八大龍王之御旗先立向親王九列給時某為鳥聖人為祈禱之大漫荼羅令書此御旗則日本霊神擁護有神風吹彼賊船皆悉破異國江追拂給目出度旗成故

蒙古退治旗曼荼羅来由

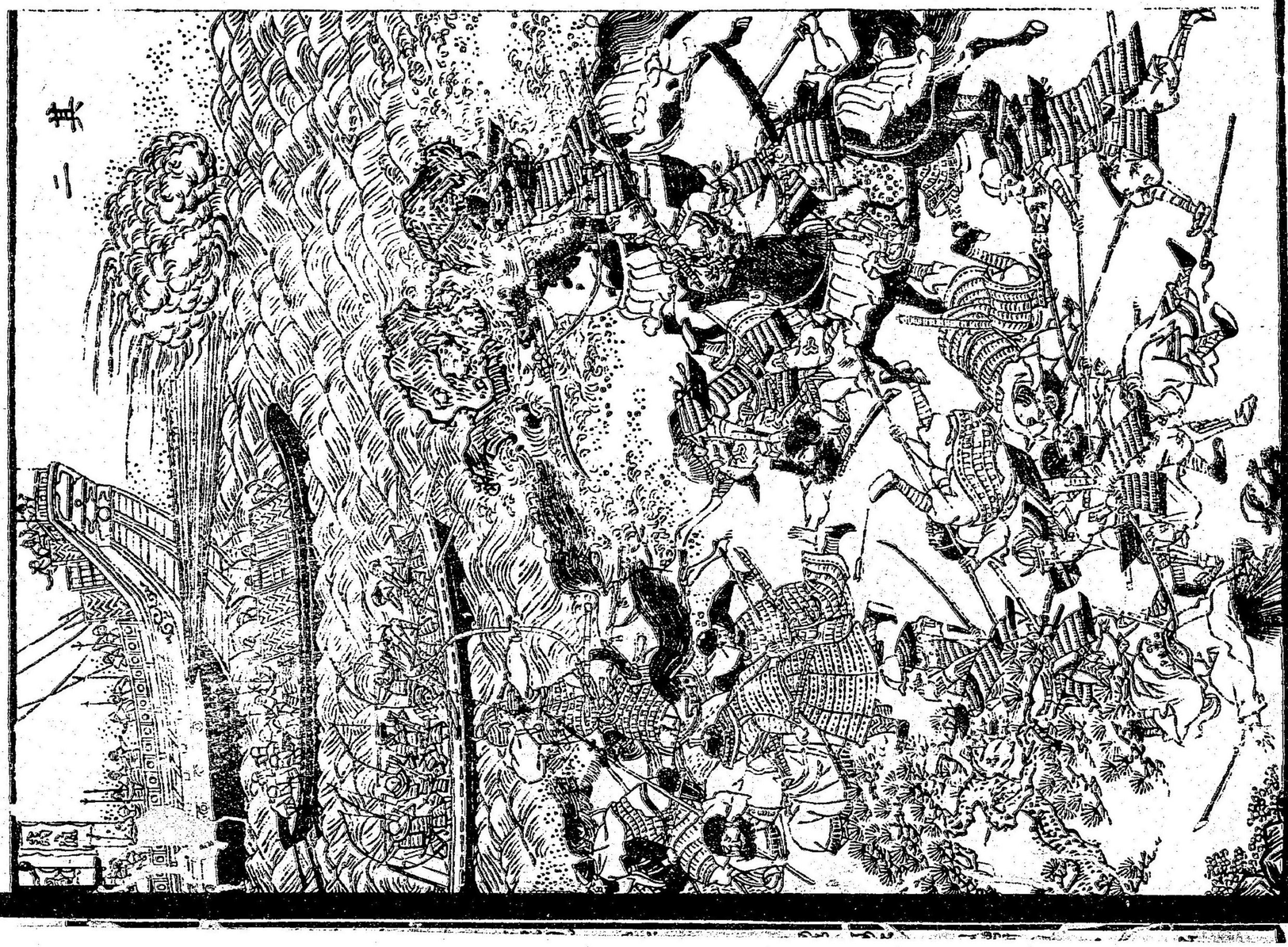
三年庚辰春二月 元至元十七年ニ當ル 濵傳ニ統の世祖の至元一年 日本文永高麗人蒙古ヲ誘引ノ間之年八月 蒙古ノ使日本ニ来ル 者と稱の間之年八月 蒙古ノ使日本ニ来ル 安西ノ平近元使日本ニ書ヲ呈ス 元王憤て打剌罕 元ノ官名 等を遣して日本を攻て降を乞ふ 范文虎及忻都洪茶丘等の四將軍師十萬を率て

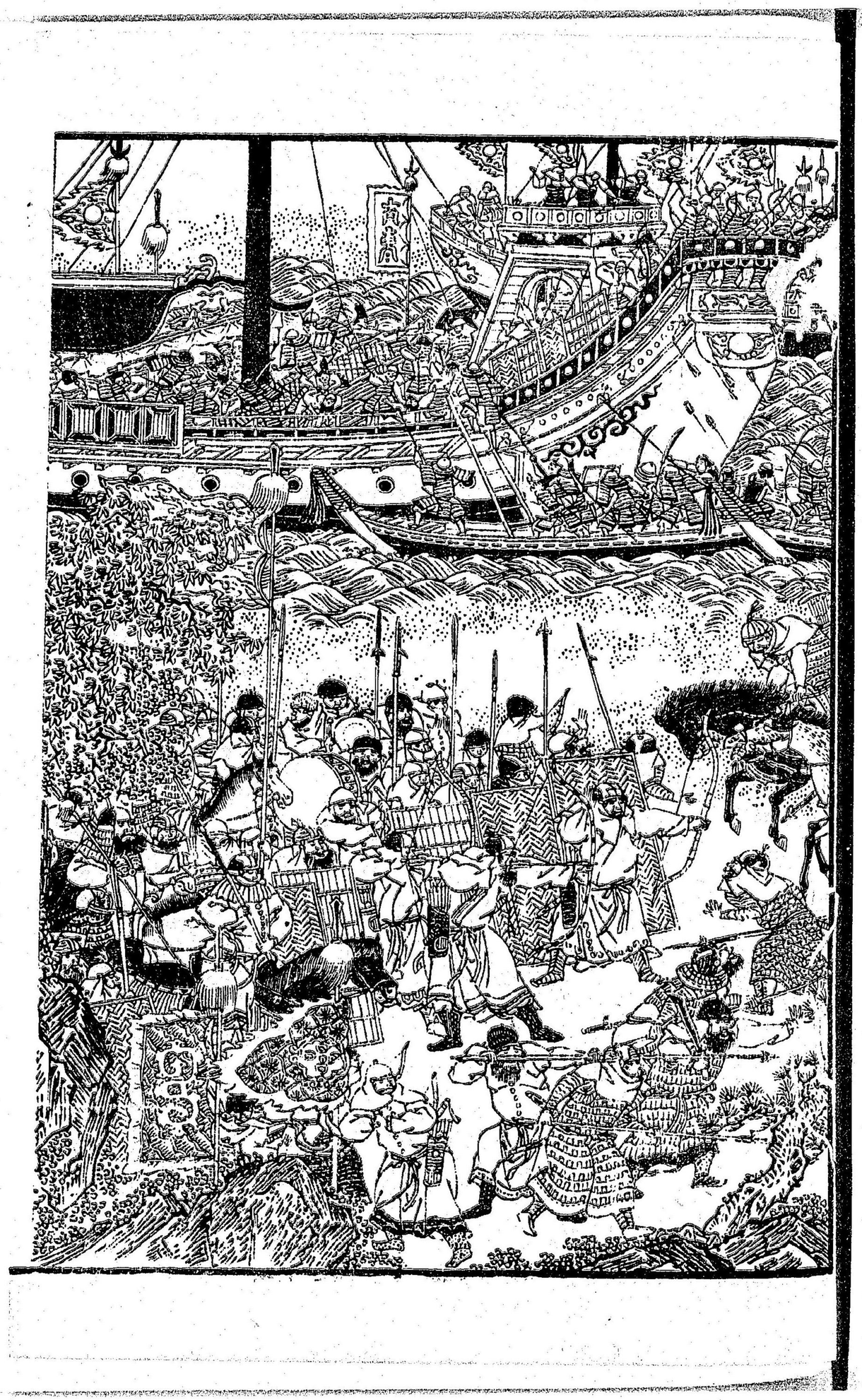
人皇九十代後宇多帝御宇弘安四年辛巳 這両面之大旗者 惟康親王所持之御旗也 弘安四年五月二十一日 擬大元國蒙古賊船四千余艘人數二十四



鎌倉将軍
惟康親王
蒙古夷賊
退治の図

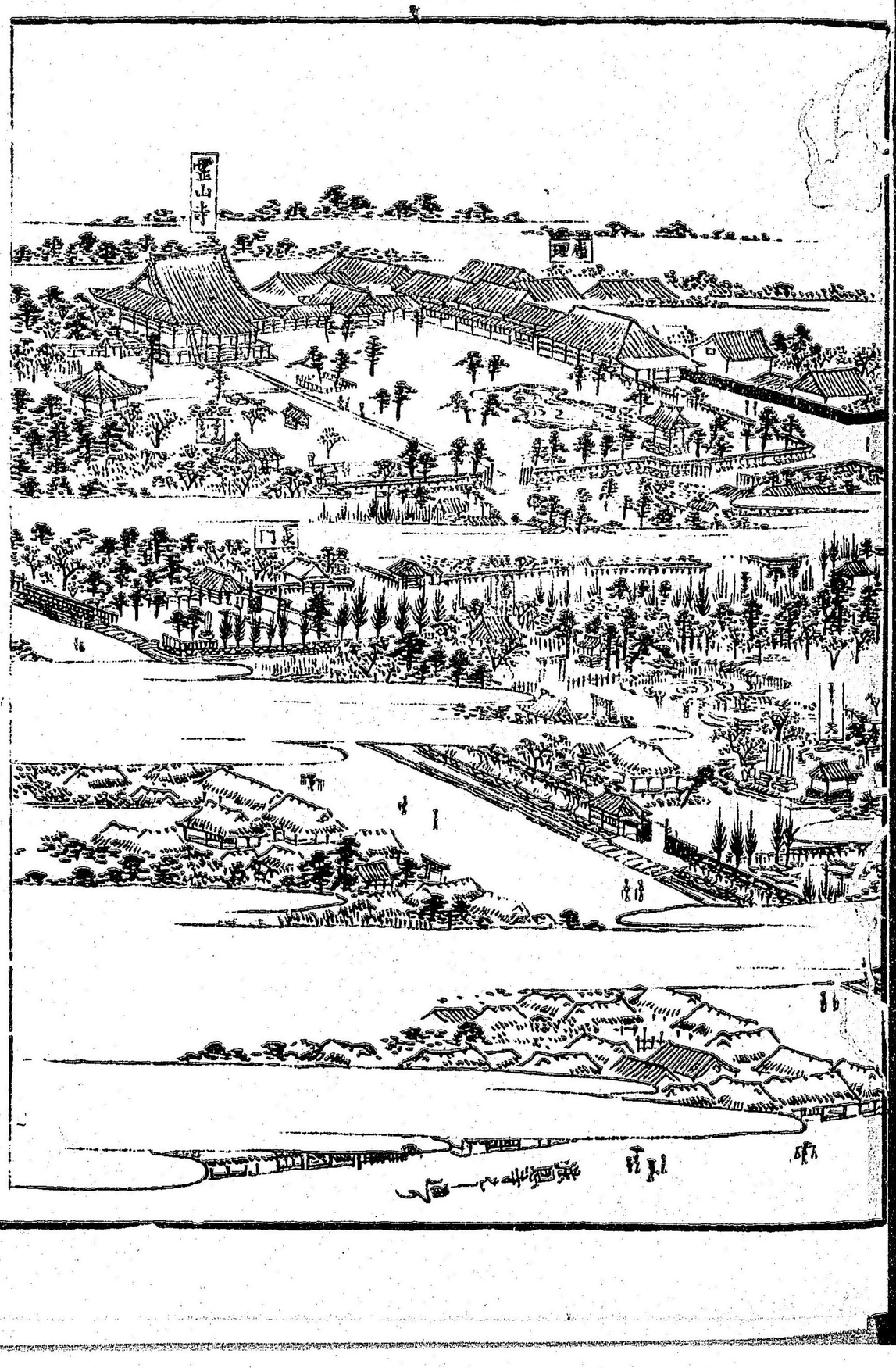
萬五等を赦して國よ還す是此事成えまたしめんら
ねうり蒙古の敗卒還るるを得る者僅よ此三人のみ
云えの廿祖の至え十八年日本を擊兵十餘萬海鳴よ死を還るるを得る者僅よ二十人とのみ
を異称日なげよ三十人の十のまい術うりと元史に十萬の兵還るるを得る者三人のみと
わりて三人の名を挙たり同日く莫青同く異萬五等なり以上元史日本傳東國
通歴続資治通鑑綱目大學衍義補五倫書帝王編年集成太平記北条九代記當手
縁起等の要を抽
依凱陣の後動賞うて永く此猿を貞綱に賜て永く納む然を當寺開山日境上人ま
綱来由を書して身延山よ
延より携ら未まうく永く尚まの什宝たちしむるとなり
寶聚山大法まり同三年丙戌創立の梵宇まして同所法
恩まに屬を當まい大永六年丙戌創立の梵宇まして開山い
法恩まり等八世大權院日巧上人なり其頃法恩まと共よ
今の御廟内平川の北よめり
同今の北よ轉ちしむるとうの
番神堂本堂の左よあり番神の像い日巧上人の作うり日巧ロ伊六歳の時疱瘡
を病ひて死ぬり又甦りし事に依りて番神の霊

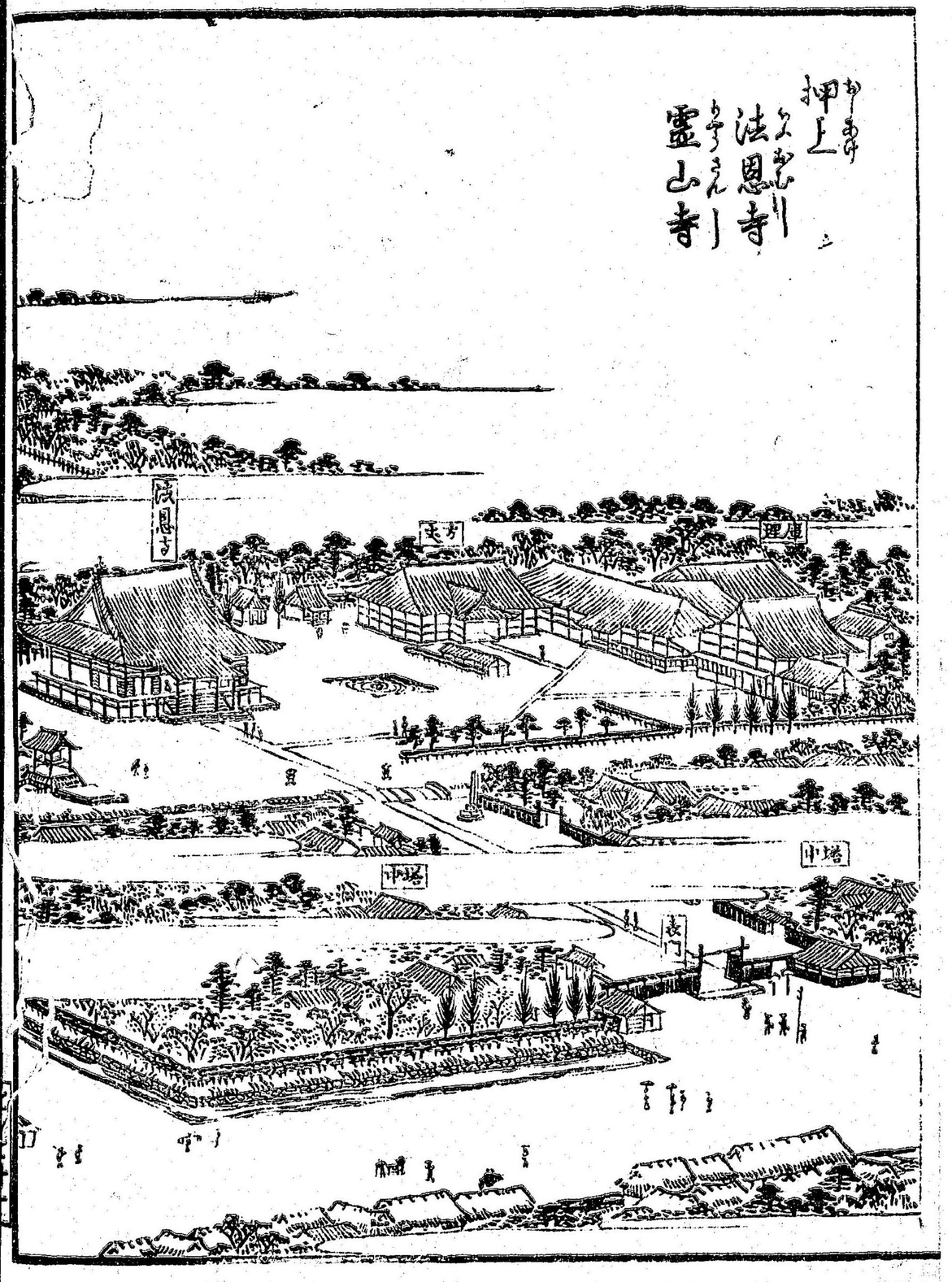




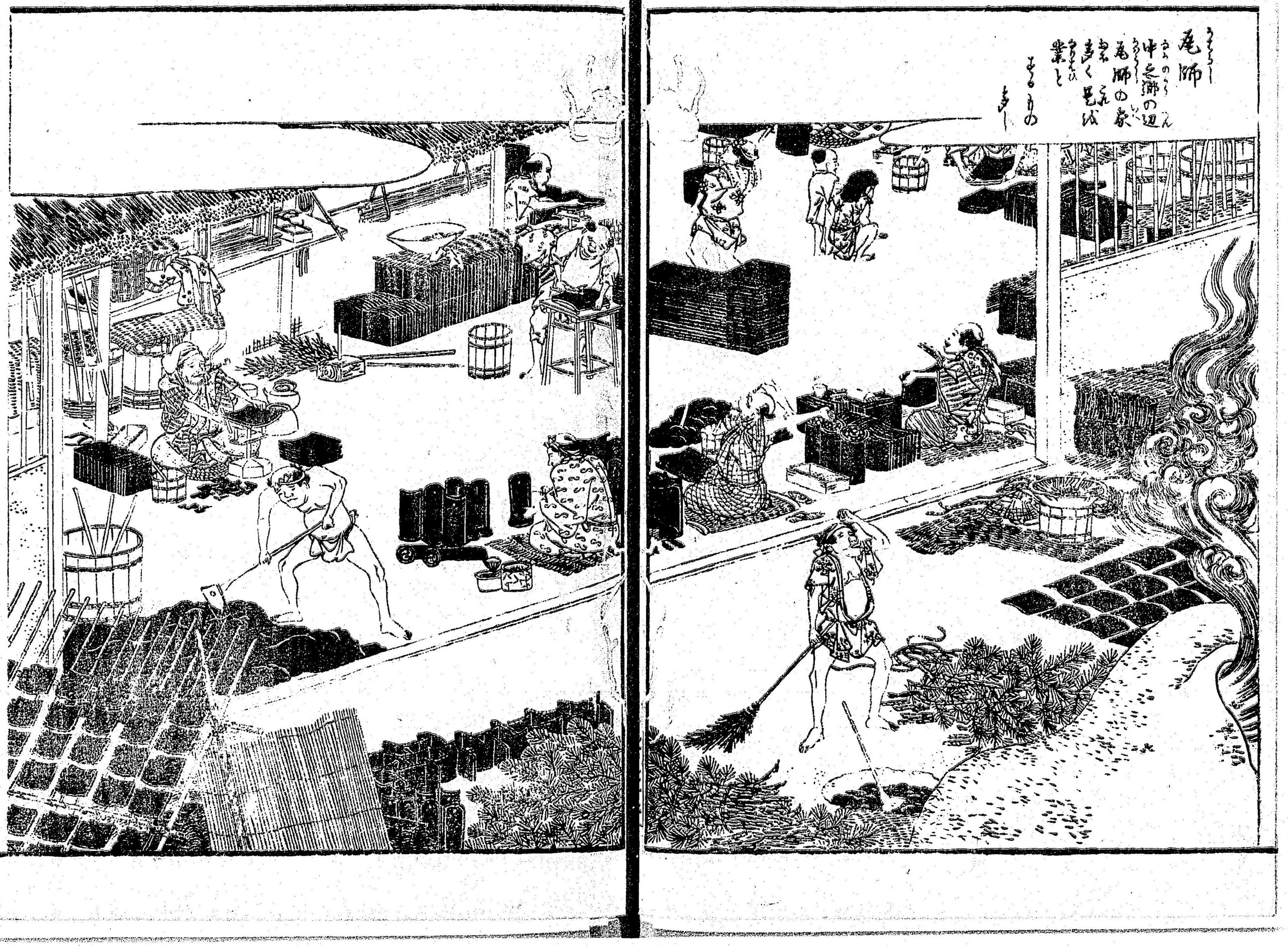
萬五等を赦して國に還らしむ是此事に依て主上の
恩澤を蒙古の敗平還るを得る者僅に此二人のみ
云その廿祖の至元十八年日本を擊浜十餘萬海鳥に死を還るを得る者僅に二十人とのみ
を異称日ふ佛に二十人の十の字あり斬りと云元史に十萬の兵還るを得る者二人のみと
あるて二人の名を挙げり同く間同く間同く間同く異萬五等なり以上元史日本傳東國
通歴続資治通歴綱目大學衍義補五倫書帝王編年集成太平記北条九代記當朝
撮起等の要を抽 依て凱陣の後勳賞を
綱来由を書して身延山に納む然を當寺開山日澆上人
延より携来まるまゝ永く當寺の什宝たらしむとなり
寶聚山大法寺 同三年丙戌創立の梵宇にして同所法
恩寺に属を當まゐ大永六年丙戌創立の梵宇にして開山
法恩寺第八世大權院日巧上人なり其頃法恩寺と号よ
今の御廟内平川の北よりありしを同今の地に轉ちしるとなり
番神堂 本堂の左よりあり番神の像を病魔よけ又田畑の害虫を除

数出でゝ則ち麿布石と号す蓋神の加護ありてそ法書をいひ顕すと
今
麿布石　當寺本堂に秘安と今卵塔の中に其摸を置たり眞物は日蓮上人親筆の
亀戸村黄い薬倉への海道たり建長五年日蓮上人下総國より縁舎人云往た此墨石亀戸村の北
布石と号く其後十葉石とも称せり然るに日巧上人は依性千葉氏なりし布に生れ深度の後當寺を創ゝし此霊石をもちて法書をいひ顕すを又
開山を二十番神の守護ありとも
即ち麿布石の事なり
常在山霊山寺　二尊教院と号す同所の南法恩寺の北に隣る
浄家十八檀林の随一なり　教院といふ　開山は念蓮社專誉
の作釋迦如来の像は慈覚大師
上人大起和尚と号す中古寺院既に荒廃し檀林の統脈絶んとせしを最蓮社親誉俊應和尚深く此事を慨屢
官府に訴へて寛貞享二年檀林再興の命を蒙りて往昔の浄
域に復そうれとも功を後住に譲て武州鉢谷村に隠る故に
光蓮社明誉遊安廓栄和尚を中興開山とす廓栄和尚は一宗





法恩寺
靈山寺


地獄
中之獄の辺
地獄の衆
多く罪ある
業と
するあり

の高徳碩学まして往生要集指麾抄を著し大よそ行なわれまし元禄年間今の地よりほど遠からざる知恩院尊空法親皇御庵室に浄土傳燈系圖曰

浄土傳燈系圖曰
安邦親王子入宇靈巖室剃染嗣法住洛知恩院元祖 元年十一月七日 敬

観音堂 本堂の前右の方にあり 掛圖一幅厨子入念持佛なりとぞ

平河山法恩寺 押鳥出村町にあり日蓮宗まして花洛本圀寺の觸頭江戸三箇寺の一員たり本堂は宗祖上人の像を安置

日法上人の作なり相傳ふ當寺は太田大和守資高 道灌の孫なり法華靈場記に日悦と號す 十二間追悼の為三田村の内を寄附し日住上人を開祖とす

別六永四年甲申武州江戸下平河に精舎を營建し一家の靈

牌を居ると云云

三十番神堂　本堂の前左の方にあり関東古戰場といふものゝよし云傳ふ三十番神の堂
に遺高北条氏を崇き里見義弘コヲをあそこ永く豊嶋郡の地を知行ともそこに再びこゝに
もう一番神堂の前にそ祢あるを呑ける悪ひ宝ゆるうつゝ再びこゝに
記せり甚だ今の沙城内
平川の地よりこゝなり

當寺往古い今の御城内平河よりて本住院と号せしとなり北条氏の
呼代授順よりて後寺名を三田内当所なの地
隣をとりて幼年住院のまを云ふへし
そえたり遠よ天正の後柳原の辺へ移されたりといふ
轉ぢれ元禄の初今の地へひらる天台宗の寺境よりて傳ふ

葉平天神社　中の郷南藏院とりる云
在原葉平朝臣の霊を鎮むると云
の舟うのうの浦まて曳渡り関死七乃里民
ふりけり其在所を今も葉平村と云と又江戸廻よる舟の
とを葉の一本も葉衡よ作り武まと
そえ永涼亭云く此祠横い今小梅の水府公はやしきの地にあり横川

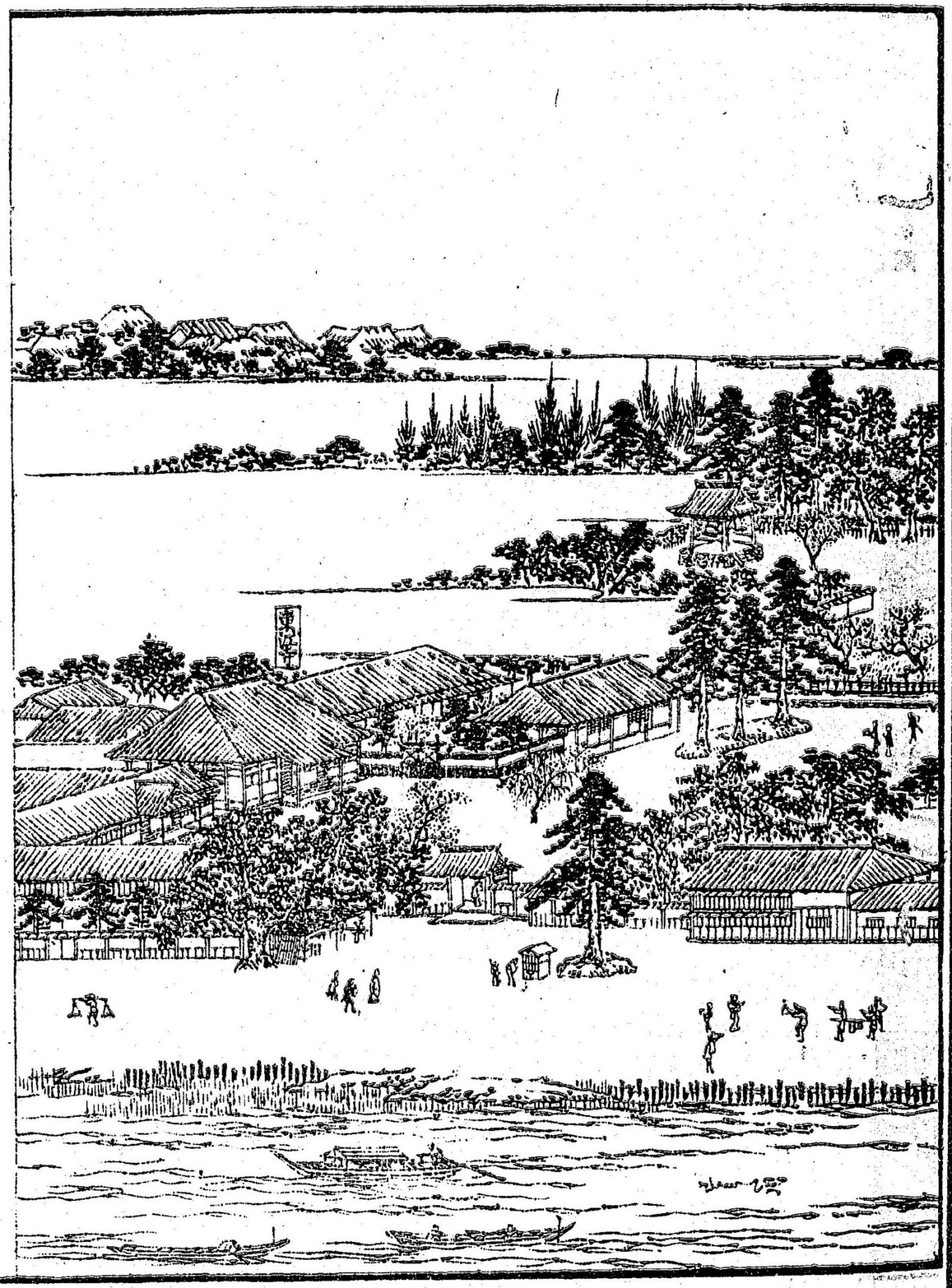
の地より移すと云ふ又南向
中ねのきとりよへ云を誤りて中のと云と伝へんとも附會
よし南向亭の茶作よりの誤ならんと云ふ南向亭の三吉野の里い
在五中将の詠よりとなりぬるとよりめ
神の相殿に葉平の霊と菅祖とを合せ
そ他伊勢物語よりも葉平の霊を齋まつり潜神をも勤請ぢて今よ
葉平天祢とぞ称しるなんとあり此説の如く伊勢物語を作りたるものと
ふ後世よ附會ぢてのなるへし

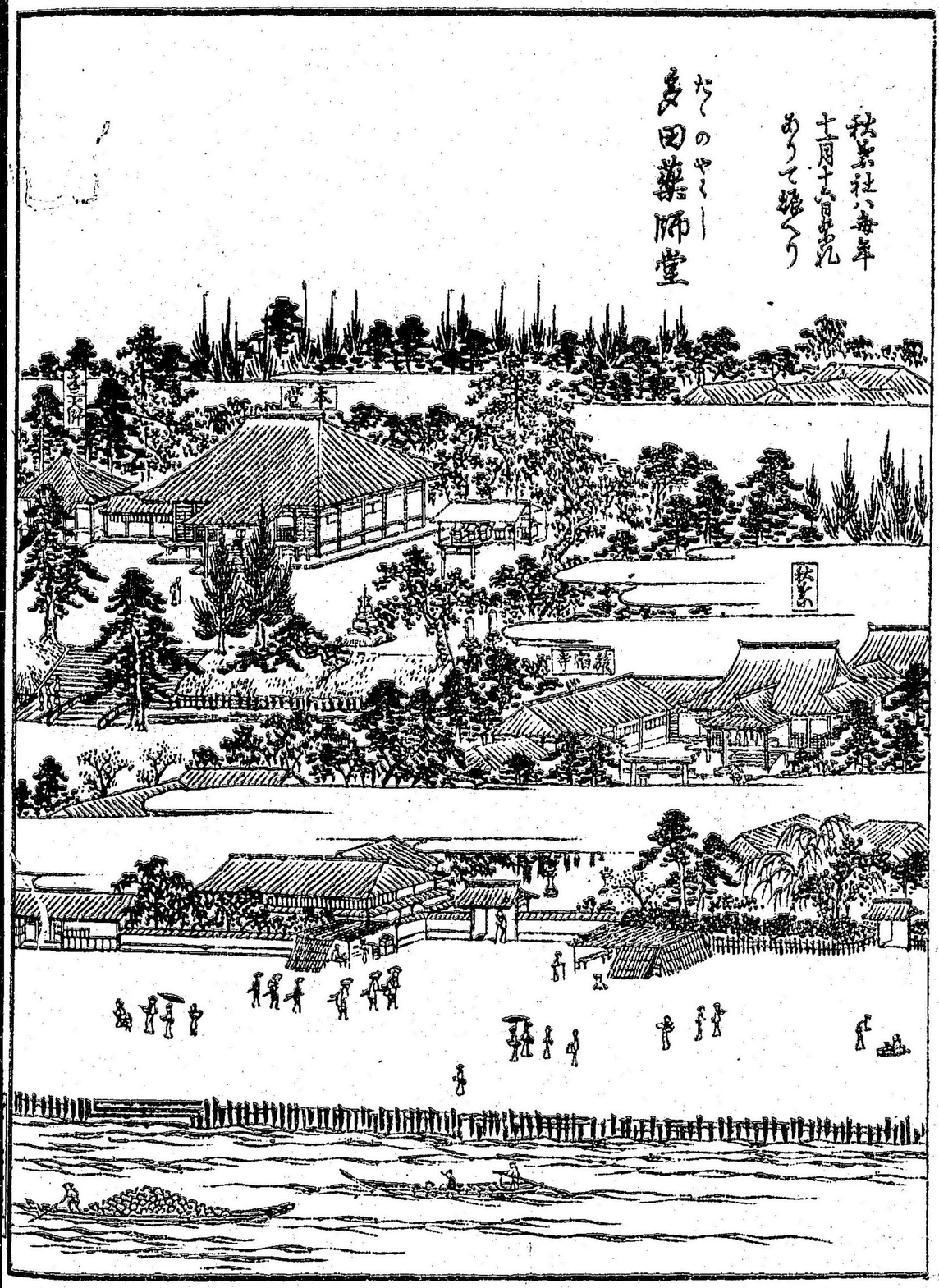
中郷八幡宮　同所南の方蔬井町よりあり南番場町天台宗泉
龍寺奉祀ぢ祢傳ふ文明七年ぢまの鎮坐ありとぞ
大六天祠　同北よ陽る大川端普賢寺別當たり當社も文明五年
奏已の勧請ありと云傳ふ

多田藥師堂　同所大川端にあり玉島山明星院東江寺と
号ぢ天台宗東叡山よ屬ぢ
惣門よ掲る所の玉島山の額い韓人雪月堂
李二錫の筆なり本尊る藥師佛の像い恵心僧都の作ぢて
多田満仲公の念持佛なりと
祢傳ふ村上帝御宇天徳二年摂別ぢ多田郷に一宇の伽藍を

秋葉社八毎年
十月十六日祭
めりて練くり

たつのやく
多田藥師堂





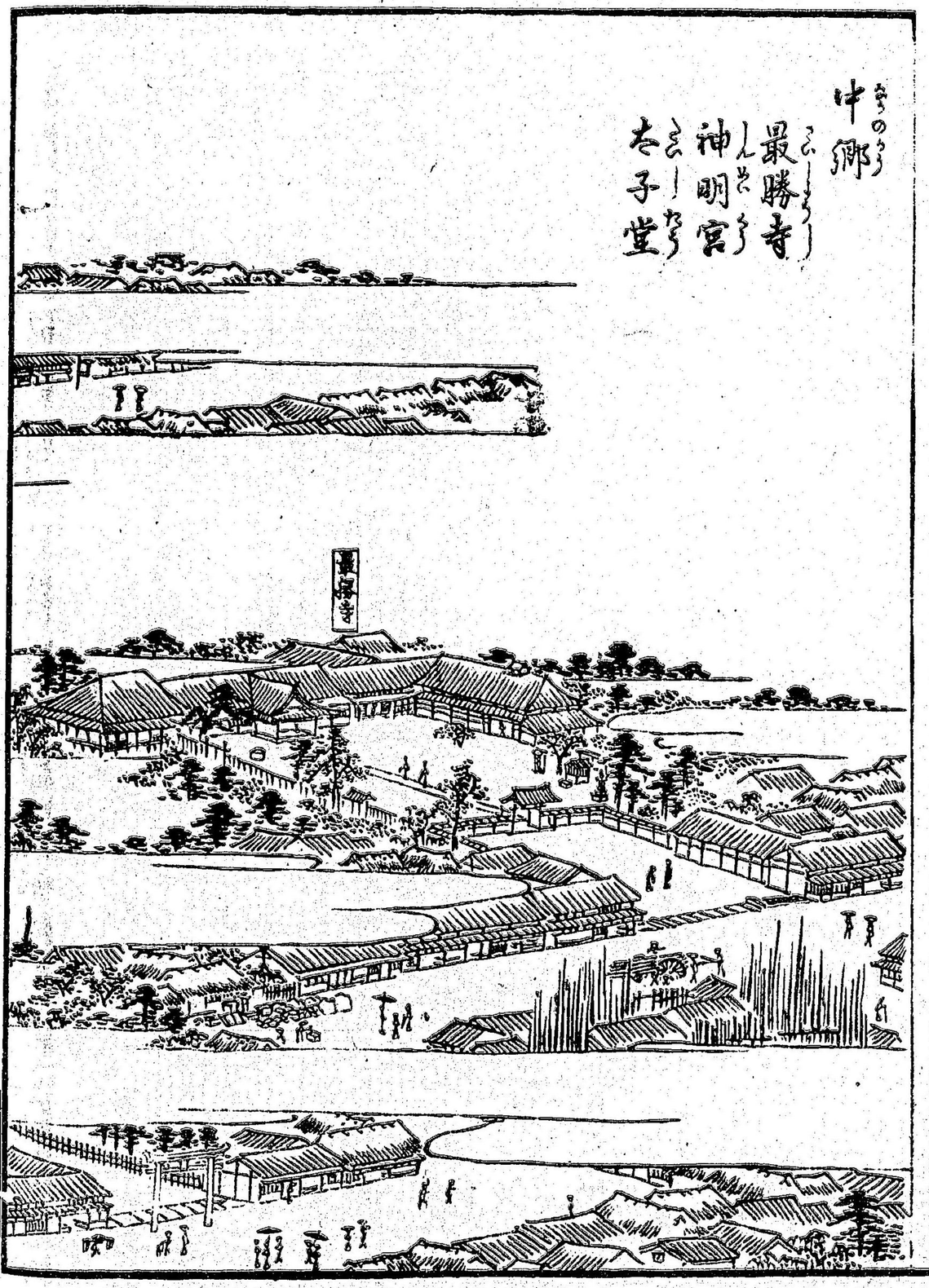
造營あり〻〻沙羅連山石峰寺と號し此木像を安置し其
後文永の頃兵火に罹て一山の大
衆ともに此木像を石龍に收めて山中に埋め奉り然
るを天正二年郷民等沙羅山中において
此石龍を穿出せり蓋し沙羅連山石峰寺藥師の銘あり郷
民等奇異の思ひをなし一寺を營て是を安置し同八年
其庵主宗玄と云者に木像を告ゆるありて京師五条の因幡
堂へ暫く安置し又五條の橋詰東の方若宮八幡宮の辺
に堂舍を建て石峯寺と號し寶永の頃彼寺黄檗の千
呆和尚深草に移を其時故ありて本像藥師佛を當寺
安置なし奉るとぞ
照法山本久寺　北本所表町よあり日蓮宗にして平賀本土寺
に屬し天正二年乙亥の創立にて開山清眼院日右上人と

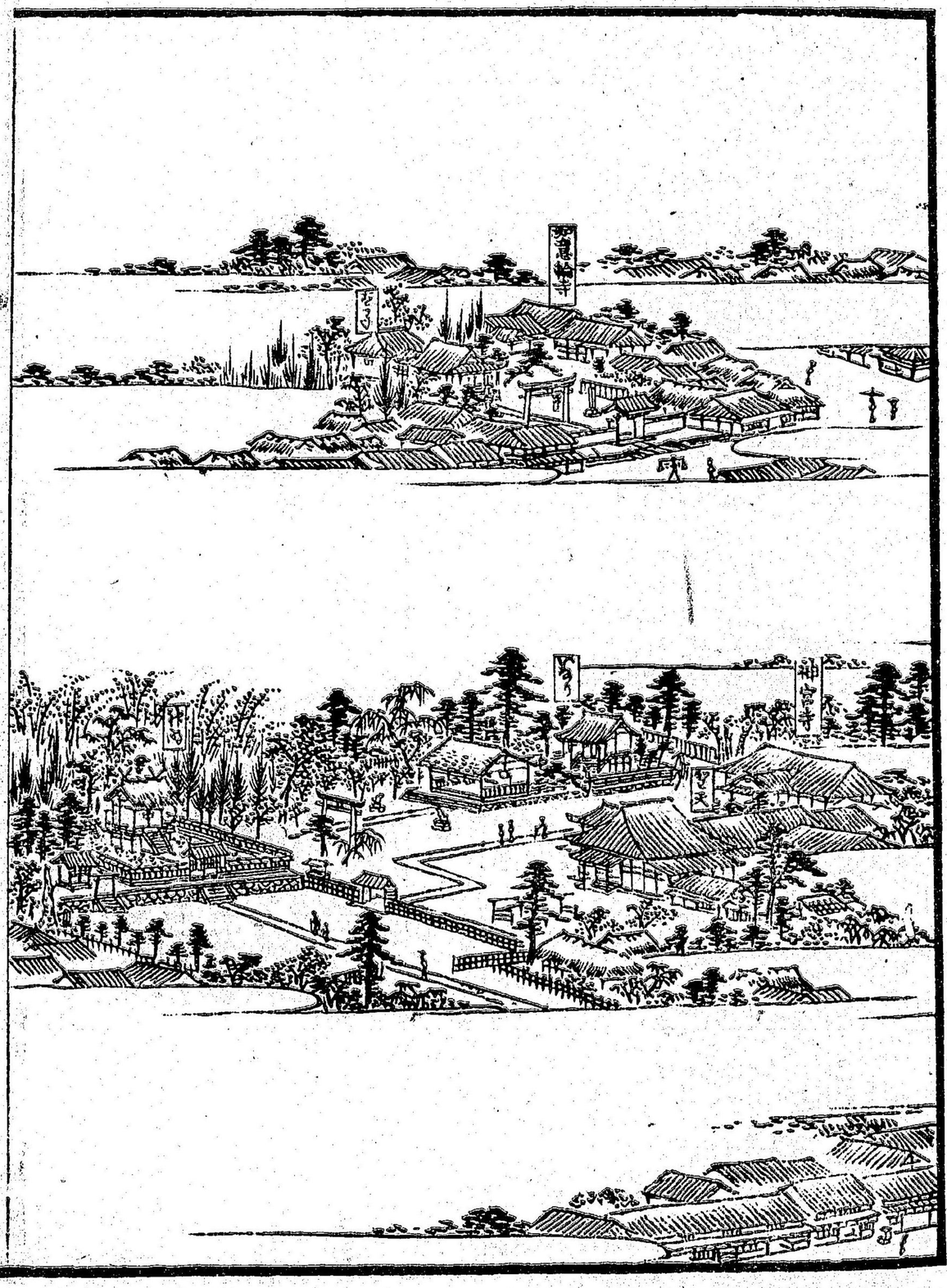
中郷（なかのごう）

最勝寺（さいしょうじ）

神明宮（しんめいぐう）

志（し）ゐ子堂（こどう）

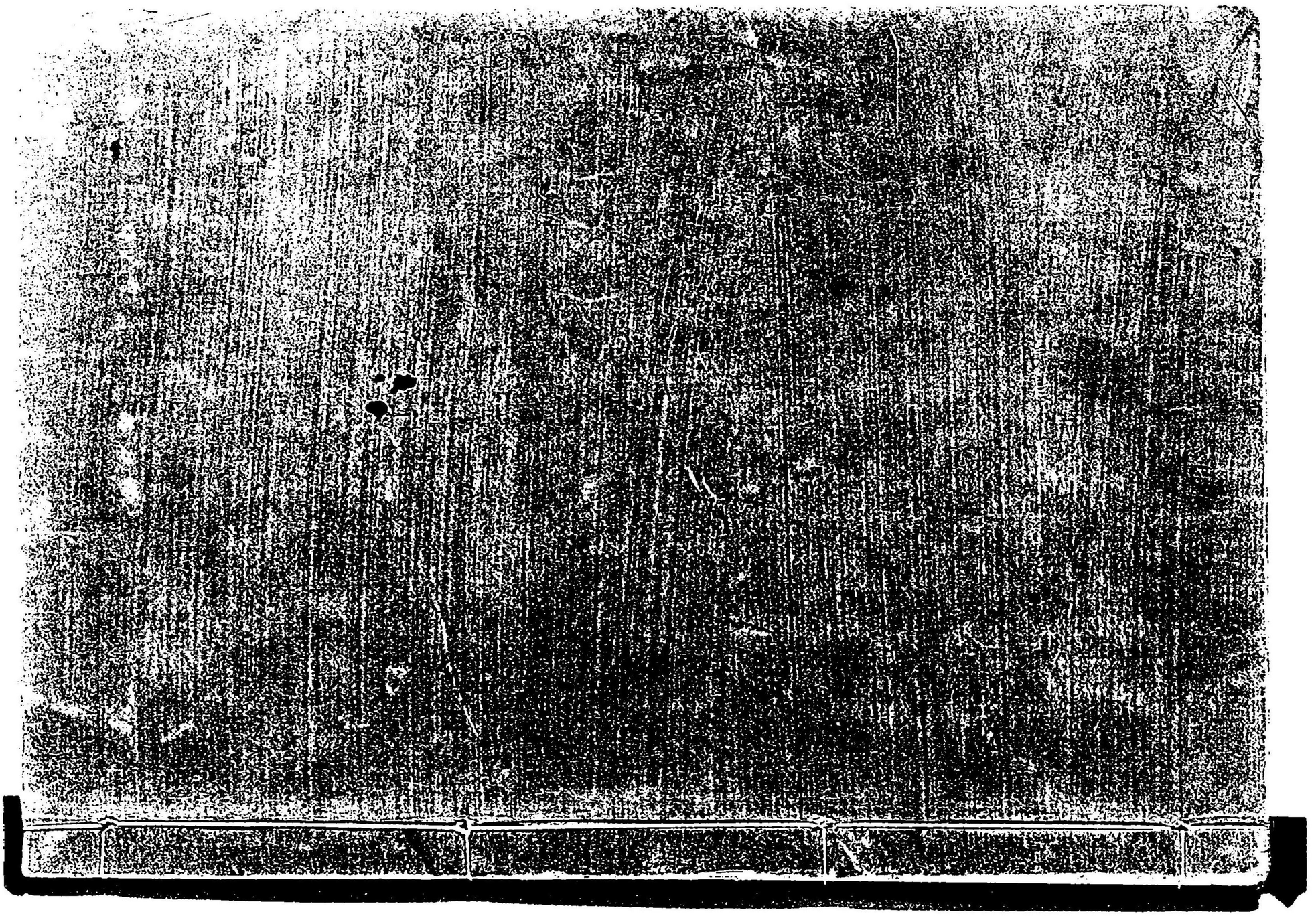




号を當寺に安置する呼の宗祖大士の像ハ日朗呼御首を彫刻
一日法師令體を造り添られしとハ體中三寸にいすの首
題の札を收めたり日朗等の真跡なりといひ
此御影始谷中感應寺に安置をえ縁四年彼寺改宗の時
擅家より八牧弥宗と云る有信の人ありしより此影像ならひに
三光天子大黒天等を其家ようつして崇敬ありしを後當
寺に安置しなりし境内安亜の七面大明神ハ花洛狩雲の
尼御呼随就寺殿仕女數馬女感得の霊像まして故ありて當寺
に安亜しなりと
正覚山妙源寺　同呼北本所番場町にあり日蓮宗にて下
野佐野妙顕寺より属と建武年間の草創にて中老僧天目
上人開山たりとハ總門の額正覚山の三大字ハ平林惇信の
筆跡にて洛日居と記しありと

半寶山最勝寺　明王院と号と同呼表町にあり天台宗にて
東叡山より属と本寺不動明王の像ハ良弁僧都の作なり當
寺ハ半鳴前の別當寺にて貞観二年庚辰慈覚大呼草創
良本阿闍梨開山たり寛永年間
の頃屢當寺へ　入御ありしとそらいふ其頃ハ假の御殿杯
営構なしとそらいふ
半鳴神明宮　同呼より並の相傳ハ貞観年間の法座なりと別
當を神宮寺と称して最勝寺兼帯と

太子堂　同呼え町にあり天台宗如意輪寺に安置ス本寺ハ聖徳太子

の像(ぞう)十六(じゅうろく)歳(さい)にて造(つく)りしものと云(いい)り當(まさ)に淳和
天皇(てんのう)の嘉祥(かしょう)年間(ねんかん)慈覚大師(じかくだいし)東國(とうごく)遊化(ゆうげ)の頃(ころ)の創建(そうけん)ならん帝百
畝(ぽ)の水田(すいでん)を寄附(きふ)ありしも太(いた)く天文(てんもん)の頃(ころ)此地(このち)兵燹(へいせん)の災(わざわい)に罹(かかり)
しとも堂宇(どうう)等(とう)江戸(えど)名所誌(めいしょし)にみえたり

国立国会図書館